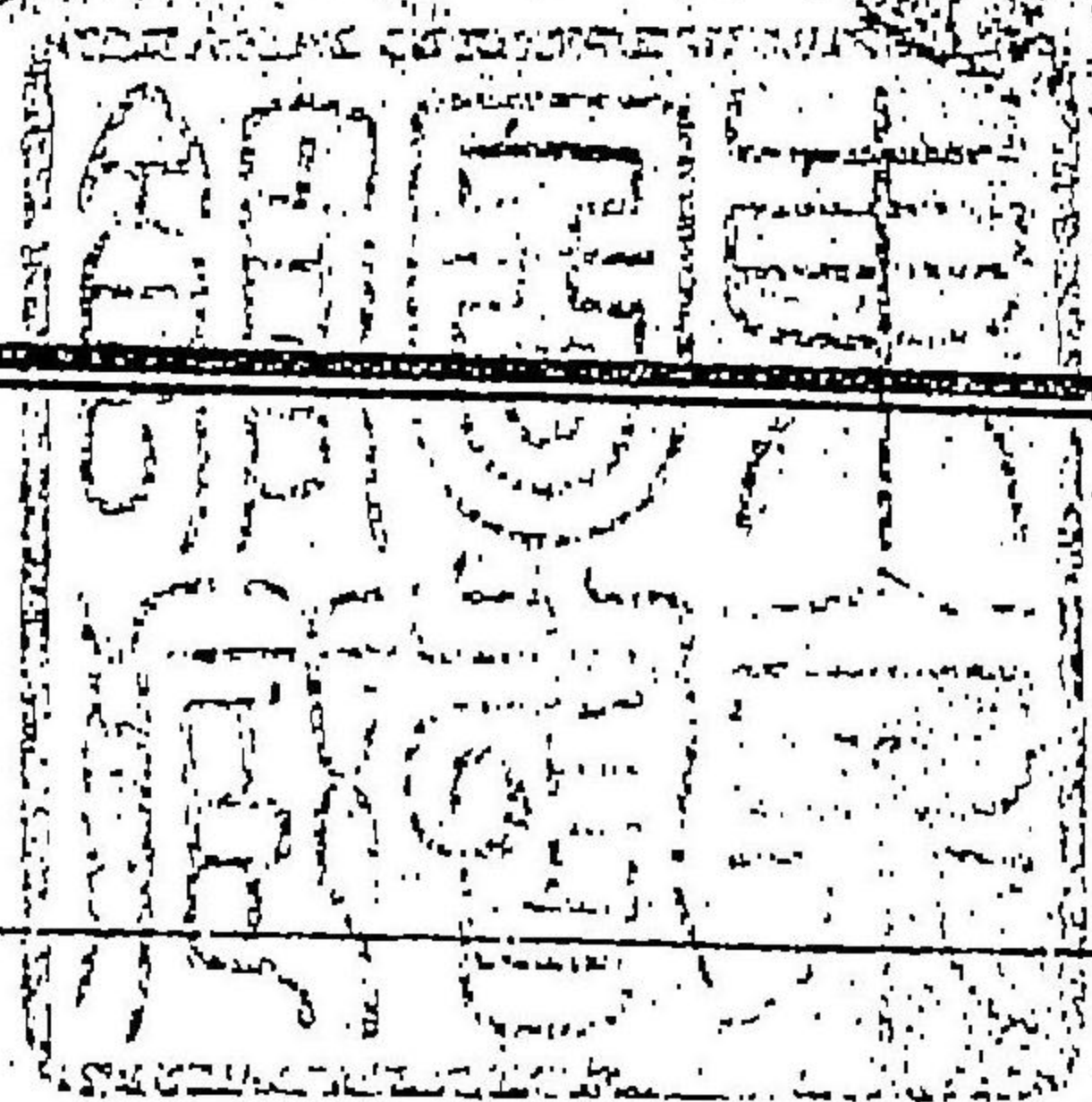


5/3

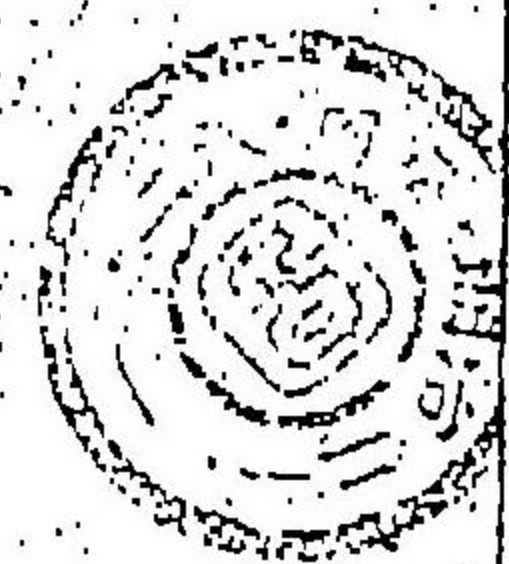
06109

27  
/



323/63  
MA98

英國憲法史



エルズキンメー 原著  
島田三郎 同譯  
乗竹孝太郎

第八編

議院政治ニ對スル政黨ノ勢力○英國政黨ノ主義及  
ヒ起元○民權黨及ヒ王權黨○ジョージ三世即位以  
來亞米利加戰爭ノ終局ニ至ルマテ政黨ノ概況○聯  
立内閣○ピット氏首領タリシ時ノ王權黨○佛國革  
命ヨリ政黨ノ上ニ及ボシタル影響○一千八百二年  
ヨリ同三十年ニ至ルマテ及ヒ爾後一千八百六十年  
ニ至ルマテ政黨ノ有様○政黨ノ性質及ヒ組織ノ變  
更



議院政治ニ對スル政黨ノ勢力

我國ヲ支配スル重要ナル各部局ノ政制ハ前諸篇之ヲ通論シタリ此等政制カ各自ニ行フ勢力及ヒ相合シテ行フ作用ノ如キモ亦既ニ之ヲ論シタリ而シテ此ノ如ク錯雜ニシテ此ノ如ク反對ノ諸勢力ヲ渾包スル一政躰ガ能ク協同調和ノ作用ヲ維持スル所以ノ者ハ專ラ之ヲ政黨組織ノ致ス所トナサ、ル可ラス蓋シ政黨ハ憲法上公認セラレタル一機關ナリト稱シ難シト雖モ實際議院政治ト相分離ス可カラズシテ其國家政治上ノ運命ニ及ボス勢力ハ善惡共ニ極メテ大ナリトス政黨ハ隱然トシテ國家ノ一層赫著ナル諸權力ヲ指導控制スルノミナラス時トシテハ全ク之ヲ主宰スルコアリ政黨ハ或ハ人民ニ對シテ國王及ヒ貴族ヲ翼贊スルコアリ或ハ人民ノ自由ヲ蹂躪スルコアリ或ハ國王ヲ廢

英國政黨ノ表スル主義

立シ若クハ脅迫スルコアリ或ハ宰相及ヒ議院ヲ壓倒スルコアリ或ハ貴族ヲ輕侮シ民權ヲ確立スルコアリ然レモ政黨ハ政府ノ基礎ヲ覆ヘサントスル所ノ衝擊ニ對シテ政府ノ組織ヲ保護シタリ政黨ハ或ハ起ルアリ或ハ斃ル、アリト雖モ各部局ノ政制ハ泰然トシテ不滅ニ永存シタリ左レハ政黨ノ事ヲ記スルハ英國歴史ノ大部分ヲ含ムト雖モ政治家ノ邪心隱謀猜忌ノ如キ官位志願者ノ貪慾ノ如キ各徒黨ノ私利ヲ謀ルガ如キ賤劣ナル點ハ忽々ニ論過シ去リ吾人ハ專ラ憲法上ノ自由ト善良ナル立法トヲ進退消長セシムルニ於テ政黨ノ勢力如何ナリシ乎茲ニ論セント欲ス英人ガ古今種々ノ名稱ヲ附シ相結合シテ對立セル政黨ハ政治ノ根本ノ主義ヲ表スル者ナリ即チ一方ニ於テハ主治



者ノ權カヲ表シ一方ニ於テハ民權及ヒ特權ヲ表スル者ナリ而シテ前者ハ之ヲ極端ニ追究スルキハ終ニ擅制政治ニ流レ後者ハ終ニ共和政治ニ陥ル可シ然レモ若シ之ヲ適當ノ區域内ニ管制スルキハ此二種ノ政黨ハ三權鼎立ノ政体ヲ安全ニ行ハレシメノガ爲メニ共ニ必要ナリトス政黨ニシテ此二主義ノ外ニ奔出シ一層賤劣ナル目的ヲ求ムルアラハ其政黨ナルモノ忽チ變性シテ徒黨トナラスンバアラズ

十六世紀ノ後年ニ至ルマテハ英國ノ人民四分五裂シ相比周シテ内亂ヲ事トシ國內爲メニ騷然タリシト雖モ決シテ斯カル有様ヲ以テ政黨ノ發達ト混同ス可カラズ此等ハ別ニ其本色トスル主義ヲ有セルニ非スシテ唯濫リニ武器ト

政黨ノ起元

粗暴反逆ノ所爲トニ訴ヘテ其目的ヲ達セントセリ又往時或ハ貴族ノ國王ニ對シテ争フアリ或ハ下院ノ國王ニ對シテ争フアリテ之ガ爲メニ吾人ノ貴重スル自由ヲ進メシコ少カラスト雖モ吾人ハ尙ホ之ヲ以テ政黨ノ起元ト爲スコ能ハス此等ノ争論ハ我祖先ガ自由ノ爲メニ激昂セルヲ證スル者ナリト雖モ之ヲ挑起シタル事件ノ經過シ去ルト同時ニ此等ノ争論モ亦止ミタリ即チ諸階級ノ人々互ヒニ其權利ヲ争ヒタリト雖モ常ニ反對ノ主義ヲ懷キテ相對峙スル所ノ議院政黨ナル者ハ當時未ダ發セサリシナリ

宗教改革ノ刺激ヲ受ケテ英國ノ評議會及ヒ議院ニ發生シタル政黨ノ萌芽ハ女王エリズベスノ世ニ至リ始メテ之ヲ見ルヲ得可シ當時「ピューリタン」宗派ハ議院ノ權利ヲ保護シ

「ピューリタン」  
宗派



宗教及ヒ政治ノ事ニ關シテ女王ノ特權ニ抵抗セシガ爲メ  
 ニ下院ニ於テ勇膽ナル精神ヲ以テ堂々論争セリ該宗派ハ  
 當時新定ノ禮拜規則ヲ修正シ且自黨ノ爲メニ寛赦ヲ得ン  
 一ニ盡カシセシル氏ウエルシソガム氏ヲ首トシ其他女王ノ  
 有名ナル參謀者ノ如キモ私カニ之ヲ後援シタリ政治上ノ  
 事ニ關シテハ該宗派ハ固ヨリ朝廷ノ贊助ヲ期スルヲ能ハ  
 スト雖モ既ニ結合シテ一黨ヲ組成シ其勢力ノ大ナルヲ自  
 信セシガ故ニ議院ニ入ラント熱心シテ周旋到ラサルナク  
 終ニ王權ノ他ノ反對者ト相合シテ下院ノ多數ヲ制スルニ  
 至レリ

「スチユアート」  
 家ノ時ニ於テ  
 政黨ノ爭論

一千六百一年ニ至リ該宗派ハ特許狀ヲ以テ專賣權ヲ與フ  
 ル女王ノ處置ニ抵抗シテ勝ヲ制シ以テ其勢力ノ大ナルヲ

示セリ女王ニ續キテ王位ニ立テルゼームス一世ハ人ト爲  
 リ懦弱ナルガ上ニ無謀ニモ其王權ヲ擴張セントシタリケ  
 レハ一層激烈ナル抗爭ヲ受クルニ至レリ王ハ國王神權ヲ  
 有ストノ主義ヲ主張シ加フルニ國教黨ハ暴慢無禮憚ル所  
 アラサリシカハ國王ト「ピューリタン」大黨トノ乖離ヲ更ニ甚  
 シカラシメ而シテ大ニ民權黨ノ勢力ヲ増加セリ該黨中最  
 モ名アリシハサンデース、コーク、エリチャド、ゼルデン、ピイム  
 ノ諸氏ニシテ此等諸氏ハ議院内ニ組織セラレタル政府反  
 對黨ノ最初ノ領袖ナリト稱シテ可ナラン  
 チャーレス一世ノ擅制トストラップホルドノ大膽ナル策トロ  
 ドノ迷執トハ相反對スル政治上ニ大主義ノ衝突ヲ益々激  
 烈ナラシメ全國ノ人民ハ「カヴァリエル」黨即チ王室黨ト「ラウ



ノドヘッド黨即チ議院黨トノ二派ニ分レタリ一方ニハ王  
 室黨王權ヲ極端ニ擴張セントシ一方ニハ議院黨人民權ヲ  
 防禦セントシ名譽心ト確執トノ爲メニ激セラレテ共和主  
 義ノ極端ニ狂奔セリ而シテ當時相抗爭シタル主義及ヒ政  
 黨ハ爾後名稱ヲ異ニシ事情ヲ異ニシテ依然其活力ヲ維持  
 シタリ(按)ストラッポルドハ初メ議員トナリテ最モ勇敢ニチ  
 十八年貴族ノ爵ヲ得ルニ暴政ニ抗シタリト雖モ一千六百二  
 十八年又愛爾蘭ノ國王代理官トナレハ王ヲシテ殺  
 歸シ又擲權ヲ握ラシメ人民ノ權利自由ヲ蹂躪シテ生殺  
 與奪ノ權ヲ握ラシメ人民ノ權利自由ヲ蹂躪シテ生殺  
 立テ破壞シテ政府ニ對シテ不平ヲ抱ク者ヲ嚴罰ニ處セ  
 計畫シテ刻々シテ雖モ人民ノ捕縛力強クテ彼院及ヒ王ノ  
 メニ彈劾ヲ遂ニシテ後六十四年五月十二日彼院及ヒ王ノ  
 テリ又ロイドハエビスコバシノ宗派ノ爲メニ最モ熱心  
 テビュリタンドノ宗派及ヒ議院ニ敵シタル人ナリカ  
 時ヨリ累進シテ遂ニ一千六百三十三年ニ至リカ  
 リノ大僧正トナリ又チヤールス王ノ爲メニ重用セラレ  
 政ニ與リタリ且種々苛嚴ナル處置ヲ施シテ他宗ノ人ヲ壓

民權黨及ヒ王  
 權黨

シタルカ故ニビュリタンドノ宗派及ヒ議院ノ最トモ惡ム所ト  
 ナリ一千六百四十五年一月十日下午院ハ彼ヲ死刑ニ處シ  
 リ  
 チヤールス二世ハ前王ノ經驗ニ鑑ミテ自カラ戒シムルヲ爲  
 ササルノミナラス共和政府ノ處置過激ニ流レタルニ促サ  
 レテ私カニ王權ヲ復興セント企テスチユアト「家前諸王ト  
 同様ノ無謀ナル政畧ヲ採リタリ而シテ「コールト、パーチ」  
 即チ朝廷黨ハ王ノ政畧ヲ翼賛シ「カウントリ、パーチ」即  
 チ國友黨ハ之ニ抵抗セリ  
 一千六百八十年ニ至リ王位拒絕議案ニ關シテ此二政黨大  
 ニ相爭ヒ此時ヨリシテ夫ノ有名ナル「フガ」黨即チ民權黨及  
 ヒ「ト」リ「黨」即チ王權黨ノ名稱始メテ起レリ(按)王位拒絕  
 「ク公」即チ「ゼ」ムス二世「カ」羅馬舊教ヲ奉スルノ議案ナリ故抑々此  
 チ以テ其王位繼續ヲ拒絕セントスルノ議案ナリ



名稱ハ初メ世人ガ二黨ヲ嘲弄誹譏スルニ用ヒタル所ナリ  
 ト雖モ遂ニ國家ノ自由ト安寧トニ必要ナル二大主義ヲ表  
 スル所ノ二大政黨ノ名稱トナルニ至レリ而シテフ<sup>非</sup>黨ハ  
 自由主義ヲ懷キ議院及ヒ人民ノ獨立權ヲ保護シ法律ヲ犯  
 セル國王ニ抵抗スルノ正當ナルヲ主張セリ之ニ反シテト  
 ーリ<sup>ト</sup>黨ハ國王ハ侵ス可ラサル神權ヲ有スト爲シ王權ハ  
 神聖ニシテ臣民ハ唯命惟從フノ外アル可カラズト主張セ  
 リ此二政黨ハ固ヨリ共ニ國王ヲ奉戴スト雖モ民權黨ハ王  
 權ヲ法律ノ制限内ニ局束セント欲シ王權黨ハ宗教及ヒ政  
 治ノ事ニ關シテ擅權ヲ冀望シタリ（按）フ<sup>非</sup>グ<sup>ト</sup>ル語ハ元ト蘇  
 格蘭西部地方ノ農民ヲ  
 稱スル綽名ニシテ一説ニ據レハフ<sup>非</sup>グ<sup>ト</sup>ハ該地方ノ農民カ馬ヲ  
 追フキニ發スルノ語ナリシニ因ルト云フ而シテ此語ハ後  
 ニ蘇格蘭ノブレニスビ<sup>ト</sup>テリアン宗派ノ熱心家ノ綽名トナリ  
 終ニ英國ニ於テ朝廷ノ權力ニ反對シ新教黨カ當時ノ國教

一千六百八十  
 八年ノ革命後  
 ノ政黨

禮規ヲ遵奉セサルヲ寬赦ス可シトノ說ヲ唱ヘタル政治家  
 ノ綽名トナレリ又ト<sup>ト</sup>リ<sup>ト</sup>ナル語ハ與ヘヨ<sup>ト</sup>ノ意味  
 ヲ含ム愛爾蘭語ノ變化セシ者ニシテ此語ハ原ト羅馬教  
 ノ主義ヲ公唱シテ半ハ盜奪ヲ營ミ半ハ叛逆ヲ企テタル一  
 隊ノ追放人ヲ稱スル綽名ナリシガ漸次ニ法王黨ヲ稱スル  
 綽名トナリ遂ニ英國ニ於テ王位拒絶議案ニ抵抗セシ政治  
 トナレリ  
 ゼームス二世ハ人民ノ信仰及ヒ自由ヲ攻撃シテ飽クヲ知  
 ラザリシカバ流石ノ王權黨モ一時ハ民權黨ト相聯合シ自  
 黨平素ノ主義ニ背戾シテ危險ナル擅制者ゼームスヲ王位  
 ヨリ除カサル可カラズト爲シ乃チ此事ニ關シテ力ヲ民權  
 黨ニ協セタリ而シテ此革命ニ因リ民權黨ノ主義十分ニ勝  
 チ制シ立憲政體ノ基礎ナリト確認セラレシカバ二黨ノ主  
 義モ稍々變更ヲ受ケザリシニ非ズト雖モ而カモ二黨對峙  
 シテ互ニ黑白相反スルノ主義ヲ表シタルハ毫モ昔日ニ異



ナラザリキ即チ民權黨ハ依然王權ヲ適當ノ範圍内ニ制限  
 シ且信仰ノ自由ヲ擴張セノヲ勉メ又王權黨ハ國王ノ特  
 權ヲ伸張シ國教ノ主義ヲ採リテ異國教ノ宗派ニ抵抗セリ  
 而シテ王權黨中頑固ナル輩ハ新政府反對黨若クハゼーム  
 ス黨ト稱シテ從來ノ王權主義ヲ確執セリ

ウイリアム及ヒアンノ世ニ於テハ此二政黨互ニ抗爭隱謀ヲ  
 事トシ勝敗常ナカリシト雖モ民權黨終ニ勝ヲ制シテ立憲  
 政體ヲ確立スルニ至レリ然レモ王權黨ハ其頑固ナル主義  
 ヲ確執シ志ヲ失ヒタルヲ忿怒シ徒黨的ノ暴行ヲ濫ニシ不  
 平反逆内亂ヲ以テハノーベル家ノ最初二王ノ世ヲ騷然タ  
 ラシメタリ一千七百四十五年僞王ノ全ク敗ル、ニ及ヒゼ  
 ームス黨亦隨テ斃レシカハ王權黨ハ始メテ純然タル國家

ノ一政黨トナリ尙ホ從來ノ主義ヲ固執シテゼームス家ニ  
 盡スノ忠誠ヲ移シテ當代ノ國王ニ盡スニ至レリ而シテ此  
 際政治上ノ事情變スルニ從ヒ二政黨ノ主義トスル所モ亦  
 變シタルハ當然ナリト稱ス可シ蓋シ民權黨ハ當時常ニ主  
 治者ノ位置ニ立チタリケレハアンノ死後四十年以上ノ間  
 ハ議院政治ニ關シテ國王ノ權力及ヒ威勢ヲ鞏固ニセン  
 ニ盡カシタリ然ルニ又王權黨ハ政府ニ反對スルノ位置ニ  
 立チシヲ以テ其辯護シ得可ラサル僻說ヲ擲棄シテ議院及  
 ヒ人民ノ正當ノ權利ヲ承認セサル可ラサルニ至レリ加之  
 民權黨ハ實際ニ政柄ヲ握リシヨリ自黨ノ利益ヲ謀リテ施  
 政上不知不識其本色ヲ忘ル、ノ傾向アリケレハ王權黨ハ  
 巧ミニモ民權黨ノ人望アル主義ヲ假用シテ以テ宰相ニ抵



抗シタリ左レハ王權黨タリシボーリングブローク、ウヰンド  
 ハム、ジッペンノ諸氏ハ議院ノ期限ヲ短縮スルハ憲法上ノ德  
 義ヲ維持スル所以ナルヲ主張シ議院ノ陋習ノ危険ナルヲ  
 痛論シ又國王ノ不當ノ權勢及ヒ常備兵ノ有害ナルヲ論難  
 シタリ

政黨員ヲ出ス  
 人民ノ階級

然レモ二政黨根本ノ主義ハ歲月ノ經過ト事情ノ變遷トニ  
 關セス概テ維持セラレテ變スルナク又二政黨ニ勢力ヲ與  
 フル所ノ人民ノ階級ノ如キモ敢テ變ゼザリキチャーレンス一  
 世ニ與ミセシ王黨ハ專ラ領主貴族、地方紳士、重モナル郷士、  
 國教黨、大學校議員ヨリ成リ又議院黨ハ重モニフリースー  
 ルド、借地者ノ小ナル者、市邑ノ住民、國教ヲ奉セザル新教派  
 ノ宗徒等ヨリ成レリ爾後七十年ヲ經過シヨージ一世ノ

即位スルニ及ヒテモ右ノ諸階級ハ主義ノ異同ヲ以テ互ニ  
 分レシテ毫モ徃時ニ異ナラザリキ蓋シ地主ト借地者及ヒ  
 村落ノ人民トノ間ニハ封建的ノ關係存シ且地主ハ國教黨  
 ト相親和シ又其國王ニ忠誠ナルハ古來ヨリノ常習ナルヲ  
 以テ隨テ其祖先ト同一ノ政治主義ヲ執リテ王黨ニ與ミセ  
 リ又村落ノ人民ハ地方紳士ヨリ保護惠與ヲ受ケ又慈善及  
 ヒ宗教ノ事ニ關シテハ寺長ニ恩ヲ荷フカ故ニ人民ノ主權  
 ヲ主張スルノ念ハ自カラ其間ニ發セサルナリ此等ノ輩ハ  
 貧困、無學、從順ニシテ生來小兒ノ如キ取扱ヲ受クルニ適シ  
 政權ニ參與スルガ如キハ寧ロ其願フ所ニアラサルナリ  
 之ニ反シテ商業製造ノ盛ナル市邑ニ於テハ人民企業ノ精  
 神ニ富ミ藝術ニ巧ミナルヲ以テ勢ヒ自治ノ制度ヲ求メ民



權黨ノ主義ヲ抱懷セリ商賈及ヒ工匠ハ身平民社會ヨリ起  
 レルヲ以テ驕傲ナル地方豪族ヨリハ其交際ヲ拒絕セラレ  
 毫モ之ト感情利害ヲ共ニスルコトナシ且市邑ノ施政ニ與リ  
 テ自治ノ制度ニ慣熟シ又平生繁劇ナル職業ニ從フガ故ニ  
 活潑ナル政務及ヒ進歩ハ其自然ニ適スル所ナリ加フルニ  
 其歴史ヨリスルモ商賈及ヒ工匠ハ王室ニ抗シテ議院及ヒ  
 人民ニ黨スルヲ古昔ヨリノ例トセリ蓋シ商賈及ヒ工匠ハ  
 氣慨才能ニ富メル勇敢ナル市民ト共ニ一市内ニ集居シテ  
 常ニ相談論スルガ故ニ隨テ國家ノ政務ニ關シテ民權主義  
 ニ傾ケル輿論ヲ起スニ至レリ又嚴肅ナル非國教黨アリテ  
 地方村落ニ於テハ尙ホ知ラル、ナシト雖モ市邑ニ於テハ  
 既ニ人民ヲ獎勵鼓舞シ其世襲ノ敵トスル所ノ寺院及ヒ政

府ノ權力ヲ破ラシコトニ盡力セリ

「ハノ」ゾル家諸王ノ時ニ於テ民權黨ノ宰相及ヒ該黨ノ大  
 地主ガ援助ヲ得タルハ斯カル市邑ノ人民ヨリセシナリ民  
 權黨中ニモ地主アリテ此等ノ人々ハ或ル州郡及ヒ指名選  
 舉ノ城市ノ代議ヲ左右シ得ベシト雖モ小城市ノ大半ハ概  
 テ王權黨ノ地方紳士ニ服セルガ故ニ若シ民權黨ニソ漸次  
 ニ其數ト勢力トヲ増ス所ノ富商鉅工ノ同盟ヲ得ル微リセ  
 ハ議院ノ爭論上王權黨ニ對シテ衆寡相敵スルコト能ハザリ  
 シナラン此等ノ人々ハ財產權勢ニ富ムガ故ニ漸次ニ城市  
 ヲ地方紳士ノ手ヨリ奪取シ終ニ民權黨ヲシテ多數ヲ制セ  
 シムルヲ得タリ左レバ我國ノ富ト商權トノ増進スルニ從  
 テ人民ノ自由ヲ維持スルコト益々固ク之ヲ擴張スルコト愈々



大ナルニ至リシハ當然ナリトス人民社交上ノ有様先ツ改  
良シテ權利ヲ享有シ得ルノ位置ニ達スルヤ即チ之ヲ享有  
シタルナリ

ジョージ三世  
ノ即位前王權  
黨ノ衰頹

此時ニ方リ民權黨久シク内閣ニ立チゼームス黨愈々信用  
ヲ失ヒシカバ王權黨中城市ニ對シテ權勢アル者ノ如キモ  
其ノ説ヲ擲テ政府黨ニ與ミセシ者多シ之ニ加フルニ當時  
議員選舉上ニ行ハレタル陋習ヲ利用シテ多數ヲ制スルヲ  
得シカバ民權黨ハロベルト、ウアルポール氏執權ノ時マデハ  
常ニ其政權ヲ維持シ爾後ト雖モ他黨ト同盟シテジョージ  
二世死セシ時マデハ依然其政權ヲ維持シタリ此際該黨ノ  
施セシ政略ハ一二我自由ノ進歩ヲ遮斷セシ者ナキニ非サ  
ルモ大體ヨリスレバ穩和ニシテ能ク憲法政治ノ理論ヲ遵

新王位ニ即ク  
ニ及ンテ王權  
黨其期望ヲ復  
ス

守シ當時政治上ニ行ハレタル陋習ト兩立シ得可キ丈ケハ  
公正ニ政機ヲ運轉シタリト言フ可シ而シ今ヤ王權黨ハ憫  
ム可キノ小數トナリ落膽失望シ果テタルガ上ニ一千七百  
五十一年ニ至リウエルズノ太子(按)ジョージ三世ノ父及ビ  
ポリーングブローク氏共ニ逝キシテ以テ該黨ガ將來ニ屬  
スル好望全ク絶ヘタリ是ヲ以テ該黨中或ハ去テ政府黨ニ  
行ク者アリ或ハ鬱々沈黙シテ私カニ零落セル自黨ノ主義  
ヲ心中ニ愛養セル者アリキ然ルニ新王(即チジョージ三世)  
ノ位ニ即クヤ該黨ヲシテ俄然其期望ヲ恢復セシメタリ蓋  
シ若年ナル此新王ハ「レイセスマ」家ニ於テ養育セラレ幼  
時受ケシ教育ト交際トハ夙ニ王ヲシテ此小朝廷ニ行ハル、  
王權主義ニ心ヲ傾ケシメタリ左レバ王ノ政治主義ト云ヒ



其志望ト云ヒ其親族ニ對スル愛情ト云ヒ其朋友ニ對スル  
 信誼ト云ヒ一トシテ其心ヲ王權主義ニ傾ケシメザルハナ  
 ク其英王トナリテセントジエームス宮ニ來ルヤレイセスダ  
 「家ニ於テ之ニ親侍セシ朋友ハ凡テ從ヒ來レリ是ヲ以テ  
 王ハ忽チニ王權黨ヲ再興スルノ首領トナリ該黨ハ前二代  
 ニ於テハ落膽失望ヲ受ケ凌辱侮蔑ヲ蒙リタリト雖モ今ヤ  
 此新代ニ於テハ其主義ヲ再興シ其世傳ノ政略ヲ實行スル  
 ニ最モ便利ナル事情ニ會シタリ夫レ王ヲ戴キ其旗下ニ散  
 卒ヲ招クハ該黨ガ常ニ其秘訣トスル所ナリ王權ヲ尊崇シ  
 國王ニ忠誠ヲ盡スハ該黨ガ常ニ揚言スル固有ノ主義ナリ  
 權力ノ泉源ハ凡テ上ニ在リトスルハ該黨ガ常ニ主持スル  
 宿説ナリ而シテ今ヤ之ニ向テ忠節ヲ求ムル若年ナル新王

其間ニ起リタリ是ニ於テ乎王權ノ我政府中ニ輝キテ卓然  
 他ノ諸權力ヲ凌キ之ニ抗スルノ政治家及ヒ政黨ハ悉ク壓  
 服セラレ蹂躪セラル、ノ時チ今マ一度見ザル可カラザル  
 ニ至レリ而シテ王ヲ翼贊シテ王權ヲ恢復スルハ固ヨリ王  
 權黨ノ主義歴史ヲ有スル人々ニ如カサルナリ曩キニ「スチ  
 ュアト」家ノ諸王ニ忠誠ヲ盡シ王權政治ヲ維持スルニ力  
 ヲ致シタルノ政黨ハ朝異ナリ政治上ノ事情變シタル今マ  
 ニ於テモ尙ホ王權ヲ擴張スルニハ最モ適當ノ機關ナリト  
 ス

王、民權黨ノ  
 破壊ニ盡カス

王ガ即位後幾時ナラズシテ直チニ民權黨ノ諸宰相ヲ斥ケ  
 其寵スル王權黨ノ領袖ビート公ヲ舉グテ首相トナセシメ  
 ハ第一篇ニ之ヲ論シタリ王ハ剛毅動カス可カラザルノ志



望ト巧詭ナル術策トナリテ時ニ乘シ機ニ投シテ民權黨ヲ  
 離間シ以テ該黨ノ勢力ヲ削リ以テ王權黨ノ勢力ヲ張ラン  
 一ニ盡力シタリ王ハ彼我ノ區別ナク各黨ノ人ヲ共ニ用フ  
 ルヲ政略トシタリト雖モ特ニ王權黨ノ人及ヒ自黨ヲ脱シ  
 タル民權黨ノ人ヲ重用シタリ故ニ其治世ノ初メニ組織セ  
 ラレタル内閣ハ何レモ諸政黨ノ聯立セシ者ニ非ザルハナ  
 カリキ蓋シ民權黨ハ一撃以テ之ヲ覆ヘス一能ハサリシガ  
 故ニ唯漸々ニ之ヲ除キテ代フルニ朝廷ノ命ニ欣從スルノ  
 輩ヲ以テセリ該黨ハロッキンガム公ヲ首相トシテ一時位置  
 ヲ内閣ニ復セシト雖モ暫時ニシテ覆ヘサレ而シテ之ニ代  
 テ立チシ所ノグレフトン公ノ内閣ハ其ノ組織實ニ奇異ナ  
 ル者アリキ即チボルク氏ノ語ヲ借リテ之ヲ言ヘバ此内閣

黨員ノ多少ハ  
 標準ニアラズ

ハ愛國者朝臣王ノ朋友共和黨民權黨王權黨反逆ナル友公  
 然タル敵等相混合シテ組織セリ而シテチヤタム公去ルニ及  
 ンテ王權黨ノ勢力内閣ニ振ヒ更ニカムデン公退クニ及ン  
 デ内閣ハ全ク王權黨ノ内閣トナレリ今ヤ王ハ民權黨ノ政  
 治家ヲ除クヲ得ルナリ故ニ當代ニ組織セラレタル第一ノ  
 内閣ハ原ト王權黨ヨリ成リシ者ニシテ王ハノルス公ヲ舉  
 ゲテ之ガ首相トナセシト雖モ尙ホ内閣ヲ鞏固ニセント欲  
 スルヨリ機ヲ失ハズグレンゾナル公及ビベツドフォールド公ヲ  
 加ヘテ聯立内閣ト爲セリ  
 此時朝廷ハ如何ナル政治上ノ結合ヲモ徒黨ナリトシテ非  
 難シ人ヲ内閣ニ舉クル唯一ノ標準ハ其才ノ如何ニ在リト  
 ノ説ヲ主張セリ此主義タルヤ王ノ權力ヲ増加シ政府反對



黨ノ勢力ヲ殺グニハ最モ適シタル者ナリ又此主義ハ漸々民權黨ノ人ヲ最高ノ位置ヨリ除キ代フルニ王權黨ノ人ヲ以テスルヲ得セシムル者ナリ而シテ民權黨既ニ覆ヘサレ王權黨之ニ代テ確立スルニ及ンデハ朝廷ハ反對黨ヲ傷クルガ爲メノ外ハ復タ此主義ヲ唱ヘザリキ

王ノ朋友及ヒ  
王權黨ノ連合

王權黨斯ク速ニ再興セラル、ニ當リ王ノ朋友ト稱スル一黨ノ組織セラレタルガ爲メニ益々此事ヲ便ニシタリ此一黨ニ屬スル人々ハ多クハ原ト王權黨ニ屬セシ人々ニシテ且何人ト雖モ一旦此黨中ニ入リシ者ハ速ニ王權黨ノ主義ニ歸依セザルヲ得ザルナリ地方紳士ハ五十年間朝廷ノ愛ヲ失ヒシニ今ヤ大ニ優待厚遇セラレ、所トナリ王ノ笑顔ノ爲メニ鼓舞セラレテ其平素ノ主義ヲ守リ再ヒ政治壇上

反對黨ノ位置  
ニ立テル民權  
黨

ニ馳騁シ得ルニ至レリ且更ニ他ノ階級ヨリ加ハ、リテ此一黨ヲ補充セル者アリ従前ハ地方豪族ニ關係ナキ新出ノ政治家ハ概テ民權黨ニ屬シ又十分ニ民權黨ノ主義ニ歸依セザル者ト雖モ一方ニ於テハ地主ノ猜忌ニ逐ハレ一方ニ於テハ政府ノ恩惠ニ引カレ自然ニ民權黨ニ入籍シタリ然ルニ今ヤ此等ノ政治家ハ同一ノ甘餌ノ爲メニ朝廷黨ニ加入スルニ至レリ而シテ従前民權黨ガ利用シテ議院ニ多數ヲ制スルノ手段ト爲シタル選舉上ノ陋習ハ今ヤ其競争者タル王權黨及ヒ王ノ黨友ノ爲メニ利用セラレ、ニ至レリ此ノ如ク民權黨ハ次第ニ政權外ニ驅逐セラレシテ以テ今ヤ又其久シク怠リタル民權主義ニ據ラザル可ラザルニ至レリ該黨ハ尙ホ貴族的ノ一體タルハ従前ニ異ナラズト雖



此最早ヤ族縁ヲ頼ミテ其勢力ヲ維持シ得可カラザルガ故  
 ニ今ヤ身ヲ挺ジテ人民ノ領袖トナレリ且王權主義復興シ  
 テ政治上ニ勢力ヲ逞ウシタレバ民權黨ノ代表スル自由ノ  
 精神モ其刺激ヲ受ケテ再ヒ發揚シタリ左レバ民權黨ハ王  
 權ノ危険ナル濫用ニ抵抗シ議院權力ノ過度ノ擴張ニ抵抗  
 シ亞米利加植民地ノ課税ニ抵抗シ議院討論ノ公刊及出版  
 版ノ自由ヲ主張シ又議院ニ行ハル、陋習ヲ發キテ之ヲ痛  
 論シタリ然レニ民權黨中ノ諸豪族互ニ猜忌嫉妬セルノ故  
 ヲ以テ大ニ一政黨タル同黨ノ勢力品格ヲ毀損シタリペル  
 ハム公、ロツキンガム公、ベツトフカルド公、グレンヅル公、チヤ  
 タム公ノ黨與ハ互ニ權柄ヲ争フニ汲々シ反テ人民ノ利益  
 ナ忘却セシコ少ナカラズ然レニ該黨ニ最モ惡評ヲ下マス

王權黨改革ニ  
抵抗ス

者ト雖ニ該黨ガ當代ノ初メヨリロツキンガム公ノ死ニ至  
 ルマテ常ニ人民自由ノ爲メニ盡力セシコテ拒ム能ハザル  
 可シ該黨ノ氣力ヤ頗ル壯ニ之ヲ率ユル諸領袖(即チチャタム  
 公、フックス氏、カムテン公、ボルク氏、シヨリデン氏等)ノ才幹辨  
 舌ヤ眞ニ非凡ニシテ該黨ハ能ク輿論ヲ動カシ朝廷黨ノ擅  
 制主義ヲ控制緩和スルヲ得タリ當代最初ノ内閣ハ傲然トシ  
 テ無責任主義ヲ唱ヘシト雖モノルス公執政ノ末年ニ及ン  
 テハ斯カル驕氣モ大ニ衰ヘタリ討論ノ自由ハ民權ニ害ア  
 ル主義ヲ壓倒シ又議院討論ノ公刊ハ當時既ニ兩黨ノ行爲  
 上ニ幾分ノ好結果ヲ現ハシタリ  
 王權黨ハ人民ノ自由ニ害アル主義ヲ擲棄シタリト雖モ之  
 ト同時ニ從來該黨ノ本色ナラザリシ新主義ヲ懷クニ至レ



リ抑々王權ヲ尊崇シ加之擅制權ヲ主張スルハ必ズスシモ法律ノ改良ヲ謀ルコト兩立シ得可カラザルニ非ズ遠クシテハシヤスチニアン大帝ノ如キ近クシテハナポレチン大帝ノ如キ何レモ擅制君主タリシニモ拘ラズ成法者タルノ榮名ハ輝々トシテ永ク萬世ニ垂レタリ然ルニ王權黨ハ之ト反シ我法律ノ改良ヲ厭惡嫌忌シ改革ヲ視テ以テ政治上ノ害惡ト爲スニ至レリ此ノ如キノ邪說ハ其何派ニ屬スルヲ問ハズ苟モ政治家タラン者ニ副ハザル所ナリト雖モ尙ホ該黨ヲシテ此邪說ヲ懷クニ至ラシメタルハ數多原因相合シテ之ヲ然ラシメシナリ夫レ王權黨ハ昔ヲ追慕シ前代ニ於テ「スチユア」ト家ヲ復位セシメ革命ヲ排却セントシタル人々ノ如キハ其情自ラ改進ト相親マザルナリ且該黨ガ今マ

恢復シ得タル權力ハ王權及ビ現行ノ政略ト相密着セリ故ニ自黨ノ權力ヲ制限スルノ目的ヲ以テ反對黨ガ主張スル法律改革說ニ抵抗スルハ亦勢ノ然ル可キ所ナリ又該黨ヲ組織スル黨員ノ性質如何ヲモ忘ル可カラズ其ノ最上位ニ立ツハ則チ王ニシテ王ヤ知見狭ク偏僻頑牢在ク可カラザルノ強情ヲ有シ理學政術共ニ窺フナク其畢世ノ施政主義トスル所ハ腕力權謀ヲ以テ己レノ強情ヲ貫カントスルニアルノミ而シテ王權黨ノ本陣ヲ組織シ王ガ權力信任ヲ與ヘタル輩ノ中ニハ地方紳士アリ僧侶アリ法律家アリ而シテ其地方紳士タルヤ舊態ヲ墨守シテ變テ好マズ其僧侶タルヤ己レノ職任上ヨリ過去ヲ尊崇スルノ情ニ厚ク其法律家タルヤ舊慣先例ヲ是レ奉シ獨リ己レノ學習講解シタル法



亞米利加戰爭  
ニ因テ表明セ  
ラレタル兩黨

律ヲ尙ブテ知リテ一層高尙ナル法理ヲ研究スルヲ願ハズ  
黨員ノ人ト爲リ夫レ斯ノ如シ故ニ彼輩ハ現狀ニ甘シ苟モ  
改革ヲ施スハ非常ノ危險アリトシ之ヲ恐懼セリ王ガ一千  
七百八十年ニ新法ヲ施スノ危險ナルヲ人民ニ諭示シタル  
ガ如キ又王ノ朋友リグビー氏ガピット氏第一ノ議院改革  
案ニ反對シ一切ノ新法ハ危險ナル空理上ノ經驗ナリト論  
シタルガ如キ皆此精神ニ出ルナリ此主義ヤノルス公宰相  
タルノ時ニ始メテ創唱セラレピット氏及ヒ其黨友中ノ有  
識ナル者ハ決シテ之ヲ諾受セザリシト雖ヒ王權黨ノ多數  
ハ之ヲ以テ自黨ノ教則ト爲スニ至レリ  
亞米利加戰爭ニ關スル爭論ハ二黨相異ナルノ主義ヲ表明  
セリ夫レ叛逆ヲ鎮定シ國譽ヲ維持スルハ政府ノ職務ナリ

ノ主義

而シテ當時民權黨ヲ内閣ニ在ラシメハ必スヤ此責任ヲ承  
認セシナラント雖ヒ王權黨ハ王ノ爲メニ率井ラレ叛逆セ  
ル殖民者ニ對シテ深ク怨恨ヲ含ミタルハ是レ該黨固有ノ  
主義ヲ現ハセシ者ト云フ可シ該黨ノ見ヲ以テスレハ叛逆  
ハ天人共ニ容レザルノ罪犯ニシテ政府如何ニ權利ヲ害ス  
ルアルモ臣民タル者決シテ謀反ヲ企ツ可キニ非ズト爲セ  
リ此說ノ如キハ王權黨普通ノ感情ニ最モ投合スル所ナレ  
バ該黨ハ相結シテ之ヲ唱ヘ朝廷、地方紳士、僧侶ハ幾何  
ノ人命及ヒ國財ヲ費ヤスモ必ズ叛逆ヲ征服セザル可ラザ  
ルヲ異口同音ニ主張セリ而シテ該黨ハ下院非常ノ多數黨ト  
國內ノ最モ有權ナル階級トノ賛成ヲ得タリ是ニ反シテ民  
權黨ハ該黨固有ノ第一主義ヲ固執シ英國臣民ハ凡テ其代



議士ノ決議ニ從テ自カラ負擔スル租稅ヲ自カラ定ムルノ  
 權アルヲ主張シ壓制及ビ不正ニ抵抗セリ而シテ該黨ハ米  
 國ト講和スルニ盡力シタリト雖ヒ議院内之ヲ贊成スル者  
 甚ダ少ナク又國內ニ於テハ當時毫モ勢力ナカリシ勞役者  
 ト平和ノ恢復ヲ己レノ利益トシテ專ラ該黨ニ左袒セシ商  
 人トノ外ハ殆ト之ヲ贊成スル者アテサリケレバ其說更ニ  
 行ハル、ヲ得ザリキ  
 當時有權黨ノ復讐ニ熱心ナルヤ實ニ甚シク民權黨ノ領袖  
 ハ若シ亞米利加ニシテ征服セラル、アラジニハ英人ノ自  
 由モ亦危カラシテ恐レシ程ナリキ  
 民權黨ハ政府ノ處置ニ抗シ極論痛議シタリト雖ヒ其說到  
 底行ハレザリシヲ以テ一千七百七十六年十一月ニ至リ相

一千七百七十  
 六年民權黨議  
 院ヲ退キシ

携ヘテ議院ヲ退キ亞米利加戰爭ノ問題ニ與カルヲ爲サド  
 リキ是レ蓋シ此事ノ責任ヲ一ニ宰相ト之ニ黨スル多數黨  
 ニ歸セシメテ望ミタレバナリ抑々斯ク議院ヲ退クハ從前  
 其先例ナキニ非スト雖ヒ是レ皆己レノ職務ヲ自棄スル者  
 ト稱ス可ク假令ヒ然ラザルモ政治上ノ失策タルヲ免レズ  
 尤モ少數微力ナル政黨ガ權力及ヒ人數ヲ以テ之ヲ壓倒ス  
 ル所ノ勝チ誇リタル敵黨ニ抵抗スル時ハ當ニ其敵黨ヲ挫  
 ク能ハザルノミナラズ反テ益々之ヲ鼓舞振興スルノ結果  
 ナシトセズ而シテ其抵抗シテ止マザルハ徒黨的ノ舉動ナ  
 リト非難セラレ其人數ノ少ナキハ其說非ナルノ證ナリト  
 指摘セラル可シ然レモ自カラ議場ヲ退クハ是レ即チ逃走  
 スル者ニ非ズヤ敵ヲシテ戰場ヲ獨占セシメ己レノ敗ヲ取



リシテ自證スル者ニ非ズヤ加之之が爲メ人民ヲ自黨ニ引  
 入レテ一旦敗レタル勢ヲ再起スルノ望ヲモ失フ可シ且少  
 數黨頑固ニ多數黨ニ抵抗スル時ハ種々ノ非難ヲ免レズト  
 雖モ其議場ヲ退ク時ハ更ニ之ヨリモ有害ナル非難ヲ受ケ  
 ザルヲ得ズ即チ快々トシテ不平ヲ含ミ失敗ヲ恐リテ徳ヲ  
 守ル能ハズ私情ニ堪ヘズシテ公務ヲ放擲セル者ナリトノ  
 非難ヲ免ル、能ハザル可シ  
 少數黨其良心ニ訴ヘテ此舉ニ出テ爲メニ自黨ノ主義ニ利  
 アルヲ自信スルニ於テハ此等非難ノ如キハ傲然甘受シテ  
 意ニ介セザルナラン然レモ危急ニ迫リテ公務ヲ放擲シ其  
 公正ナリト信スル説ヲ棄テ、顧ミザルノ非難ハ蓋シ辨解  
 シ易カラザルナリ而シテ此時民權黨ハ此等非難ノ一ヲモ

免ル、能ハザリキ加之多數抗ス可ラザル敵黨ノ前ニ在テ  
 驟然議場ヲ退クハ稍々傲氣ヲ示スニ足ルト雖モ此時民權  
 黨ノ此舉ニ出ルヤ協同一致ヲ缺キシガ故ニ此威嚴ヲダニ  
 完ウスルヲ能ハザリキ蓋シフックス氏及ヒ其他數名ハ人  
 身保護律ノ中止ニ抵抗セシガ爲メニ「クリスマス」祭ノ休會  
 後ハ再ヒ議場ニ出テタリト雖モ其他大抵ノ黨友ハ尙ホ依  
 然欠席シテアリキ左レバ既ニ小數ナル民權黨ハ更ニ分離  
 シテ愈々其勢力ヲ失ヒ議院退席ノ唯一ノ目的ヲモ達スル  
 ヲ能ハザリキ

民權黨及ヒ亞  
 米利加戰爭

民權黨ノ運命ハ今ヤ殆ド没セントシテ而シテ王權黨ノ權勢  
 ハ赫々トシテ一時ニ振ヘリ然レモ米國戰爭ノ不幸ナル災  
 害ヲ起シ是ニ續ヤテ佛國トノ敵對起リシカバ爲メニ王權



黨信ヲ天下ニ失テ輕侮セラレ而シテ民權黨其勢力ヲ加フ  
 ルノ結果ナキヲ得ザリキ是ヲ以テ政府ノ破裂ハ其心嚮ニ  
 マデ及ヒ而シテ一千七百七十八年ノ夏季ニ至リ民權黨ハ  
 内閣組織ノ商議ヲ受ケタリ此新内閣ハ米國ヨリ兵士ヲ引  
 揚ゲ而シテ佛國ニ對スル戰爭ヲ斷行スルノ約ニ從ヒウヰマ  
 ウス公首相トナリテ組織スル所ニシテ民權黨若シ此商議ヲ  
 諾セシナラシムルニハ新内閣ニ多數ヲ占ムルヲ得タルナリ然  
 ルニフックス氏ノ此商議ニ一致セシテ助言シタルニモ拘  
 ラス該黨ハ之ヲ拒絕シ依然反對黨ノ位置ニ立テ叛逆セル  
 植民地ニ對シテ無益ノ戰爭ヲ行フノ非ナルヲ痛駁シタリ蓋  
 シ此戰爭ハ巨額ノ國財ヲ消費シ併シテ我武威ヲ汚辱シ  
 タル者ナレハ初メ可戰說ヲ唱ヘシ者ト雖モ今ヤ之ヲ悔ユ

共和黨

ルニ至レリ而シテ民權黨ハ不撓不屈ノ熱心ヲ以テ頻リニ  
 ノルス公ヲ攻撃シ遂ニ之ヲシテ内閣ヲ去ラシメシ迄ハ止  
 マザリキ此戰爭ノ際民權黨ハ終始改進自由ノ主義ヲ固執  
 シ能辨ト勇膽トヲ以テ國王、宰相、上下兩院ノ多數黨ヨリ  
 成レル連合兵ニ抵抗シ斷乎動カザリシヲ以テ大ニ一政黨  
 タル該黨ノ勢力及ヒ品格ヲ恢復スルヲ得タリ然レモ又一  
 方ヨリ見レバ該黨ハ叛民ニ左袒シ外敵ヲ獎勵シタリトノ  
 攻撃ヲ免ル、能ハズシテ此攻撃ハ容易ニ忘レラレズ爾後  
 屢々用ヒラレテ大ニ該黨ノ爲メニ害ヲ爲セリ  
 二大政黨ノ爭論ヲ記スルニ當リ他ニ一事ノ看過ス可ラザ  
 ル者アリ其事如何ト云フニ亞米利加獨立戰爭ノ爲メニ煽  
 起セラレテ共和政治ノ精神全歐洲ニ萌起シ而シテ英國ニ



民權黨再ヒ位  
置ヲ内閣ニ復  
ス

於テモ共和黨ナル者組織セラレ此黨ハ數年後ニ民權黨ト  
王權黨トノ關係ニ緊要ナル影響ヲ及ボスニ至レリ  
民權黨ハ剛毅廉直ナル領袖ロッキンガム公ヲ首相トシテ今  
ヤ再ヒ位置ヲ内閣ニ復シタリ然レモ王ハ此内閣ノ權力ヲ  
有名無實ナラシメ其位置ヲ不安ナラシメントニ注意セリ  
蓋シロッキンガム公首相トナリテ新ニ組織セシ此内閣モ亦  
諸黨ノ聯立セル者ニシテ一部ハ民權黨ヨリ成リ一部ハ朝  
廷黨即チシエルボルン公サルロウ公アシホルトン公グラフ  
トン公ノ如キ人々ヨリ成レリ其組織既ニ此ノ如シ故ニ内  
閣員互ニ和セザルハ固ヨリ免ル可ラズ而シテ此内閣幾時  
ナラズ破レタリト雖モ其存立セシ間ハ民權黨ノ政略勝ヲ  
制シタルハ此短命内閣ニ取テノ榮譽ナリト言フ可シ

一千七百八十  
二年七月一日  
ロッキンガム  
公ノ死

此一事件ハ政  
黨歴史上ノ一  
恐慌ナリ

然ルニロッキンガム公ノ死ハ再ヒ民權黨ノ勢力ヲ地ニ墜チ  
シメタリ蓋シ王ハシエルボルン公ヲ撰ミテ首相ニ繼ガシメ  
シニ民權黨ノ内閣員フックス氏ハ其敵黨ノ領袖タル公ヲ  
首相ト爲スヲ喜ハズ公ニ信任ヲ置ク能ハズ又公ヨリ公正  
ノ待遇ヲ望ム能ハズト爲シ公ヲ載テ内閣ヲ組織スルヲ拒  
ミ其黨友ト共ニ冠ヲ掛ケテ内閣ヲ去レリ  
此一事件ハ政黨歴史上ノ一恐慌ト稱ス可ク二大政黨將來  
ノ運命ハ二大政治家ノ進退ノ爲メニ大ニ影響セラレタリ  
此時フックス氏姑ク異議ヲ忍ビシエルボルン公ノ下ニ内閣  
ヲ組織スルヲ肯シタランニハ氏ノ才力ヲ以テ速ニ己レ  
及ヒ其黨友ノ勢力ヲ内閣ニ振ハシムルハ敢テ難カラザリ  
ヲナラン然ルニ計茲ニ出デズ獨リシエルボルン公ヲシテ全



勝ヲ占メシメ既ニ小數ナル民權黨ヲシテ更ニ分裂セシメ  
 タリ蓋シ夫ノウイリアムピット氏ハ初メ議院ニ入ルヤ民權  
 黨ニ左袒シテノルス公ノ内閣ニ反對シタリ氏ハ主義ニ於  
 テモ緣故ニ於テモ民權黨ノ人ニシテ常ニ該黨ニ與ミシ一  
 切ノ改進黨略ヲ賛成シタリ而シテ氏ノ曠世ノ才ト非凡ノ  
 志トハ其若年ナル時ヨリ既ニ氏ヲシテ人ノ爲メニ領袖タ  
 ルノ量ヲ現ハサシメ且氏ハロッキンガム公ニ心ヲ寄セ其内  
 閣ヲ贊助シタリ故ニ民權黨ノ一員トシテ氏ヲ内閣ニ擧ゲ  
 得ルハ殆ド疑ヒナカリシニ惜ヒ哉ロッキンガム公ノ内閣ヲ  
 組織スルヤ商議氏ニ及ハズシテ止メリ而シテ今ヤ反テシエ  
 ルボルン公ハ氏ニ出納局長ノ要職ヲ與ヘテ以テ内閣ノ一  
 坐ヲ占メシメタリ左レバ此時ヨリ此若年政治家ハフオック

ス氏ト相與ミセズ反テ敵對ノ位置ニ立テ遂ニ之ヲ壓服シ  
 タリ氏ハ王ノ黨友及ヒ王權黨ト其利害休戚ヲ共ニスルニ  
 至リシヲ以テ民權黨ハ永遠ニ此有力ナル政治家ヲ失ヒ其  
 關係全ク斷絶セリ嗚呼此ニ大政治家ニシテ協同事ヲ共ニ  
 スルアラシニハ國家ノ利益ノ爲メ民權ノ伸張ノ爲メニ如  
 何ナル事業ヲモ爲シ得タランニ其然ラザリシハ豈千載ノ  
 遺憾ニアラスヤ斯クテ二氏既ニ分レテ敵對ノ位置ニ立チ  
 シガ爲メニ民權黨ハ痛ク其勢力ヲ挫キ王權黨ハ期望ト勢  
 カトヲ以テ揚々タルニ至レリ

聯立内閣

今ヤ國內ニ三政黨アリシエルボルン公及ヒ朝廷黨トノルス  
 公及ヒ王權黨トフオックス氏及ヒ民權黨トノ三者是ナリ而  
 シテ右第一ノ政黨ハ孤立以テ其位置ヲ保持シ得サルヲ明



ナルカ故ニ他黨ノ人ヲ加ヘテ其内閣ヲ強固ニセンガ爲メ  
 ニノルス公及ヒフックス氏ニ對シ別々ニ商議ヲ開ケリ而  
 シテ政府ガノルス公ニ望ム所ハ依然公ヲ内閣外ニ除キテ  
 公ノ黨友ノミヲ入レントスルニ在リテ此議ヤ一政黨ノ領  
 袖タル者ノ意ヲ得ルニ足ラズ而シテフックス氏ハシエルボ  
 ルン公其位ヲポルトランド公ニ讓ルニ非スンバ内閣ニ入  
 ル能ハズト主張セシト雖モ此議ヤ固ヨリ現内閣ノ首相ニ  
 快ヲ與フル所ニ非ズ故ニ此商議ハ共ニ成ルヲ得ザリシト  
 雖モノルス公ハフックス氏トピット氏トガ相結ヒ爲メニ  
 自黨ノ壓覆セラレントヲ恐レ寧ロフックス氏ト相結ビ以テ  
 其共同ノ敵トスルシエルボロン黨ヲ壓覆スルノ議ヲ聽カン  
 ヲテ欲セリ是ニ於テ平ローボロー公エデン氏アダム氏フイ

一千七百八十  
 三年二月十七  
 日及ヒ二十一  
 日

ズバトリツク氏ジョージノルス氏等ノ周旋ニ因リ主義緣故  
 ヲ全ク異ニシテ久シク相爭ヒタル此二政治家ガ今ヤ突然  
 相連合スルニ至リタリ嗚呼政黨ノ離合モ亦奇ナル哉  
 此二政黨ノ連合ヲ促スノ機トナリシハノルス公及ヒフッ  
 クス氏ガ共ニ政府ノ締結セル平和ノ假條約ニ抵抗セシ  
 是ナリ（按佛蘭西及ヒ西班牙ニ對スル條約ヲ云フ）  
 憶フニシエルボロン公ガ此假條約ニ因テ敵國ニ讓與セシ所  
 ハ當然ニ非難ヲ招ク可キモノニシテ他ノ點ニ於テ相反對  
 セル此二政黨ガ之レガ爲メニ偶然ニ相連合スルニ至リシ  
 ハ亦勢ナリト云フ可シ而シテフックス氏ガ深ク心ニ懷ク  
 一大目的ハ國王ノ權勢ヲ制限セントスルニ在リテ氏ノ輕  
 易從順ナル同盟者ノルス公モ此目的ノ爲メニ協力スルヲ



肯シゼサルニ非ズ且従前此二政治家ヲ相敵對セシムルノ  
 主因タリシ亞米利加戰爭モ今ヤ終局ニ歸シ而シテ此二政  
 治家ハ一身上ノ遺恨ヲ永遠ニ含ミテ相解ケザル如キ狹量  
 ノ人ニ非ズフオックス氏ハ自ラ明言シテ曰ク親和永續ス敵  
 對消滅ス下蓋シ氏ノ以前ノ反對者ノルス公ノ心事モ亦此  
 ノ如クナリシナラン然レモ此二政黨ノ主義ハ元來氷炭相  
 容ル可ラザル者ナルニ今マ斯ク突然連合セシトナレハ世  
 ノ非難ヲ免レズシテ爲メニ大ニ雙方ノ信用ヲ傷ケタリ且  
 此二政治家ガ權力ヲ求メテ斯カル大膽ナル處置ニ出テシ  
 ハ一身上ノ志ヲ達センガ爲メニシテ利益ノ爲メニ主義ヲ  
 犠牲ニセシ者タルハ掩フ可ラズ即チ之ヲ政黨ノ連合ト稱  
 センヨリハ寧ロ徒黨ノ連合ト言ハザル可ラズシテ此事ヤ

雙方ニ取テノ大失策タラザルヲ得ズ左レバ兩黨ノ最モ熱  
 心ナル輩ハ之ヲ怒リ爲メニ此二政治家ハ其最良ノ黨友ヲ  
 多ク失ヒタリノルス黨若クハフオックス黨ガシエルボルン黨  
 ト相結ブハ尙ホ可ナリノルス黨トフオックス黨ト相結ブニ  
 至テハ最モ不適當ノコダラザルヲ得ズ民權黨ハ從來反對  
 黨ノ位置ニ在テ得シ所ノ人望ヲ失ヒウエルクス氏及ヒ共和  
 黨ノ如キモ該黨ヲ擯斥スルニ至レリ而シテ朝廷黨及ヒ粗  
 暴政談家ハ之ヲ恥ツ可キ連合ト爲シ互ニ競テ罵詈ヲ逞ウ  
 セリ抑々從來政黨ノ聯合ニシテ民權黨ヲ挫キ王權黨及ヒ  
 王權ヲ助ケシ間ハ朝廷ハ常ニ之ヲ喜ビタリト雖モ今回ノ  
 聯合ハ王權ヲ危カラシメ且主義ノ爲メニ合セズシテ私利  
 ノ爲メニ合セシト知ラレシカバ政治上ノ罪犯ナリトシテ



聯立政黨ノ是非ニ關スル説

大ニ非難セラレタリ

此聯立政黨ハ一時勝ヲ制セシト雖ヒ忽チニ王及ヒピット  
 氏ノ爲メニ足下ニ蹂躪セラレシトハ第一篇ニ既ニ之ヲ論  
 シタリ此聯立政黨ハ呻吟ト叱咤トノ間ニ斃レ爾後各黨ノ  
 記者ハ假ス所ナク之ヲ非難各責セリ而シテ其斃ル、ニ及  
 ンテ黨友ノ數大ニ減少シノルス公ノ黨與ハ速ニ散シテピ  
 ット氏ノ旗下ニ立テル王權黨中ニ加入シ而シテフックス  
 氏ノ黨與ハ再ヒ無勢力ナル少數黨トナレリ然レモ此聯立  
 政黨ハ其領袖ノ失敗ノ爲メニ寧ロ過嚴ナル譴責ヲ世上ヨ  
 リ蒙リシ者ニ非ザル乎何トナレバ政黨ノ聯合混和ハ王ノ  
 之ヲ喜ブ所ニシテ獨リ此時ニノミニ限ラサルヲ忘ル可カ  
 ラザレバナリ當代ノ諸内閣中ノルス公ノ内閣ヲ除キ他ハ

皆聯立内閣ニ非ザルハナク當時政治家ノ主義及ヒ去就ハ  
 朝夕ニ變シテ殆ド常ナカリシナリフックス氏ハ初メ世ニ  
 出ルヤ王權黨ヲ以テシ而カモ今ヤ民權黨ノ領袖トナレリ  
 ピット氏ハ初メ民權黨トシテ議院ニ入りシモ今ヤ王權黨  
 ノ泰斗トナレリグレンザル氏ハロツキンガム公ト相聯立  
 シテムプル公ハ或ハウルクス氏ニ左袒シテ王ヲ挑ミ或ハ  
 馮テ最モ熱心ニ王權ヲ主張セリシエルホルン公及ビダンニ  
 ノグ氏ハ王權ヲ制限センガ爲メニロツキンガム公ト相結  
 ビシモ後ニハ説ヲ變シテ朝廷ノ政略ヲ賛成シタリ又サル  
 ロウ公ノ如キハ民權党内閣ニ立ツト王權党内閣ニ立ツト  
 ナ間ハズ常ニ同様ニ大法官ノ位置ヲ占メタリ又夫ノ過激  
 粗暴ヲ事トセルウルクス氏ノ如キモ一旦馴サレシ後ハ其



曾テウイルクス派ノ人タリシヲ拒ムニ至レリ當時主義及ヒ政黨ノ朝夕ニ變スルヲ此ノ如クナリシニ何が故ニ世人ハ獨リフックス氏及ヒノルス公ノミヲ喋々非難スルヲ彼レノ如クナリシ乎蓋シ此聯合ノ爲メニ一時王權ヲ危カラシメタルハ是レ朝廷黨ノ之ヲ怒リシ所以ナリ而シテ人民ハ此之政治家ガ褻キニ相詆毀罵詈セシ聲ノ尙ホ耳底ニ存シテ忘レラレザル所ナルニ其俄然聯合セシヲ見テ私心アラソチ疑ヒ深クモ慮ラスシテ翕然朝廷黨ノ非難ニ雷同シタルナリ故ニ王及ビ王ノ參謀者ハ十分ニ其目的ヲ達シテ此聯立政黨ヲ壓覆シ此聯立政黨ハ其壓覆セラレタルガ爲メニ世上一般ノ非難ヲ蒙レリ而シテ之ガ爲メ民權黨ノ勢力地ニ墜テテ爾後五十年間ハ王權獨リ全盛ヲ恣ニシ他復タ

ピット氏ノ内閣亦聯立内閣ナリ

之ヲ爭フ者ナキニ至レリノルス公及ヒフックス氏ノ聯立内閣ハピット氏ノ爲メニ壓覆セラレ且主義節操ヲ犧牲ニシタルトテ痛ク輕蔑ヲ蒙リシト雖モ畢竟此非難ハ一ノ托言タルニ過キザルハ之ニ續キテ立チシピット氏ノ内閣ガ又同様ニ聯立内閣タリシヲ以テ之ヲ證ス可シピット氏ハ自ラノルス公ヲ攻撃シタルト雖モ尙ホ氏ノ内閣ハノルス公ノ黨友ト褻キニ己レ及ヒフックス氏ニ一致シタル民權黨トノ聯立ニ成レリ氏ハ其原ト屬セシ民權黨ヲ脱シテ王權黨ノ領袖トナリシ者ナレバ各政黨ノ翼賛ヲ己レニ得ノコチ欲セリ而シテ氏ハ反對黨ニ對シテ其位置ヲ維持スルノ難カラシヲ恐ル、ニ及ビ更ニ人ヲ各黨ニ取リテ内閣ヲ改造セシガ爲メニ王ノ權力



政黨聯立ノ主義

ヲ借リテ商議ヲ開ケリ然ルニ曩キニ前内閣ノ聯立ヲ最モ  
 非難セシ者ト雖ヒピット氏ノ聯立内閣ハ之ヲ非難スルヲ  
 爲サザリキ蓋シ前内閣ノ聯立ニ成リシモピット氏内閣ノ  
 又聯立ニ成リシモ共ニ當時政黨ノ事情ニ於テ自然ノ結果  
 ナリト言フ可シ一政黨孤立シテ政權ヲ左右スル能ハザリ  
 シヲ以テ諸政黨ノ聯立スルヲ實ニ止ムヲ得ザリシナリ左  
 レバシエルボルン公モ孤立スル能ハズシテ他ノ二政黨ノ同  
 盟ヲ求メタリト雖モ二政黨ハ公ノ商議ヲ拒ミ反テ相合シ  
 テ公ニ抵抗セリ而シテピット氏モ其位置ノ脆弱ナルヲ悟  
 リ多數ヲ制センガ爲メニ同様ノ手段ニ出テザルヲ得ザリ  
 キ蓋シ強大ナル政黨ハ他黨ノ聯合ヲ謝スルヲ得可シト雖  
 且分裂離散セル政黨ハ勢ヒ相聯合セザルヲ得ズ故ニ事

ピット氏領袖

情ヲ斟酌セズ妄リニ斯カル聯合ヲ非難スルハ政黨結合ノ  
 據テ基ク所ノ主義ヲ非難スル者ト謂フ可シ夫レ同一政黨  
 ニ屬スル者ト雖ヒ凡テノ點ニ於テ其說同シキニ非ズシテ  
 唯其大體ノ主義ヲ同ウシ其一般ノ感情ヲ共ニスルノ故ヲ  
 以テ互ニ小異ヲ讓リ極端論ヲ棄テ以テ相結合スルナリ而  
 シテ諸政黨相聯合スルガ如キモ亦同一ノ理ニ出ルニ外ナ  
 ラズ從前互ニ相反對シ他ノ政治疑問ニ於テハ其意見ヲ異  
 ニスルノ人々ト雖ヒ或ル重大ナル疑問ニ關シテハ其說一  
 致シ共ニ力ヲ協セテ第三ノ政黨ニ抵抗セザル可ラザルヲ  
 アテテ故ニ其相一致スル共同ノ目的ヲ遂ゲンガ爲メニ以  
 前ノ不和ヲ忘レテ互ニ結合スルナリ

ピット氏ノ人望及ヒ成功ハ一千七百八十四年ノ撰擧ニ於



タリシキ王權  
黨ノ基礎ヲ廣  
メシ

テ大ニ王權黨ノ基礎ヲ廣メタリ氏ハ共ニ紳商估國政黨  
非國政黨ノ贊助ヲ受ケ又舊縁アル民權黨ノ同盟ヲ制シタ  
ルヲ以テ國王貴族人民ノ三大權ヲ一手ニ握リテ支配スル  
ノ位置ニ立テリ氏ハ王權黨ヲ率ユルト雖モ該黨ニ對シハ  
王ノ宰相トシテ除キ別ニ相結フノ縁故アルニ非ズ氏ハ民  
權黨ノ家ニ生レ民權黨タルノ教育ヲ受ケ曾テ國王ノ權勢  
ヲ制限シ人民ノ自由ヲ擴張セント盡力セリ然ルニ其主義  
ノ未ダ十分ニ熟セザルニ當リ突然王ノ爲メニ首相ニ舉ゲ  
ラレ勝チ誇リタル王權黨ノ領袖トナレリ該黨ノ主義ハ氏  
ノ曾テ是認シ若クハ公唱セシ所ニ非ズ故ニ氏若シ該黨ノ  
主義ヲ實行スルアラバ是レ氏ノ主義ニ出デズシテ寧ロ便  
宜ニ出ルノミ氏ガ攝政ノ事及ヒ彈劾ノ事ニ關シテ大ニ議

院ノ權利ヲ主張シタルガ如キハ實ニ民權黨ノ感情及ヒ意  
見ヲ表セシ者ナリ又氏ノ一大競争者タル民權黨領袖フ  
クス氏ハ經濟學及ビアダムスミス氏ノ世運ヲ一變セル理  
學ヲ輕蔑シタリト雖モ氏ハ反テ商業ノ自由ヲ主張シ財政  
ヲ整備シタルハ豈民權黨領袖ニ優ルノ民權主義ヲ取レル  
者ニアラズヤ然レモ氏ヤ齡僅ニ二十四ニシテ早ク既ニ政  
柄ヲ握リ其才力無限ニシテ其志氣驕傲横恣ナルガ上ニ日  
常接スル所ハ氏ヲシテ心ヲ權力ニ傾ケシムル者ニ非ザル  
ハナシ然ラバ則チ氏ガ民權主義ヲ棄テ、王權主義ニ移ル  
アルモ誰レカ又之ヲ怪マンヤビット氏ニシテ更ニ數年間  
政府反對黨ノ位置ニ立チ講學ニ從事スルカ假令ヒ然ラザ  
ルモ左マテ顯赫ナラザル一職ニ就キテ煉磨妍修スルノ餘



暇アリタラシニハ其才力ハ以テ發達ヲ完ウシ其理學ハ以テ一層眼界ヲ遠大ニセシナラシニ早ク既ニ樞要ノ地ニ立テ繁務劇職ニ當リシガ故ニ流石ニ氏ノ非凡ノ才力ト雖モ其成長ヲ妨ゲラレタルヲ免レズ然レモ氏ハ其立身ノ初メニ既ニ斯カル障害ヲ蒙リシニモ拘ラズ學業ノ進達ト主義ノ寬大トニ於テ自黨政治家中復タ氏ニ比肩ス可キ者アラザリキ

サルロウ公

サルロウ公ノ人ト爲リハピット氏ト大ニ異ナレリ公ハ久シク王ノ秘密評議ニ與リノルス内閣ノ時ヨリピット内閣ノ時ニ至ルマデ獨リノルス公及ヒフックス氏ノ聯立内閣ノ時ヲ除キテハ何レノ内閣ニ在テモ常ニ大法官ノ職ニ在リテ王ノ黨友ノ進退ヲ指揮シ王ノ權力ヲ貪ル念ヲ助長シ

民權黨及ヒ  
ウエールス太子

王ノ最モ喜フ如キ施政主義ヲ贊助セリ公ノ主義愛憎氣質ハ恰モ當時ノ王權黨ヲ表スルノ模範ナリト稱ス可シ公ハ數年間政機ヲ司リ國家政治上ノ權力ハ實ニピット氏ニ及ハザリシト雖モ王ヲ動かシ恩典ヲ博シ朝廷ノ愛遇ヲ蒙リ黨友ノ忠誠ヲ受ケシトニ於テハ殆ト氏ニ讓ル所ナシピット氏ヲ下院ノ擅制君主ナリシトセバ上院ハ實ニサルロウ公ノ玩弄物タリシナリ故ニピット氏ガ大法官ノ隱謀離反及ヒ無禮ナル抵抗ニ堪ユル能ハズシテ之ヲ除カント決心セシマデハ氏ト雖モ責任宰相タル全權ヲ一手ニ束テテ隨意ニ之ヲ行フ能ハザリキ

民權黨ハ期廷ノ爲メニ蛇蝎視セラレ王ノ愛遇ヲ得ルノ望絶ヘシカバ專テウエールス太子ノ親交ヲ得ルトニ周旋シ太



子モ其尙ホ若年ナルニ當テハ大ニ民權黨ノ諸士ヲ愛遇シ  
 テ其主義ニ加勢シタリフオックス氏シエリダン氏エルスキ  
 氏ノ如キ快活粹雅ナル人ハ才力アリ藝能アル若年太子ト  
 相得テ其交際甚々樂シク且初メ太子ハ王及ヒ宰相ト相遠  
 ザカリシガ故ニ自然ニ政府反對黨ノ手中ニ投セラル、所  
 トナレリ而シテ民權黨中ノ華奢ナル輩ハ己レ亦時流ヲ追テ  
 遊樂ニ耽リシガ故ニ太子醜行アルモ敢テ之ヲ非難忠告ス  
 ルコトナシ即チ當時壯若ナル者ハ酔テ酒樓ニ買ヒ賭博場ニ  
 出入シテ健康財産ヲ失フヲ顧ミス而シテ太子ノ民權黨友  
 人ノ或ル者加之フオックス氏シエリダン氏ノ如キト雖モ方正  
 謹直ノ風ヲ裝フヲ勉メズ故ニ民權黨諸士ガ太子ト親交セ  
 シ以來ハ王ノ該黨ヲ惡ムコト更ニ甚シキヲ加ヘタリ夫レ王

ハ民權黨諸士ヲ以テ王位相續者タル太子ノ政治主義ヲ誘  
 惑シ其愛情ヲ離間シ其品行ヲ腐敗セシムル者ト信セリ王  
 何ゾ此等諸士ヲ怨スルヲ得ンヤ

抑々政府反對黨ガ太子ノ宮殿ヲ以テ自黨ノ本據ト爲セシ  
 ハ決シテ新奇ノコトニ非ズハノール家各代ノ太子ガ何レ  
 モ當代ノ王ト相合ハザリシハ該家ノ不運ト稱ス可シクヨ  
 トシ一世ハ不當ニモ其皇子ヲ惡ミ太子ハ朝廷ヨリ斥ケラ  
 レテ反對黨ノ冀望點トナレリ又次代ニ於テモ太子フレデ  
 リツクハ私交上父王ト相善カラズシテポーリングプロ  
 ク、チエスターフィールド、ウインドハム、カトリレット、ポルトニ  
 諸氏其他父王ノ施政ニ最モ熱心ニ抵抗セシ諸政治家ノ説  
 ヲ賛成シ之ト相親交セリ



以上二代ニ於テハ民權黨政柄ヲ執リシヲ以テ太子ノ宮殿  
 ハ自然ニ王權黨ノ本據トナレリ然ルニ今ヤジョージ三世  
 ノ太子ハ公然父王及ヒ其選任セル宰相ニ抵抗シ而ノ當時  
 王權黨朝廷ニ權勢ヲ振ヒシカ故ニカールト<sup>ノ</sup>宮殿<sup>按太子</sup>  
 ハ則チ民權黨ノ占ムル所トナレリ而シテ太子ハ其軍服ヲ  
 着ケテ公然民權黨ノ會合ニ加ハレリ一千七百八十四年ウ  
 エストミンスター<sup>ノ</sup>選舉ニ於テフックス氏ガ勝ヲ制セシ時  
 太子ハ其祝賀ノ整列ニ加ハリ又其宮殿ニ於テ之ガ爲メニ  
 祝宴ヲ開キ其他該黨ノ饗宴ニ臨ミ又其大會ニ出テシ<sup>ト</sup>屢  
 ケナリキ

一千七百八十八年王ノ疾病ノ間ハ民權黨ト太子トノ同盟  
 ヲ一層世ニ公表シタリ民權黨ハ公然太子ニ與ミシ自黨ノ

佛國革命ヨリ  
 政黨上ニ生シ  
 タル結果

再ヒ政權ヲ握ルハ近キニ在ルヲ誇稱シ又太子ハ民權黨ヲ  
 シテ議院ニ多數ヲ得セシメント欲シ百方此事ニ盡力セリ  
 太子ハラノスダル公ニ書ヲ與ヘ公ガ一身上ノ恩惠トシテ  
 民權黨ヲ贊助スルアラント懇求セリ而シテ公ノ指名ニ因  
 テ選舉セラレタル下院議員ハ原トピツ<sup>ト</sup>氏ノ熱心ナル贊  
 成者タリシト雖モ今ヤフックス氏及ヒ政府反對黨ヲ贊成  
 スルノ投票ヲ爲スニ至レリ  
 民權黨ハ當時尙ホ一大政黨タルヲ失ハズ人數ニ於テハ宰  
 相黨ノ軍勢ニ比シテ遙ニ劣ルト雖モ之ヲ率ユル領袖ハ大  
 オアリ高位ヲ占メ社會ニ對シテ名望威カアリ且其主義ハ  
 人望ニ合ヒ其ノ黨員ハ感情及ヒ主義ニ於テ概チ相結合セリ  
 然ルニ今ヤ全ク政黨ノ關係ヲ顛覆ス可キ大事件ノ起ラン



トスルニ會セリ即チ夫ノ佛國革命ノ大事件ハ世界ノ歴史  
 上萬古未聞ノ新事件ニシテ深ク各階級政治家ノ心ニ感動  
 チ及ボザズンバアラズ初メ此革命ノ起ルヤ共和黨ハ最モ  
 熱心ニ之ヲ祝賀シ民權黨ハ望ヲ含ミテ私カニ之ヲ喜ビ王  
 及ヒ王權黨ハ且ハ怒リ且ハ驚ケリフックス氏ハ此一舉ハ  
 自由ノ精神ヲ全歐洲ニ瀰滿セシメノヲ豫言シビツト氏  
 ハ他ノ同黨政治家ニ比スレバ自由ヲ愛スルガ故ニ寧ロ親  
 情ヲ以テ其成行キニ注目セリ而シテ政治家中第一ニ畏怖  
 ノ爲メニ襲ハレタルハ則チボルク氏ナリ氏ハ此舉ヨリ害  
 惡ト危險トノ外ハ何等ノ結果ヲモ生セザルヲ前見シ其固  
 有ノ熱心ト其非凡ノ智力トヲ盡シテ佛國革命其主義其役  
 者其結果ノ懼ル可ク惡ム可キヲ極論痛議セリ而シテ氏ハ

民權黨ノ分裂

共和主義ヲ疾ムノ情ニ激セラレ公然フックス氏ノ寛裕大  
 量ナル友誼ヲ辭シ民權黨ニ對スル舊交ヲ絶チタリ  
 斯クテ全社會ハ相反對スル二黨即チ共和政治ノ友ト敵ト  
 ノ二黨ニ分レタリ民權黨ハ一時此二黨間ニ中立シ共和政  
 治ハ之ヲ獎勵セス又畏怖セズシテ唯依然自由ヲ主張シテ  
 リト雖ヒ速ニ此中立ノ位置ヲ保ツ能ハザルニ至レリ蓋シ  
 共和黨ハ議院改革ヲ主張シ是ニ反對スル黨ハ議院改革ヲ  
 革命ト同視セリ故ニ夫ノ民友社團ヲ設立ヒシ時ホド議院  
 改革疑問ヲ議スルニ不適當ナル時ハ非ザリシナリフックス  
 ス氏ハ世人ガ該協會ヲ誤解スルアラシヲ前見シ之ヲ贊成  
 セザリシハ遠慮アリシト稱ス可シ然レヒシエリダン氏エ  
 スキン氏グレイ氏チルニ一氏其他民權黨ノ領袖ハ其抱懷



一千七百九十  
二年四月三十  
日

スル主義ヲ實行セシガ爲メニ共和主義ノ人々ト協同スル  
ヲ肯シ加之「民友社團」ニ加入セル「通信社團員」ト協同スル  
ヲモ憚ラザリキ而シテ今ヤ人氣漸ク民權疑問ヲ忌ミ益々  
民權黨ノ分裂ヲ甚シクスルノ萌アルハグレイ氏ガ議院改  
革案ノ提出ヲ通知セシ時ノ討論ノ景況ニ徴シテ之ヲ證ス  
可シ民權黨中或ル議員ハ該黨ガ共和黨ト接觸セシ後モ依  
然從前ノ目的ヲ變セザリシト雖モ又或ル議員ハ之ガ爲メ  
當ニ共和主義ヲ畏避スルニ止ラズ併セテ其世傳ノ民權主  
義ヲモ棄ルニ至レリ且其後間モナク政府ハ煽動ノ文書ヲ  
禁止スルノ布告ヲ出ダシ之ガ爲メ更ニ反對黨中ノ分裂ヲ  
來タセリ「フォックス氏」ホワイ「トブレ」ツド氏「グレイ氏」ハ此布  
告ノ目的ハ「民友社團」ヲ凌辱シ反對黨ヲ離間スルニ在リト

一千七百九十  
二年五月二十  
一日

シテ非難シ是ニ反シテノ「ルス公」チ「ツチ」フ「イルド公」ウ「インド  
ハム」氏「ボワイ」ス「氏」ハ之ヲ必要ナリトシテ政府ヲ贊成シタ  
リ「ピット」氏ノ目的果シテ民權黨ヲ離間スルニ在リシヤ否  
ヤヲ知ラズト雖モ實際能ク此目的ヲ達セシ「右」ノ布告ノ  
如キハアラザルナリ  
此時ニ方「リダ」ン「ダス」氏「ロー」ボ「ロー」公「マ」ル「ム」ス「ブ」リ「公」ボ  
「ルド」ラ「ンド」公等ノ周旋ニ因リ「ピット」氏及ビ「フォックス」氏ヲ  
聯合セシメント勉メタリ今ヤ佛國革命ノ過激ニ流レシヲ  
見テ之ヲ嫌惡スルハ「ピット」氏「フォックス」氏共ニ然リ局外中  
立ヲ守リ平和ヲ維持セント欲スルハ又二氏共ニ然リ然レ  
モ二政黨ノ要求ヲ満足セシムル頗ル難ク「ホルク」氏熱心ニ  
之ニ抵抗シ民權黨ハ離散分裂シ加フルニ「ピット」氏モ「フォッ



クス氏モ其ニ此連合ニ熱心ナラザリシガ故ニ此協議竟ニ  
 破レザルヲ得ザリキ而シテ其破レシハ政府今後ノ政界上  
 ニ大影響ヲ及ボシタリ若シ夫レピット氏フックス氏ノ二  
 傑相協同シタラフニハ歐洲歴史上ノ此最モ危急ナル時ニ  
 際シ之ニ處ス可キ穩和賢明ナル策ヲ工夫セシヤ必ス可シ  
 然ルニフックス氏ハ反對黨ノ位置ニ立テ媚ヲ共和黨ニ呈  
 シ時機ノ適セザルニ敢テ人民ノ主權ヲ公唱シタレバ民權  
 黨中畏怖ヲ懷ケル輩ハ益々ピット氏ニ心ヲ寄スルニ至レ  
 リ

佛國革命ノ爾後ノ事件即チ國民議會ニ於テ人民同權ノ命  
 令ヲ發シ王ヲ死刑ニ處シ革命戰爭破裂シ又英國共和黨ノ  
 過激ニ走リシ等ノ爲メニ今ヤ民權黨ノ滅亡完キニ至レリ

民權黨諸領袖  
 トピット氏ト  
 ノ聯合

一千七百九十  
 三年一月二十  
 八日

一千七百九十三年一月反對黨ノ一員タリシローボロ公  
 ハ移リテ大法官ノ席ニ就キ亞テ上院ニ於テハ民權黨ノ隱  
 レナキ一領袖ポルトランド公ヲ首トシスペインセル公ライズ  
 ウリアム公カールリツスル公又下院ニ於テハウインドハム氏  
 トーマスグレンツキル氏ギルバートエリヲツト氏其他舊來  
 ノ民權黨ノ多クハ何レモ政府黨ニ移レリ而シテ夫ノノル  
 ス公ノ黨友ハ擧ゲテ政府黨ニ移リ爾來ピット氏ノ同僚ト  
 ナリ其熱心ナル賛成者トナレリ加之グラツタン氏及ヒ愛  
 爾蘭愛國黨ノ如キモ政府黨ニ與ミセリ而シテ此時尙ホフ  
 ックス氏ニ從屬セシ者ハ僅カニ六十名ニモ及バズ可否ノ  
 起立ニ於テ四十名以上ニ達スルハ甚ダ稀レナリキ又上院  
 ニ於ケル反對黨ノ全員ハデルビー公ランスダウン公スタ



政府反對黨ノ  
殘員

ンホーア公ラウデルタル公等ノ數名ニ止マリ而シテ先ツ  
 民權黨ヲ去テ該黨滅亡ノ端ヲ開キタルボルク氏ハ其全ク  
 滅亡セル頃ニハ既ニ議院ヲ退キ爾後憂愁落膽ノ間ニ其一  
 生ヲ終レリ  
 堂々タル民權黨モ今ヤ其人員勢力共ニ大ニ減少セシト雖  
 モ獨リボルク氏及ビウインドハム氏ヲ除キテハ該黨ノ最モ  
 有力ナル領袖ハ依然其主義ヲ固執セリシエリダノ氏、エルス  
 キン氏、グレンー氏、ホワイトブレツド氏、ノルフ、ルクノ、コーク  
 氏、ラムトン氏、ジョノ公、ウリアム、ラスセル公等ハ尙ホフツ  
 クス氏ヲ翼贊シ又其後チルニ一氏加ハ、リテ大ニ該黨ヲ  
 強メタリ該黨ハ可否決ニ於テハ固ヨリ宰相黨ニ當ルヲ能  
 ハズト雖モ討論ニ於テハ能辨以テ痛論切議シ剛毅以テ憲

法上ノ自由ヲ保護シ勇敢以テ政府ノ擅斷政略ニ抵抗セシ  
 カバ當時ノ不幸ナル事件ノ爲メニ將サニ滅セントシタル  
 自由ノ精神ヲ活潑ニ維持スルヲ得タリ而シテ温順怯弱ナ  
 ル黨員既ニ離叛シ去リシヲ以テ今ハ憚ル所ナク其改進自  
 由ノ主義ヲ主張シ得ルニ至レリ該黨ハ人民ヨリハ殆ド贊  
 助ヲ受クルヲ能ハザリキ蓋シ一方ニ於テハ共和主義ヲ主  
 張スル者ト一方ニ於テハ之レヲ恐怖シ愛國ノ情若クハ私  
 利ノ念ノ爲メニ政府ニ左袒スル者トノ間ニ介立セシガ故  
 ニ自黨ノ大主義ノ外ハ又據ル可キ者アラザリシナリ加之  
 ウェールズ太子ノ如キモ今ヤ該黨ヲ棄テタリ即チ太子ハ自  
 然ニ父王及ヒ執權者ニ同情ヲ懷キ己レノ黨友ヲ去テ輕慄  
 ニモ宰相ノ賛成者トナレリ又共和黨ガ自黨ニ引入ル、能



ピット氏黨ノ  
集合

ハザリシ一般ノ人民ハ「シヤコピン」黨ノ殘酷ナル處置ヲ畏  
 避シ政府ニ黨シテ共和主義ヲ鎮壓セントセリ  
 民權黨ノ頽廢ハ斯ノ如クナリシガ是ニ反シテピット氏ノ  
 全盛ハ夫レ如何ナリシヅヤ英國ガ政黨ノ機關ニ因テ支配  
 セラル、立憲國トナリシ以來如何ナル宰相ト雖ヒピット  
 氏ノ如ク最上無限ノ權力ヲ握リシハアラザルナリ如何ナ  
 ル宰相ト雖ヒピット氏ノ如ク各階級各政黨ノ人ヲ己レノ  
 一黨中ニ集合セシメシハアラザルナリ共和主義ノ火焰外  
 國ニ熾ニシテ宗教ヲ壓覆セントスルノ勢アリ是ニ於テ  
 平僧侶ハ恰モ一人ナルガ如ク相率非テ所謂ル「國教及國王  
 ノ防禦者」ニ黨シタリ國家ノ法律及ヒ憲法ハ破壞セラル、  
 ノ危険アリト信セラレタリ是ニ於テ平法律家ハ進メテ勇

敢ナル秩序ノ保守者ピット氏ヲ翼賛ヒリ財產及ヒ政府ノ  
 信用害セラレントセリ是ニ於テ平地主、資本家、公債所  
 有者ハ何レモ大權アル宰相ニ深く依頼ヲ置ケリ就中一般  
 人民ハ國家一切ノ權力ヲ左右シテ必死ノ戰爭ニ從事セル  
 一政治家ノ爲メニ大ニ愛國心ヲ喚起シタリ  
 國內各政黨ノ人ヲ悉クピット氏ノ旗下ニ集合セシメタル  
 政治上ノ原因ハ右ノ如ク宰相ノ政畧ハ國民ノ政畧ナリト  
 認メラレタリ又斯カル愛國ノ目的ニ出デス他ノ自然ノ情  
 ヲリ宰相ニ與ミセシ者多クシテ爲メニ宰相ノ權力ヲ益々  
 鞏固ナラシメタリ  
 城市所有者ノ最モ大ナル者ハ今ヤ多クハ民權黨ヲ脱シテ  
 其ノ議院内ノ勢力ヲ政府黨ニ移スニ至レリ而シテ其ノ背



叛スルヤ宰相固ヨリ之ヲ優待セリ此輩ノ者ハ宰相ノ大權  
 ヲ分受シ宰相ハ其自ラ輕視セシ爵位ヲ此輩ノ者ニハ寛大  
 ニ授ケタリ故ニ市場ニ賣買セラル、城市ノ選舉權ハ忽チ  
 ニ政府黨ノ手ニ入レリ何トナレハ政府ノ贊成者ニ取テハ  
 城市ヲ購買スルハ好望アル資本ノ使用法ナリト雖モ反對  
 黨ニ取テハ城市ヲ購買スルモ唯失望スルノ外ナケレバナ  
 リ左レバ數人ノ專有ニ歸シタル城市ノ如キハ悉ク王權黨  
 ヲ以テ滿タサレ此輩ノ者ハ自黨ノ人ヲ以テ其城市ノ代議  
 士ヲラシムルヲ得タリ熱心ニ政府ヲ贊成スル者ニ非ズ  
 バ決ノ國王ノ恩典ニ浴スルヲ望ム能ハス例セバ僧侶ノ如  
 キ如何ニ信心ニ厚キモ王權主義ヲ奉スルノ確證ヲ示スニ  
 非ズンバ又登進スルコト能ハズ故ニ寺司ヲリ教掌ヲリ僧正

タラント欲スル者ハ凡テ王權黨ノ恩人ヲ求メ王權主義ヲ  
 公唱セリ又狀師ノ如キ其博學能辨如何ニ世ニ競ヒナキモ  
 訴訟者如何ニ争テ其代言ヲ依頼スルモ陪審官ヲ感動セシ  
 ムルコト如何ニ巧ミナルモ其才幹學問ハ如何ニ裁判官ヲ壓  
 倒スルニ足ルモ彼レ政府黨中ニ加入スルニ非ズンバ決シ  
 テ其貴重ナル職業ノ爲メニ褒賞ヲ得ルコト能ハズ又志ヲ懷  
 テ世ニ出テントスル人ハ多數黨ノ流行説ヲダニ贊成セバ  
 顯榮ノ官爵天ヨリ降り來リ揚々トシ赫灼タル立身ヲ爲ス  
 ヲ得ルト雖モ之ニ反シ額廢セル反對黨ノ禁制セラレタル  
 説ヲ取ルニハ落膽失敗其身ヲ纏ヒ名ナク聲ナク累々トシ  
 テ其一生ヲ終ラザル可カラズ然レバ則チ此等ノ人ガ二者  
 ノ得失ヲ判シ宰相ニ與ミスルハ誰レカ又之ヲ怪マンヤ



地方紳士ハ自然ニ王權黨ノ中堅ヲ成シ本心該黨ノ主意ヲ奉スル者ナレバ素ヨリ私利ノ誘惑ヲ須非スト雖モ而カモ王ノ寛大ニシテ宰相ノ恩ヲ忽ニセザルヤ之ニ褒賞ヲ與ヘテ以テ其忠誠ニ報ヒタリ故ニ人若シ家内ニ碌々タルヲ甘ンセス出デ、志ヲ遂ケント欲スル乎請フ議員選舉ノ時ニ熱心ヲ示セヨ彼レ若シ人生ノ競馬ニ於テ人後ニ啞喑タルヲ欲セザラン乎請フ躊躇スルヲ勿レ熱心ニ王權主義ヲ主張セヨ而シテ民權黨ノ地方紳士若クハ異國教黨ニ至テハ保安官タルノ職スヲ且望ム能ハズ故ニ就官受爵ノ望ハ更ニ王權黨ノ熱心ヲ鼓シ民權黨中狐疑セル輩モ多クハ去テ王權黨ニ歸セリ又既ニ論セシ如ク金滿家社會ハ漸々民權黨ヲ脱シテ王及ヒ王權黨ニ與ミシ今ヤ中心ヨリピット氏ヲ

交際上改進黨主義擯斥セラレ

翼賛スルニ至レリピット氏戰爭ノ爲ニ公債ヲ募リ租稅ヲ課シ以テ人民ヲ貧困ニ陥ラシメタリトセバ少ナクモ金滿家社會ノミハ爲メニ大ニ繁榮ト富裕トヲ買ヒ得タリ斯カル宰相ハ極メテ金滿家ノ爲メニ利益アルヲ以テ彼輩ハ唯々シテ之ニ忠誠ヲ盡サ、ルヲ得ズ宰相ハ巨額ノ國財ヲ消費シテ彼輩ノ忠誠ヲ買ヒ而シテ吾人ハ今日尙ホ其忠誠ノ代價ヲ拂ヒ居リ今後モ久シク之ヲ拂ザルヲ得ザル可シ民權黨ノ勢力ヲ衰退セシム可キ原因更ニ一アリ交際上改進黨主義ノ擯斥ヲ蒙ルヲ即チ是ニシテ此事ヤ本年代ニ至ルマデ然リシナリ改進黨主義ヲ公唱スル人ハ政治上及ヒ藝業上ノ立身ヲ妨ケラル、ニ止マラズ交際上又指彈擯斥ヲ免レズ世人民權黨員ヲ見ルヤ相耳語シテ曰ク彼レハ政治上



不平家ナルノミナラズ宗教上自由信仰家即チ邪說者ナリト宴會ノ席ニ於テモ高聲ナル者ハ仲間ノ賛成ニ鼓セラレ民權家ノ主義及ヒ其黨友ヲ誹毀嘲笑セリ民權家若シ忍ンテ爭ハザランニハ屈服シタリト認メラレ若シ激シテ爭フキハ其忿怒ハ平生ノ政治主義粗暴ナルノ證ト認メラルナリ

蘇格蘭ノ王權黨

蘇格蘭ニ於テハ王權黨ノ組織英國ニ比スレバ一層鞏固ニ其主義亦一層擅恣過激ナリキ高位ノ人富豪ノ人有權ノ人及ヒ四分ノ三ノ人民ハ該國ノ執政者ダンドス氏ヲ戴テ固結セル一脈ヲ成セリ而シテ斯ク權力一方ニ偏集シ毫モ民權制度ノ之ヲ控制スルアラズ選舉ノ自由ナク獨立ノ城市ナク出版ノ自由ナク公會結社ノ風ナキ國ニ於テハ多數黨

ハ拔扈ヲ逞ウシテ節スル所ヲ知ラス野蠻的ノ暴横ヲ以テ飽クマデモ反對黨ヲ撲滅ス可シ故ニ民權黨ハ「ジャコビン黨」ヘ同視セラレ交際上ニ於テハ忌避セラレ法庭ニ於テハ威迫セラレ演說者及ヒ新聞記者トシテハ苟モ慎マザルアレハ忽チニ嚴罰セラレタリ然レモ幸ニシテ法廷ニハ往々民權黨ノ領袖ナキニ非スシテ此等卓絶ナル人ハ非常ノ損失及ヒ危險ヲ冒シテ敢テ其主義ヲ公唱シ自黨ノ滅セントスル冀望ヲ稍々維持シタリ此等領袖中頓才能辨政治上ノ勇氣ヲ以テ最モ聞ヘタルハ高名ノ狀師ヘンリー・エルスキン氏ナリ嗚呼恐怖ノ世ニ際シ其才力性行ヲ以テ能ク自由ノ主義感情ヲ維持シタルノ人ニ向テハ吾人幾重ニモ其榮譽ヲ表セザル可ラザルナリ



コックバルン公ハダングス氏執政間ノ政黨ノ有様ニ關シ  
 快活ナル一話ヲ與ヘ之ヲ約活スルニ左ノ數言ヲ以テセリ  
 曰ク人民ハ抑壓セラレ民權黨ハ無勢力ニシテ政府ハ蘇格  
 蘭全國ノ各人ヲ隨意ニ支配シ就中政府權力ノ本據タルニ  
 チンポロー府ノ人民ハ最モ政府ニ從屬シタリ佛國革命黨  
 ノ不信ノ處置ハ信者ヲシテ悉ク政府ニ左袒セシメ其殘暴  
 ナル處置ハ怯弱ナル者ヲシテ悉ク政府ニ與ミセシメ而シ  
 テ益々増加スル租稅歲出ハ射利貪財ノ輩ヲシテ悉ク政府  
 ニ黨セシメ上等社會及ヒ中等社會ハ政府ノ指揮ヲ奉シ一  
 般人民ハ政府ノ足下ニ抑壓セラレタリ說教者、法官、狀  
 師、學校生徒、議員選舉者、出版者、保安官、地方官ノ  
 如キハ政府ノ命維レ奉シ獨立ナド言フ思想ハ嘗ニ狂且愚

ピット氏ノ權  
 勢ハ自由ヲ害  
 スルノ危險アリ

民權黨政府反  
 對ノ位置ニ立  
 テ依然屈セズ

ナルノミナラズ又忘恩負義ノ事ナリト爲シ其良心ニ制セ  
 ラレテ又之ヲ懷ク者アラザリキト  
 主治者ヲ二分シ一黨ハ以テ政府ノ權力ヲ支持シ一黨ハ以  
 テ人民ノ權利ヲ保護スルハ是レ實ニ政黨ノ第一ノ効用ナ  
 リ然レモピット氏ハ各黨ヲ悉ク己レノ一黨ニ合併シ其勢  
 力盛大ヲ極メテ亦當ル可ラズ勤王ノ情、愛國ノ情、恐懼  
 ノ情、私利ノ情ハ相合シテ古今未曾有ノ一大政黨ヲ集成  
 セシ者ニシテ人民自由ノ爲メニ云ハド斯ガル政黨ノ決シ  
 テ再ヒ知ラレサランヲ祈ラザル可カラズ  
 斯ク落膽失望ノ際ニ在テ民權黨ノ殘員ハ尙ホピット氏ノ  
 抑壓政畧ニ抵抗シ熱心ニ平和ヲ恢復センコトニ盡力セリ然  
 レドモ政府ニ抵抗スルハ到底其ノ甲斐ナク議論諫諍ハ畢



一千七百九十八年民權黨員ノ退席

竟無益ニ屬シ可否ノ起立ヲ取ルハ自黨ノ小數ニシテ勢力ナキヲ證明スルニ過ギズ是ヲ以テ終ニ一千七百九十八年ニ於テフオックス氏及ヒ其ノ黨友ノ多クハ異議録ニ署名シ而シテ宰相政略ノ責任ヲ分擔セザランガ爲メニ議院ヲ退キ其ノ討論ニ與カラザル可シト決心セリ即チ一千七百七十六年ト同様ノ軍略ヲ再ヒ行ヒシモノニシテ又同様ノ結果ヲ生ジタリ反對黨ハ之ガ爲メニ更ニ分裂頽廢ヲ促シ其領袖ノ出席ナキヲ以テ宰相ノ之ヲ畏憚スルコト愈々薄ク其說ヲ輿論ニ訴フルコト愈々弱キニ至レリ此時ノ民權黨退席ノ爲メニ利益ヲ得タルハ獨リチルニ一氏アルノミ民權黨ノ領袖去リシヲ以テ氏ハ該黨ノ正面ニ表出シ自然ニ領袖タルノ位置ヲ占メ綽々トシテ非常ノ勇氣活潑ヲ以テ政府

一千八百一一年王權黨ノ分裂及ヒ其結果

一切ノ處置ニ抵抗シタリ此時ノ退席ハ三期ノ國會ニ亘リシト雖モ宰相ニ對スル恐嚇トシテハ何等ノ効モアラザリシナリ何トナレバ此間宰相ハ益々其志氣ヲ固ウシテ一層ノ專斷政略ヲ行ヒ而シテ反對黨ハ一層ノ衰退ヲ招キタレバナリ

ピット氏ハ最早ヤ此上ニ其權力ヲ増加スルヲ要セザリシト雖モ愛爾蘭トノ合併成リシガ爲メニ該國ヨリ溢ル、王權黨ノ來リテ更ニ氏ノ多數黨ヲ補充セリ然レニ宰相ノ繁榮頂點ニ達シ斯ク愛爾蘭トノ合併成リシコトハ反テ宰相ヲ顛覆シテ其黨派ヲ中心ニマテ衝擊スルノ結果ヲ生シタリ該黨ノ勢力極メテ強大ニシテ假令ヒ一領袖ヲ失フモ爲メニ壓倒セラル可キニ非スト雖トモ黨員ノ異說ト競争トノ



爲メニ該黨分裂ヲ來スニ他政黨ニ對スル關係ヲ著シク變  
スルニ至レリピット氏ガ羅馬舊教徒赦免疑問及ヒ愛爾蘭  
施政疑問ニ關シテ懷ケル寛大ナル主義ハ同僚中ノ最モ卓  
見ナル者及ヒ殆ト凡テノ民權黨ニ於テハ之ヲ贊成シタリ  
ト雖モ其黨員ノ多數ハ王ト相黨シ氏ノ政略ヲ國教及ヒ政  
府ニ危険アリトシテ非難セリ而シテ此分裂ハ竟ニ之ヲ全  
醫スルヲ得ズシテ後年該黨ノ破壞ヲ來タスノ原因トナレ  
リピット氏職ヲ退クヤ一身上ノ不和ノ爲メニ諸領袖相分  
離シ或ハ脫黨スル者モアリシカバ從來固結シテ一體ヲ成  
セシ該黨モ今ハ大ニ其固結ヲ失ヒタリ舉動赫灼トシテ燃  
ユルガ如ク青雲ノ志溢レ陰謀ヲ喜フ所ノケンニング氏ハ  
温和ナルアツヂントン氏ヲ輕蔑シ諧謔諷刺ヲ以テ憚ル所

ナク之ヲ罵リ其演說ヲ嘲笑シ其政略ヲ非難シ其朋友ヲ凌  
辱セリピット氏ト之ニ代テ首相トナリシアツヂントン氏ト  
ハ故アリテ相猜忌セシニケンニング氏ハ力ヲ盡シテ益々  
兩氏ノ不和ヲ煽起シタリシカバ遂ニ王權黨ノ大領袖ピッ  
ト氏及ビ其黨友ハ民權黨ト相協同シテ王權黨ノ内閣ヲ攻  
撃スルニ至レリ斯クテ王權黨ハ痛ク分裂セシニ又一方ニ  
於テハピット氏ノ黨友ト反對黨中ノ民權黨員トノ交誼ヲ  
益々厚ウスルニ至レリグレンヅル公及ヒ其黨友ハ今ヤピ  
ット氏ト相去リ民權黨ニ移リシヲ以テ之ガ爲メ該黨ノ勢  
力ヲ恢復スルノ好望ヲ前途ニ示セリ而シテ一千八百四年  
ピット氏再ヒ宰相トナルニ及ヒ今ヤ氏ハ王ノ黨友及ヒア  
ツヂントン氏ノ黨派ト相別レシガ故ニ勢ヒクレンヅル公



及ヒ其他民權黨領袖ノ同盟ヲ求ムルニ至レリ蓋シ此等領袖ノ議院討論ノ才ハ其黨員ノ少ナキヲ償フテ遙カニ餘リアルナリ且グレンゾナル公ノ位置ハ大ニ此同盟ノ爲メニ便ナル者アリ何トナレバ公ハ曾テピット氏ノ同僚タリシニ今ハ又フックス氏ノ朋友ナルガ故ニ曾テ久シク相争ヒ今マ遂ニ一致スル所アラントスル此二黨間ノ中介者タルニ最モ適スレバナリ然レモ不幸ニシテ王ガ一身上フックス氏ヲ嫌惡スルノ甚シキガ爲メニ折角ノ協議モ成ル能ハスシテ止メリ此同盟若シ成リシナラハ王權黨中ノ改進黨ト民權黨ト相連合シ當代最大政治家ノ率ユル改進黨主義ノ一大政黨ヲ組織スルヲ得可カリシニ其成ラザリシコソ惜ム可ケレ而シテグレンゾナル公ハ其新タニ結ヒシ民權黨ニ忠誠

一千八百六年  
民權黨再ヒ位  
置ヲ内閣ニ復  
ス

ヲ盡シ之ト共ニスルニ非ズンバ獨リ内閣ニ入ルヲ拒絕セリピット氏ハ斯クテ其勢力衰ヘシヲ以テ再ヒアツヂントン氏ト和ヲ媾シ其離散セル黨員ヲ集合セザル可カラザルニ至レリ然レモ此結合久シキヲ保ツ能ハズ而シテ其ノ再度ノ分裂ハ更ニ甚シカリケレバピット氏ノ死スルヤアツシントン氏ノ黨派ハ民權黨ト相聯合セントスルマデニ至レリ

王權黨斯ク破壊セシヲ以テ民權黨ハ暫時位置ヲ内閣ニ復スルヲ得タリ然レモ獨立ナル一政黨トシテ内閣ニ立ツニハ其勢力尙ホ甚タ微弱ナリシガ故ニグレンゾナル黨シドマウス公、王ノ黨友ト相聯立セリ蓋シ斯カル聯立ヨリモ寧ロ民權黨トピット黨ノ改進黨ト相聯立スルコソ一層當



然合宣ナルカ如シト雖モシドマウス公ト前内閣トノ間ニハ特別ノ關係モアリ公ノ黨友甚々多クシテ公モ平和主義ニ熱心ナリト認メラレ且公ハ一身上王ヲ動かスノ勢力アリシカバ遂ニ斯卡ル聯立ヲ必要ナリトスルニ至レリ當時何レノ政黨モ孤立スル能ハザリシヲ以テ聯立ハ實ニ避ク可ラザルナリ而シテシドマウス公ハ一身上ピット氏ノ黨友ト相合ハザリシガ故ニ自然ニグレンザル公及ヒフックス氏ト相結ハントシ又フックス氏ハ王ノ嫌惡スル所ナルヲ以テ王ノ黨友ヲ率ユル領袖ト相結ブヲ喜ベリ此聯立ハ政治上ノ主義及ヒ緣故ヲ全ク異ニセル人ノ間ニ成リシハ猶ホ二十三年前ノフックス氏及ヒノルス公ノ聯立ニ異ナルナシ然ルニフックス氏及ヒノルス公ノ聯立ハ一層有名

ニシテ痛ク世ノ非難ヲ受ケタリト雖モ今回ノ聯立ハ其非難ヲ免レタリ

ピット氏ノ戰爭政略著シク失敗シ租稅益々増加シテ人民疲レシカバ常ニ平和主義ヲ唱ヘテ止マザリシ民權黨ヲシテ其以前ノ勢力人望ノ幾分ヲ恢復スルノ好機ヲ得セシメタリ且民權黨ガ暫時政權ヲ執リシ間ニ奴隸貿易ヲ廢止シ其他賢明有益ナル政略ヲ施セリ然レモ該黨ハ王ノ信任ヲ博スル能ハザルノミナラズウエールス太子ノ歡心ヲ復スルコトスラ能ハズ其他選舉上ニ失策ヲ行ヒフックス氏死シ平和條約ノ商議不調トナリシ等ノ事アリシカバ王ノ嫌惡ト反對黨ノ隱謀トノ爲メニ容易ニ破ラジタリ

一千八百七年



王權黨内閣ニ  
位置ヲ復ス

ト雖正直チニ滅亡ス可キニ非ザルハ今マ之ヲ知ル可ヘシ  
此政黨ハ豪邁雄偉ナル大領袖ヲ失ヒ且其大領袖ノ自カラ  
率非シ黨員トシドマウス公及ヒ王ノ黨友ト相分裂セシガ  
爲メニ大ニ其組織ヲ破壊セリ今ヤ大才アル政治家ノ落膽  
セル黨員ヲシテ冀望ヲ復セシムルニ足ル者ナク且其最モ  
有力ナル諸領袖ハ互ニ嫉妬競争セリ然レ正王ハ此黨ノ最  
モ活潑熱心ナル恩人ニシテ其王權ヲ傾クテ之ヲ保護シ且  
國教危險ナリ法王教行ハレシム可カラズノ喊呼ハ忽チニ  
該黨ノ散卒ヲ集聚セシムルニ足レリ羅馬舊教徒ノ主張チ  
可トスル宣教師ト雖正ヘルセヴァル氏及ヒ其黨友ガ人民ノ  
宗教心ニ訴ヘントスルヲ見テ其機ニ乘スルヲ喜ベリ抑々  
人民ノ宗教心ニ訴フルハ往時モ王權黨ノ屢々出テシ軍略

ニシテジョージ一世ノ即位スルヤ當時ノ王權黨ハ舊教ヲ  
奉スルゼームス王ノ子孫ヲ即位セシメント欲シ國教危險  
ナリトノ口實ヲ唱ヘタリ按當時ハ舊教ヲ又ピット氏ガ一  
千八百一年及ヒ同七年ニ敗ヲ取リシモ同一ノ原因ニ出デ  
シトニシテ今ヤ又ポルトランド公及ヒベルセヴァル氏ハ此  
軍略ヲ以テ王權黨ノ勢力及ヒ結合ヲ恢復スルヲ得タリ  
非國教黨ヲ如キモ舊教ヲ惡ムノ情甚シキヨリ信仰自由ヲ  
主張スル人ヲ取ラズシテ反テ朝廷黨及ヒ國教黨ノ候補者  
ヲ撰舉スルヲ屢々之アリ且民權黨ハ人民一般ノ贊助ヲ受  
クルニ非ズ州郡ニ於テハ王及ヒ王權黨ノ豪族其人民ヲ懷  
ケ又人口多キ市邑ニ於テハ一層共和主義ノ候補者ヲ喜ベ  
リ



一千八百七年  
ヨリ同十一年  
ニ至ルマテ反  
對黨ノ位置ニ  
立テル民權黨

今ヤ民權黨ハ再ヒ敗テ取レリ然レモ曩キニ暫時政權ヲ恢  
復セシガ爲メニ反對黨トシテノ其勢力モ増加セリ該黨ハ  
最早ヤ王家ノ愛顧及ヒ人民ノ信任ヲ得ルノ望ナキ舉世ヨ  
リ擯斥セラレタル黨派ニハ非ザルナリ可否決ニ於テハ政  
府黨ニ比シ黨員ノ數尙ホ多カラズト雖モ其說ハ漸ク容忍  
セラル、所トナリ從前隱レタリシ人民ノ贊助ハ今ヤ次第  
ニ公表セララル、ニ至レリ蘇格蘭ニ於テハ此事特ニ然リト  
ス蓋シ該國王權黨ノ仰テ偶像トセルメルヴィル公ノ彈劾ハ  
痛ク該黨ノ勢力ヲ挫キ民權黨政府ニ立テ權力恩典ヲ左右  
スルノ異觀ヲ見ルニ至リシカバコックバルン公ノ語ヲ以  
テ云ヘバ王權黨モ今ヤ始メテ自黨ノ不窮不滅ノ者ニ非ザ  
ルヲ悟ルニ至レリ尤モ該黨政治上ノ勢力ハ若シク減少セ

シニ非ズト雖モ其志氣大ニ和ラキ少數黨ノ權利ヲモ適當  
ニ敬重セザル可ラザルヲ知ルニ至レリメルヴィル公黜ケラ  
ル、ヤ其子ロベルト、ダンダス氏代テ蘇格蘭ノ政ヲ執リシ  
ガ氏ハ父ニ比スレバ才幹劣リ有權黨ノ領袖タル職ヲ行フ  
ニ於テ大ニ公平温和ノ徵ヲ現ハセリ  
今ヤ民權黨ノ壯年輩ハ學藝上及ヒ蘇格蘭ノ法庭ニ於テ次  
第ニ其名ヲ揚クルニ至レリブローハム氏、フランシス、チル  
ナー氏、ゼツフレード氏、シドニー、スミス氏、コックバルン氏、マ  
ルレー氏ノ如キハ何レモ當代ノ政海及ヒ學海ニ於テ大學  
動ヲ爲ス可キ人ニシテ既ニ民權黨ノ黨望及ヒ利害ニ大ニ  
影響ヲ及ボセリ而シテ夫ノ「エチンボロー、レヴィエ」雜誌ヲ  
起シタルガ如キハ此等ノ人ガ國家ノ爲メニ盡セル大功ノ



一ナリトス此雜誌ヤ最高ノ文學上ノ價值ニ兼ヌルニ遙ニ當時ノ文運ニ先ンシタル政治上ノ卓論偉説ヲ以テシ當時蘇國ノ文學上殆ト跡ヲ絶クントセル人民ノ自由ヲ熱心ニ主張シテ而カモ過激ニ流レサリシヲ以テ有名ナル者ナリ

(原註)本文ノ雜誌ハ一千八百二年ニ其第一號ヲ發兌セリ

是ニ於テ平民權黨ハ再ヒ強大ナル一政黨トナレリ數年前ニハ高位有權ノ人ハ多ク該黨ヲ棄テシト雖モ今ヤ次第ニ民權黨ノ豪族ヲ復歸セシムルニ至レリ該黨ノ主義ハ大才アル數多ノ政治家之ヲ代表シ其黨員モ一千七百九十三年以來大ニ増加スルヲ得タリ然レモ其綜理及ヒ組織ハ未ダ備ハラズシテ其運動調和規律ヲ欲ケリホーウィツク公ガ其父ノ死ノ爲メニ上院ニ移サル、ヤホワイトブレツド氏及ヒ

一千八百七年  
ヨリ同十二年  
ニ至ルマデ王  
權黨ノ執政

ヘンリー、ベッチー公ノ二人互ニ領袖ノ位置ヲ争ヒ爲メニ民權黨ニ舊交縁故ナキ愛爾蘭人ボンソンビー氏ヲ以テ其領袖トナスニ至レリ又一千八百九年ニ至リ、ヨーク公ノ行爲ニ關スル審問ノ爲メ更ニ該黨ノ分裂ヲ來セリ又數年間ハグロト公ヲ領袖トスル民權黨貴族トホワイトブレツド氏若クハフランシスバルデット氏ニ從フ黨員トノ間ニ十分ノ和合アラザリキ

(按)ヨーク公ハ當時英軍ノ大總督ニシトノ告訴ヲ爲セシ者アリ

テ爲メニ其審問ヲ開ケリ

ポルトランド公及ヒペルセヅル氏ノ内閣ハ最モ狹隘ナル王權主義ニ基キテ組織セラレタリ即チ全ク王及ヒ王ノ黨友ノ政府ニシテ羅馬舊教徒ニ政權ヲ與フルハ國教ニ危險アリトシテ抵抗セリ而シテ抑制鎮壓ヲ以テ國家ノ安寧ヲ



一千八百十二年  
リヴァール  
公ノ内閣

維持スル適藥ナリト爲シ弊害ヲ矯正シ法律ヲ改良スルハ  
走新ノ輕舉ナリトシテ之ニ抵抗セリ  
民權黨ハ私カニ攝政太子ノ愛顧ヲ頼ミテ望ヲ屬スル所ア  
リシト雖モベルセヴァル氏死スルニ及ヒ此最後ノ望モ絶ヘ  
之ニ續キシリヴァール公ノ内閣ハ依然十分ニ王權主義  
ヲ行ヒタリ然レモ此内閣ハ前内閣ニ比スレバ其主義一層  
寛大ナル者アリキ即チ羅馬舊教徒ノ權利剝奪ヲ廢止スル  
ノ疑問ハ今後ハ自由ニ議シ得可キ所トナリ内閣ハ此重大  
ナル疑問ニ關シテ一定ノ議ヲ立テズ各員互ニ獨立ノ意見  
ヲ述ベ隨意ニ投票ヲ爲スヲ得タリ内閣ノ組織此ノ如クナ  
ルヲ以テ勢ヒ各員ノ間ニ分裂ヲ來タサルヲ得ズシテ之  
ガ爲メ遂ニ王權黨ノ破壊ヲ起シタリ此内閣ノ内治政略ハ

王權黨ノ勢力  
益々減少セシ  
一及ヒ之ガ原  
因

嚴刻ト鎮壓トヲ旨トシ苟モ自由國ニ施シ得可キ丈ケハ擅  
制主義ヲ行ヘリ然レモ外戰上ノ勝利光榮ハ其盡力ヲシテ  
奏功セシメ隨テ其勢力ヲ増加シタリシガ是ニ反シテ民權  
黨ハ内閣ノ外交政略及ヒ戰爭主義ヲ攻撃シタリケレバ愛  
國心ナシトノ非難ヲ蒙リ爲メニ該黨ノ人望ヲ失ヒシ一亦  
少ナシトセズ  
然レモ宰相ノ權力大ナリシニモ拘ラズ王權黨ノ勢力ハ漸  
次ニ衰ヘントセリ夫レ王ハ該黨ノ有ナリ而シテ上院亦該  
黨ノ有ナリ何トナレバ貴族ハ元來該黨ト縁故アルガ上ニ  
新貴族ヲ造リテ多數ヲ制スルヲ得レバナリ下院亦該黨ノ  
有ナリ何トナレハ指命及ヒ權勢ニ因テ王權黨ノ人ヲ撰擧  
スルヲ得レバナリ國教寺院亦全ク該黨ノ有ナリ何トナレ



寺院ハ該黨ト感情利害ヲ共ニシ且該黨ニ對シテ恩ヲ荷  
 ヘバナリ然レモ其黨員ノ忠誠ニ至テハ必スシモ常ニ依頼  
 スル能ハズ而シテ人民ノ感情及ビ社會ノ有様ハ大ニ變遷  
 セントスルニ會セリ古キ地方紳士ハ該黨ニ志誠ヲ盡スト  
 從前ノ如クナラント雖モ其土地ハ戰爭、商賣、製造、株  
 式取引等ノ爲メニ富ヲ致セル資本家ノ速ニ購買スル所ト  
 ナリ而シテ新代ノ地方紳士ハ世運一變シテ其祖先ノ狹隘  
 ナル政治主義ヲ脱セントスルノ時ニ會セシテ以テ隨テ其  
 世運ニ適セル新主義新感情ヲ懷クニ至レリ  
 又此際商業製造益々隆盛ヲ加ヘ爲メニ州郡ノ農業地方ヨ  
 リ數多ノ人口ヲ市邑ニ吸集シ市邑常ニ州郡ヲ蠶食シテ止  
 マズ而シテ政治ノ改進ハ活潑敢爲ノ精神ト相伴ヒ政治改

共和ノ感情、慘  
 狀ノ爲メニ激  
 セラル

革ノ嫌忌ハ社會ノ沈滯ト相伴フノ大法ハ全國各地ニ行レ  
 タリ左レバ商工ノ盛大ナル大市邑ハ隱然共和主義ノ萌芽  
 ヲ發生シ州郡地方ハ依然王權主義ノ土地タリシト雖モ前  
 者ハ益々擴張増加シ後者ハ滯滯シ若クハ退却セリ是ニ於  
 テ乎改進ノ氣象ハ勃然トシテ起リ益々民間ニ地步ヲ占メ  
 ツ、アオリキ  
 王權黨政府ハ時代ノ精神ヲ察シ其政略ヲ人民ノ氣質及ヒ  
 事情ニ投セシムルヲ怠リタリ戰爭ノ爲メニ租稅非常ニ増  
 加シタルト戰費支出ノ俄然止ミシトノ爲メニ甚シキ困窮  
 不平ヲ起シ人民ハ嚮々政府ノ非ヲ鳴ラシ共和ノ主義再ヒ  
 民間ニ流布スルニ至レリ而シテ其徵候ノ現ハル、ヤ政府  
 ハ嚴刻ナル鎮壓政略ヲ施シテ粗暴ニ之ヲ抑制セントセシ

一千八百十七  
 年ヨリ同二十  
 年マテ



カバ人民益々政府黨ヲ離レ而シテ民權黨ハ政府ノ政略ニ  
 抵抗シテ人民ト相黨シタリ抑々共和黨若クハ急進黨ト民  
 權黨貴族トハ概テ相疑ヒ相忌ミタリ蓋シ民權黨貴族ハ固  
 ク憲法上ノ自由ヲ主張スト雖モ煽動者及ヒ空論者トハ相  
 親和セザレバナリ然ルニ一千八百十七年及ヒ同十九年ノ  
 事件ハ民權黨及ヒ共和黨ヲ相結バシムルノ結果アリテ此  
 二黨ハ假令ヒ中心相親和スルニ至ラズトスルモ尙ホ黨ヲ  
 共ニスルニ至レリ而シテ民權黨ハ一層民權主義ノ輩ノ加  
 ハ、リシガ爲メニ大ニ其勢力ヲ増加シタリユツベツトハ  
 ノト其他ノ煽動政談家ハ民權黨ノ柔弱ナルヲ非難シ貴族  
 的ノ官途熱望者ナリトシテ之ヲ嘲笑シ又峰起ノ群民ハ民  
 權黨ガ改進黨主義ヲ取レリト自稱スルヲ輕蔑シタリト雖モ

一千八百十七  
 年グレンヅ<sup>井</sup>  
 ル公民權黨ト  
 分離ス  
 民權黨及ヒ王  
 后カロリン

中等社會及ヒ思慮アル人ハ粗暴政談家及ヒ共和主義ノ新  
 聞紙ノ爲メニ誘ハレズ民權黨ノ説ハ憲法上ノ自由ヲ進ム  
 ルニ適スト爲シ以テ該黨ヲ贊助セリ然レモ民權黨ガ斯ク  
 共和主義ニ傾キシガ爲メニグレンヅ<sup>井</sup>ル公及ヒ其黨友ハ再  
 ヒ該黨ヲ去テ王權黨ト相結ベリ而シテ此際ボンソン<sup>井</sup>ビ  
 氏死セシヲ以テチルニ一氏遂ニ反對黨ノ領袖トナレリ  
 政府ガ王后カロリンニ對シテ施セル處置ノ爲メニ民權黨  
 ハ再ヒ急進黨及ヒ人民ノ大部ト相結フニ至レリ民權黨諸領  
 袖ハ王后ニ左袒シタリシガ其議院ニ威望アリ才力絶倫ナ  
 ルノ故ヲ以テ自然ニ一般人民ノ前面ニ立テ之ガ率先者ト  
 ナルニ至レリ(按)カロリンハシヨ<sup>井</sup>四世ノ妃ナリ王ノ爲  
 遊ベリシヨ<sup>井</sup>即位スルニ及ビ若干ノ年金ヲ與ヘテ皇后  
 ノ稱ヲ棄テシメントシタレモ諾セスシテ英國ニ歸レリ是



加 人民知識ノ増

ニ於テ乎政府ハ不義ノ罪アリトシテ訴訟ヲ起シタルシニ  
 人民大ニ妃ヲ愛憫セシヲ以テ離婚議案ヲ取消サマル可カ  
 ラザルニ至リシト雖モ終ニ女皇トシテ即位スル能ハズシテ止メリ  
 民權黨ハ斯ク益々人民ノ感情ト相密着スルニ至リシト同  
 時ニ人民ノ有様ニ永久ノ變化ヲ起シ其政治ニ對スル勢力  
 次第ニ増加セリ教育速ニ普及シテ各階級ノ人民益々知識  
 ナ増加セリ而シテ前後相續テ立チタル内閣ハ嚴刻ナル政  
 略ヲ施セシト雖モ出版ノ活潑ナル勢力ヲ壓スルヲ能ハズ  
 又世人共和主義ヲ恐怖スルノ情ハ既ニ消滅シ反對黨ノ演  
 說者及ヒ記者ハ廣ク改進黨ヲ弘布シ輿論ハ政府ノ政略  
 上ニ其意見ヲ貫徹セシムルノ權アルヲ再ヒ主張スルニ至  
 レリ左レバ王權黨ト雖モ幾分カ時代ノ此精神ニ應セザル  
 ナ得ズシテリゾアール公執政ノ最後數年間ニ於テ數多

ノ賢明ナル改進黨略ヲ行フニ至リシハ實ニ立法ノ歴史上  
 一新紀元ノ端ヲ開キシ者ト言フ可シ内治上及ヒ經濟上ノ  
 政略ニ關シテハピール氏及ヒハスキスソノ氏ハ他ノ王權  
 黨ノ人ニ比スレバ遙カニ進ミタル改進黨主義ヲ懷キ又外交  
 政略ニ關シテハケンニング氏從來ノ狹隘因循ナル外交政  
 略ヲ破壊シ君主ノ權利ノミナラズ又人民正當ノ權利ヲモ  
 承認シタリ然レモ政府黨ノ政治主義ハ憲法ニ因テ自治ノ  
 特權ヲ有スト想像セラレタル知識ノ進歩シテ止マザル人  
 民ノ感情ト益々相背馳スルニ至レリ左レバエルドン公ノ  
 如キ人ハ遠ク當世ニ後レタリト雖モ尙ホ依然政權ヲ保有  
 シ又ベルセヴァル氏ノ時代ニ在テ天晴ノ政治家ラシキ賢明  
 ノ卓見ナリトテ稱賛ヲ受ケシ說モ今ヤ壯若ナル輩ハ老耄



者ノ愚痴ナリトテ嘲笑スルニ至リシト雖モ尙ホ此等ノ説依然行レテ當時ノ最モ有力ナル討論者及ビ記者ノ議論ヲ壓倒シタリ

共和主義一般ニ弘布セラル

英國ニ於テ共和主義ノ成長ヲ助ケタル近因ノ外ニ之ガ遠因トシテ過クル五十年間ニ歐羅巴及ヒ亞米利加ニ於テ一般ニ社會ノ上進セシヲ記セザル可ラズ北米合衆國ハ既ニ一大共和國ヲ建立シ又佛蘭西革命ノ精神是レ亦一層深キ原因アリテ起レリハ恰カモ惡疫ノ蔓延スルガ如キ勢ヲ以テ全文明世界ニ流布セラレタリ古來ノ立君政治顛覆セラレ國王廢位セラレタルハ宛然演劇ヲ觀ルニ異ナルナク人民カ權力ヲ尊崇スル世襲ノ感情ハ破壊セラレ人民ガ畏敬シテ唯ダ從ハンヲ爭ヒタル偶像ハ地上ニ投下セラレタ

リ今ヤ人民ハ主治者ノ權力ヨリモ寧ロ己レノ權力ノ貴重ス可キヲ知リ己レノ權利ヲ主張シ己レノ勢力強大ナルヲ感スルニ至レリ左レバ其政體ノ如何ヲ問ハス各國共ニ共和主義ハ社會上ニ出版上ニ將テ人民ノ感情上ニ益々勢力ヲ張リタリ是ニ於テ乎賢明ナル政府ハ早クモ時勢ニ從フノ政略ヲ施シ之ニ反ノ盲目頑固ノ主治者ハ人民ヲ煽動スル者トシテ此主義ヲ鎮壓セントシタリ此主義ヤ時トシテハ擅制政略ノ爲メニ蹂躪セラレ沈ンテ危險ナル不平心トナリ時トシテハ恐怖ト狐疑トヲ以テ遇セラレ破裂シテ猛烈ナル革命トナレリ然レモ英國ニ於テハ此主義ハ自由政體ト相調和シ唯人民黨ニ勢力ヲ加ヘ遂ニ憲法上ノ自由ヲシテ勝ヲ制セシメタルニ止マレリ之ト同時ニ社會ハ英國未



社會ニ於テハ此等ノ變勢ノ靜カニ行ハル、ニ際シリゾア  
 プール公病ニ罹リテ遂ニ起タザリケレバ強大ナル王權黨  
 ノ結合モ俄然トソ瓦解スルニ至レリ公ハ前王及ヒ前代ノ  
 政略及ヒ政治制度ヲ代表スルノ政治家ニシテ内閣中公ノ黨  
 裂  
 ヒ王權黨ノ分  
 リゾア  
 プール  
 公ノ死ニ及  
 至ルマテ嚴然トシテ其權力ヲ妄用セサルハナカリキ然レ  
 臣社會人民ハ漸次ニ温和ナル取扱ト一層ノ尊敬ヲ受クル  
 ノ權アルヲ主張シ而シテ斯ク社會ノ有様一變セルガ爲メ  
 ニ人民ノ政治思想ニ一層ノ刺激ヲ加ヘタリ  
 シ苟モ權力ヲ有スル者ハ上、長官ヨリ下、法衙ノ使丁ニ  
 ナル督制ヲ行ヒ主人ハ其職人ニ對シテ苛刻ナル規則ヲ施  
 人民ハ權力ノ重量ニ壓抑セラレ兩親ハ其子ニ對シテ嚴密  
 社會テ有ラザルノ自由ヲ享有スルニ至レテ從前各階級ノ

友ハ一層改進主義ノ同僚ニ比シテ其數大ニ超過セリ而シ  
 テ内閣員中最モ才識ヲ以テ著ハレ且最モ熱心ニ羅馬舊教  
 徒ノ政權恢復ヲ主張シタルケンニング氏ハ今ヤ擧ラレテ  
 内閣ノ首相トナレリ王ハ羅馬舊教徒ノ赦免ヲ實行スル權  
 ヲ氏ニ托セザリシト雖モ氏ノ首相トナリシハウエリントン  
 公エルドン公ピール氏バサースト公メルヴィル公及ヒ其他  
 著名ナル王權黨員ノ退職ヲ促スノ相圖トナレリ又パルマ  
 ーストーン公ハスキントン氏ウイン氏ハケンニング氏ヲ戴  
 テ依然内閣ニ止マリ學識アル記録判事ジョン、コプリー氏  
 ハエルドン公ニ代テ大法官ノ職ニ就ケリ蓋シ公ノ大法官  
 タルハ恰モ國家不變ノ一制度ナルガ如クナリシニ茲ニ至  
 テ乃チ更迭アリタリ抑々王權黨ノ斯ク分裂セシハ羅馬舊



教徒赦免疑問ニ關シテ意見ノ相合ハザリシニ原因スルハ此等政治家ノ公言セシ所ニ一身上ノ志望及ヒ猜忌ノ如キモ之レガ原因トナリシナラント雖ヒ要スルニ初メリ  
 ヲアール公ノ内閣ヲ組織スルニ當リ此大疑問ニ關シテ各自獨立ノ意見ヲ述ベ得ルノ約ナリシハ早ク既ニ分裂、  
 競争、軋轢ノ種子ヲ播キシ者タルコト決シテ疑フ可ラズ  
 ケニンング氏及ヒ其黨友ハ討論及ヒ可否決ニ於テ其同僚ニ抵抗シ反對黨ヨリ熱心ナル贊助ヲ受ケタリ而シテケニンング氏ノ一身上ノ主張ノ如キモ亦其同僚中ノ一層狹隘ナル主義ヲ持スル部分ヲ内閣外ニ驅逐スルノ一原因トナレリ

ケニンング氏

事情此ノ如クナルヲ以テケニンング氏ハ自然ニ民權黨ノ

民權黨ノ贊助ヲ受ク

親切ナル贊助ヲ得タリ議院改革疑問及ヒ官吏誓約條例廢止疑問ニ關シテハ該黨ハ氏ト其意見ヲ異ニスト雖ヒ舊教徒赦免疑問ニ關シテハ久シク氏ニ黨シテ戰ヘリ又該黨ハ氏ノ寛大ナル外交政略ヲ可トシ又氏ガ熱心ナル王權黨ノ同僚ト分離セシヲ見テ改進自由ノ主義ニ基ケル良政府ヲ得ルノ豫兆ナリトシテ之ヲ祝セリ氏及ヒ該黨ガ直ニ聯立スルハ望マシキトニ非ズシテグレンー公及ヒ其他ノ民權黨領袖ハ之ヲ非トセリ然レモランスダウン公カールニッスル公チルニー氏ハ速カニ内閣ニ入り而シテ總體ノ民權黨ハケニンング氏ト相去リタル王權黨ノ辛キ攻撃ニ對シテ氏ヲ贊助セント待チ構ヘタリ王權黨中ノ改進派ト民權黨ト相結合シタル事情ハ此ノ如クニシテ此結合ヤ最モ緊要ナル



ケンニク氏ノ  
死後政黨ノ分  
裂

政治上ノ結果ヲ將來ニ生シタリ  
然ルニ爾後數月ニシテケンニク氏ハ名聲赫灼トシテ世  
人其成敗如何ヲ試ミノトスルニ際シ俄然政治界ヨリ奪ハ  
レタリ氏ノ以前ノ朋友及ヒ黨與ハ氏ノ爲メニ最モ痛マシ  
キ敵トナリ又氏ガ新々ニ得タル民權黨同盟者ハ如何ニ誠  
實ナリトスルモ原ト大本ノ主義ヲ異ニシ且久シク政府ニ  
抵抗シテ反對黨ノ位置ニ立チシコナレバ其緣故上ヨリシ  
テ勢ヒ氏ト相去ラザルヲ得ズ左レバ既ニ破壊セラレタル  
氏ノ健康ハ今ヤ其位置ノ困難ナルガ爲メニ遂ニ侵サレタ  
リ若シ氏ヲシテ壽ヲ保タシメタランニハ此困難ニ打テ勝  
チ相讓リテ強固有識ナル一政黨ヲ組織シ而シテ氏之ヲ率  
ユルヲ得シナラン然レトモ氏ノ大才ハ如何ナル事業ヲ成就

スルニ足リシトスルモ要スルニ氏ニ續テ立チタルゴード  
リツチ公ニ至テハ力決シテ之レニ及ハザル也公ハ五ヶ月間  
假リニ政權ヲ握リシト雖ヒ兩黨ノ要求及ヒ主張ヲ調和セ  
シムルコト能ハズシテ其望ミナキ職ヲ辭セリ而シテケンニ  
ク黨ト民權黨トハ後チ久シカラズシテ固結スト雖ヒ此  
結合ハ更ニ好機ノ到ルヲ俟テリ

ウエリントン  
公首相トナル

ゴードリツチ公職ヲ辭スルヤウエリントン公ヲ首相トシテ從  
前ノ王權黨直ニ位置ヲ内閣ニ復セリ蓋シ當時斯カル内閣  
ヲ組織スルガ如キハ驚ク可キ退歩ノ運動ナリト云フ可シ  
此武人宰相ハ其武友ト最モ狹隘ナル王權主義ノ黨員トシ  
以テ其同僚ヲ組織セシカバ曩ニケンニク内閣ニ立ツニ  
當テ良政府ヲ見ルアラント樂ミシ者ヲシテ大ニ失望セシ



メザルヲ得ズ但シ當初ウエリントン公ハバルマーストン公  
 ハスキスソソ氏其他ケンニンク氏ノ朋友ノ贊助ヲ得タリ  
 ト雖モ大體ニ於テ此内閣ハ極端王權黨ナリシガ故ニ改進  
 派ノ内閣員ハ數月ニシテ悉ク去レリ然レモ時勢既ニ一變  
 シ頑固ナル主義ヲ以テ自由及ヒ正理ヲ壓倒スルハ今ヤ復  
 タ能クシ得可キ所ニアラザレバ王權黨ガ一時權力ヲ復セ  
 シハ偶々以テ其最後ノ滅亡ヲ促スノ効アリシニ過キズ  
 王權黨ノ城塞ニ對スル第一ノ攻撃ハジョソ、ラスセル公ノ  
 導キシ所ニシテ公ハ官吏誓約條例廢止ノ議案ヲ出シ政府  
 ノ意見ニ反シテ之ヲ通過セシムルヲ得タリウエリントン公  
 ハ一旦全取ヲ取ルヤ地ヲ棄テ、退軍シ此議案ヲシテ上下  
 兩院ヲ通過セシメシカバエルドソ公ウインキルシー公其他

一千八百二十  
 八年二月二十  
 六日官吏誓約  
 條例ノ廢止

舊教徒赦免疑  
 問ト政黨トノ  
 關係

極端王權黨ノ人ハ之ヲ見テ怒リ罵レリ  
 ウエリントン公ノ次キニ逢遭シタル困難ハ愛爾蘭ノ事件ナ  
 リ該國ノ事件ハ今ヤ焦眉ノ急トナリ直ニ其要求ヲ許容ス  
 ル乎然ラズンバ兵力ヲ以テ之ヲ鎮壓スル乎二者其一ニ出  
 テザル可カラザルニ至レリ而シテ内閣ノ狹隘ナル政畧ハ  
 最早ヤ之ヲ維持ス可カラサルヲ以テ宰相ハ寧ロ自黨ニ對  
 スル義務ニ背クモ國家ニ對スル義務ヲ盡ササル可ラズト  
 爲スニ至レリ左レバ王權黨ハ其信任セル領袖ガ俄然舊教  
 黨ノ政權剝奪ヲ廢止スルニ決心セルヲ聞キ驚駭戰慄セリ  
 ウエリントン公及ピール氏ハ舊教徒赦免ニ抵抗スルノ故ヲ  
 以テ自黨ノ信認ヲ博セシ者ナルニ今ヤ俄然其信任ニ背キ  
 テ變説シタルハ至ク内亂ヲ避ケントノ愛國心ニ出テシ



疑フ可ラズト雖モ其黨員ヤ反對黨及ヒ人民ハ之ヲ見テ果  
 シテ如何ナル判斷ヲ下ダス可キ乎王權黨ハ國教及ヒ祖先  
 傳來ノ新教制度ノ將サニ危カラントスルヲ誠意ニ恐レ疾  
 呼シテ宰相ノ爲メニ賈ラレタルヲ忿恨シ叛將内應ノ爲メ  
 ニ其城塞ノ敵手ニ渡サレシヲ痛歎セリ實ニ黨派心ノ煽起  
 セラレテ火烈ヲ極メシト此時ノ如キハ非ズシテ王權黨ノ  
 大部ハ其忿怒怨恨燃ユルガ如ク相率井テ其領袖ト分離セ  
 リ蓋シ全ク該黨ニ縁故ナキ局外者ノ眼ヲ以テスルモ該黨  
 ノ忿怒ハ當然ノ事タルヲ拒ム能ハザル可シ政黨員互ニ守  
 ル可キノ徳義ヨリ考フルニ該黨ハ實ニ不正ヲ蒙リシ者ナ  
 リ故ニ爾後全ク其領袖ニ對シテ忠誠ヲ絶チタリ  
 又宰相ハ他ノ點ヨリ政治上ノ徳義ニ背キタリトノ攻撃ヲ

受ケタリ民權黨及ヒケンニング黨ハ宰相ガ漸クニシテ違  
 シタル決斷ハ政治家タルニ恥チザル賢明ノ所爲タルヲ承  
 認セシト雖モ尙ホ今ノ内閣員ハ果シテ之ヲ實行スルニ適  
 セル人ナルヤヲ疑ヘリ内閣若シ其頑固ニ主張シ來リタル  
 説ノ最早ヤ維持ス可カラザルヲ悟リシナランニハ何故ニ  
 潔ク降ヲ爲シテ其城塞ヲ敵兵ニ渡サマリシ乎若シ遂ニ公  
 正ナル政略ヲ採用セバ是レ實ニ反對黨ノ主義ガ勝ヲ制シ  
 タル者ナリ故ニ政治上ノ功業ヲ成就スル此ノ榮譽アル特  
 權ハ之ヲ反對黨ニ讓ラザル可ラズ彼輩ハ三十年間ノ久シ  
 キ王權黨ノ僻説ヲ尊敬シタルガ爲メニ其權力ヲ維持スル  
 ヲ得タリ故ニ彼輩一トタビ反對黨ノ政略ニ屈服セシ以上  
 ハ依然其政權ヲ保有スルノ理アル可ラズ若シ舊教徒ヲシ



テ政權ヲ恢復セシムルトセバ之ヲ爲ス任ハ終始一日ノ如ク赦免ノ議ヲ唱ヘタル該教徒ノ朋友ニ托ス可クシテ決シテ其壓抑者タリシ人ニ托ス可カラザルナリ且此説ヲ爲セシハ獨リ反對黨ノミニ非ズシテ王權黨ノ如キモ其領袖ノ變説セシヲ痛難セルト同時ニ又其領袖ガ依然官職ニ戀々タルヲ大ニ駁撃セリ宰相若シ勇退セシナラシニハ王權黨ハ固結セル一躰トナリ假令ヒ民權黨政府ガ王權黨中ノ舊教徒赦免説ヲ主張スル部分ノ贊助ヲ受クルアルモ尙ホ之ニ對シテ強固ナル抵抗ヲ爲スヲ得シナラシ然ルニ宰相職ヲ辭セズシテ政府ノ全權ヲ握リ反テ民權黨ノ贊助ヲ受ケ得ルノ位置ニ立チシヲ以テ之ニ對シテハ王權黨ハ全ク抵抗ノ力ナキナリ

二年前ニ在テハウヰリントン公及ヒピール氏ハ舊教徒赦免ノ議ニ左袒スルヲ忌ミテケンニング氏ノ内閣ニ列スルヲ拒絕シ激烈ニ氏ヲ攻撃シテ止マザリシナリ然ルニ今ヤ反テ此二人ハケンニング氏ト雖モ就職ノ約ニ羈束セラレテ行フ能ハザリシ所ノ此政畧ヲ實行セントセリ故ニケンニング黨ハ此事ヲ指摘シテ頻リニ政府ヲ論難シタリ左ノハ宰相ガ自黨ノ本色タル主義ヲ俄然擲棄シタルヲ見テ各政黨何レモ之ニ驚愕セザルハナク或ハ宰相ガ従前公唱セシ説ハ其誠意ニ出テザルヲ疑フ者アリ或ハ宰相ガ此撞着政畧ヲ爲メニ其政治家タルノ性質及ヒ技倆ニ關シテ世人ノ信任ヲ失ヒタルヲ悲惜スル者アリキ左ノハ王權黨ガ此衝撃ニ堪ヘテ久シク其存在ヲ維持スル能ハザルハ萬



一千八百三十年  
年民權黨政權  
ヲ復ス

人ノ容易ニ看破シ得可キ所ナリ抑々舊教徒赦免ノ疑問ハ  
一千八百一年ニ於テ始メテ固結セル王權黨ノ勢力ヲ挫キ  
爾來攝政ノ時代及ヒシヨ一四世ノ時代ヲ通シテ此疑問  
ハ絶ヘズ該黨ヲ分裂セシメ脆弱ナラシメタルニ今ヤ又此  
疑問ハ遂ニ該黨ヲ片々ニ破壊スルニ至レリ舊教徒赦免條  
例ハ可決セラレタリ然レモ王權黨ノ怨恨ハ時ト共ニ消滅  
セザリキ故ニ爾來政府ハ反對黨ノ贊助ニ因テ其權力ヲ維  
持シ又反對黨ハ之ト同時ニ財政改革、議院改革、弊習匡  
正等ノ議ヲ唱ヘ民權主義ヲ擴張シ以テ政權ヲ自黨ニ執ル  
ノ準備ヲ爲セリ  
一千八百三十年ニ至リ斯ク勢力及ヒ信任ヲ失ヒタル内閣  
ハシヨ一四世ノ殞落ニ會シ議院ヲ解散シテ人民ニ訴ヘ

ザル可ラザルニ至レリ然ルニ此時ヤ内閣ハ最モ人望ヲ失  
シ其黨友ヨリハ忿怨若クハ冷淡ヲ以テ遇セラレ民權黨及  
ヒ急進改革黨ハ大ニ活潑氣勢ヲ加ヘ内國ニハ人民不平ヲ  
懷クアリ外國ニハ革命ノ行ハル、アリテ此等ノ數因相合  
シ更ニ宰相ヲシテ選舉ニ多數ヲ制スル能ハサラシメタリ  
而シテウエリントン公ガ倉卒ニモ議院改革ノ事ニ論及セシ  
ガ爲メニ忽チニ其滅亡ヲ招キタリ公既ニ斃レタリ而シテ  
民權黨ハ其主義ヲ實行シ其勢力ヲ固結スルニ最モ適シタ  
ル時ニ於テ遂ニ權力ヲ恢復シタリグレイ公ノ内閣ハ最モ  
秀俊ナル民權黨員及ヒ夫ノウエリントン公ト分離シテ今ヤ  
議院改革黨ト結合シタルケンニング氏ノ黨友ヲ網羅セリ  
而シテ此結合ヤ當然ニシテ又永續セリ蓋シ此結合ノ種子



ハ一千八百一年王權黨ノ始メテ分裂セシ時ニ播下セラシ  
リヴァーポール公ノ執政中ニ次第ニ生長シケンニング氏ノ  
執政中ニ既ニ成熟シ今ヤ更ニ改革主義ノ刺衝ヲ受ケテ成  
就セサル可カラザルニ至レリ

民權黨及ヒ人  
民ノ結合

且今ノ時勢ハ一般人民ノ贊助ヲ民權黨ニ引キ入ル、ニ適  
シタリ從來民權黨ハ一ノ貴族黨トシテ一方ニ於テハ政府  
黨ト相容ル、能ハズ又一方ニ於テハ激烈ナル急進黨ト相  
結フ能ハザリキ該黨ノ主義大ニ人望アリシニモ拘ラズ尙  
ホ共和黨ノ贊助ヲ得ルヲ能ハザリキ實ニ其贊助ヲ得ル能  
ハザルノミナラズ共和黨ハ反テ民權黨正當ノ勢力ヲ傷ケ  
世人ヲシテ該黨カ自由ノ爲メニスル盡力ヲ危疑セシメシ  
ト少ナカラズ然ルニ今ヤ人民ノ輿論ハ議院改革ノ政畧ヲ

黨望セシヲ以テ改革主義ノ現宰相ハ直ニ人民ノ領袖トナ  
レリ加之従前各國政府ノ恐怖戰慄セシ共和黨ノ如キモ其  
躁暴危険ナルニ拘ラス今ヤ宰相ノ爲メニ避ク可カラザル  
ノ同盟者トナレリ而シテ議院改革前ノ選舉制度ニ於テハ  
僅々ノ人ニ於テ選舉ヲ左右シタリシガ人民ノ改革ニ熱心  
ナルヤ此弊習ヲモ壓倒スルヲ得タリ尤モ王權黨ハ共同ノ  
危険ニ刺衝セラレ曩時ノ怨恨ヲ忘レテ俄然再ヒ結合セリ  
該黨ハ其勢力ノ將サニ全滅セントスルニ驚キ勇敢ニ其本  
據ヲ維持セント勉メタリ然レニ該黨ハ敗ラレ壓覆セラレ  
タリ州郡ニ於テハ地主ノ權勢行レ城市ニ於テハ恩人ノ權  
勢行ハル、ト雖モ此等ノ權勢ハ改革ヲ熱望シテ屈セザル  
人民ノ爲メニ壓倒セラレタリ左レハ一千八百三十一年ノ



議院解散ノ時ハ選舉上ノ弊習未タ一トシテ矯正セラレサ  
 リシト雖モ尙ホ宰相ハ下院ニ非常ノ多數ヲ制スルヲ得タ  
 リ而シテ一千八百三十二年ノ議院解散ハ既ニ新選舉權ヲ  
 施シタル後ナルヲ以テ宰相ハ愈々其勝利ヲ完ウスルヲ得  
 タリ之ニ引換ヘ王權黨ノ衰頽ハ實ニ哀ム可キ者アリ改革  
 後第一回ノ議院ニ於テハ該黨議員ノ數ハ百五十人ニ下タ  
 リシガ一千七百九十三年民權黨ノ最モ衰ヘシ時ト雖モ之  
 ヨリ甚シキニハ陷ラザリキ尤モ上院ニ於テハ王權黨多數  
 ナ占ムルト從前ニ異ナラズト雖モ是レ唯民權黨ヲ牽制シ  
 之ヲ倦勞セシムルノ効アルニ過キズ微々タル上院多數黨  
 ノ力ヲ以テ勝利ヲ制スルガ如キハ固ヨリ爲シ得可カラザ  
 ル論外ノ事ナルノミ

議院改革條例  
 ノ發布後民權  
 黨ノ勢力

議院改革條例發布後最初ノ二年間ハ民權黨ノ歴史中最モ  
 光榮アル時期ナリ該黨ノ主義ハ勝ヲ制シテ實行セラレ該  
 黨員ハ再ヒ廟堂ニ立テ政權ヲ振ヒ且該黨ハ其新ニ得タル  
 勢力ヲ使用シテ古來英國ノ國會ニ名譽ヲ與ヘタル法律中  
 ノ最モ貴重ナル者ヲ制定シタリ即チ奴隸交易ヲ禁止シ東  
 洋トノ通商ヲ公開シ愛爾蘭ノ宗教ヲ革改シ救貧稅ヨリ生  
 ズル危險ヲ匡正スル等ノ諸法律ヲ設ケタリ  
 然レモ民權黨ガ斯ク其全盛ヲ極ムルノ際ニ早クモ既ニ其  
 勢力及ヒ人望ハ漸ク衰ヘントシ政黨ノ關係變セシガ爲メ  
 ニ新タニ困難ノ事情ニ會セリ該黨ガ議院改革條例ヲ行ハ  
 ンカ爲メニ戰ヒシ間ハ各派ノ改革家ハ悉ク相合シテ該黨  
 チ贊助シ其異說ノ如キハ此大戰爭ノ爲メニ覆ハレテ又發

議院改革條例  
 實行後ノ改革  
 黨ノ有様



スルノ機會ナカリシナリ然レモ既ニ勝利ヲ制シテ熱心散  
スルヤ各派改革家ノ異論ハ從前ヨリモ一層強ク現ハレタ  
リ民權黨ト共和黨ノ結合ハ永續ス可キ者ニ非ズシテ今ヤ  
共和黨ハ初メテ議院ニ代議士ヲ出タスニ至レリ又過激ノ  
改革家即チ急進黨ハ國內ニテ既ニ久シク活潑ナル一政黨  
ト認メラレシ所ニシテ今ヤ漸ク下院ニ地歩ヲ占メ凡ソ五  
十人ノ代議士ヲ出タスニ至レリ而シテ此二黨ハ組織ヲ共  
ニスルニ非ズ目的チ一ニスルニ非ズシテ又相信ズル厚カ  
ラズト雖モ尙ホ屢々相黨シテ政府ニ抵抗セリ又議院改革  
條例ノ爲メニ大市邑ノ新タニ議員選舉權ヲ得タル者アリ  
又恩人若クハ自選城市協同ノ束縛ヲ突然免レシ地方モア  
リテ此等ノ場所ヨリ從前ノ民權黨ト毫モ縁故ナキ一派ノ

改革家ヲ選出シタリ此派ノ人ハ民權黨トハ相異ナル泉源  
ヨリ出テ貴族ニ對シテハ何等ノ縁故ヲモ有セズ又タ民權  
黨世襲ノ定説ノ知キハ敢テ之ヲ尊敬セズ其政治上ノ意見  
ハ一層共和主義ニ傾キ曾テ政務ノ困難支吾互讓等ヲ經驗  
セシナキヲ以テ放恣ニシテ自カラ制スルヲ知ラズ此輩  
ノ者ハ改正選舉制度ヨリ生スル菓實ヲ悉ク一時ニ收獲セ  
ント欲シ猶豫ニ堪ユルヲ能ハズ實際立法上ノ障害ノ如キ  
ハ其認ムル所ニアラズ又此派ノ改革家中ニハ異國政黨ノ  
元素大ニ勢力ヲ占メ國政黨略ノ爲メニ該黨が受ケタル  
一切ノ苦情ヲ忽ニ匡正セント熱心セリ之ニ反シテグレ  
公及ヒ公ノ老年ナル同僚貴族ハ共和主義ヲ避ケテ之ト相  
接スルヲ欲セズ己レノ判斷ニ從テ憲法ヲ完全ニシ其畢生



ノ大目的ハ既ニ之ヲ實行シタリ且此改革ヲ行フニ際シテ  
 自ラ嘗メタル非常ノ危険ヲ回想シテ悚然戰慄シ其過激ナ  
 ル同盟者ガ一向ニ過去ノ成功ヲ貴マス將來ノ危険ヲ虞ラ  
 ズシテ輕躁ニモ國教及ヒ政府ニ第二ノ改革ヲ施サント強  
 請スルヲ見テ大ニ畏懼セリ又公ノ同僚中壯若ニシテ望ヲ  
 屬ス可キ輩ハ現行ノ憲法ヲ以テ自然ニ政治上及ヒ社會上  
 ノ各變遷ニ順應ス可キ妙機ヲ有スル所ノ活法ナリト信シ  
 俄ニ之ヲ改革スルヲ欲セズ此等ノ輩ハ政治家トシテ自ラ  
 卒先シ時代ノ精神ニ合ヒタル寛大ナル政畧ヲ進捗セシメ  
 シコト期セリ然レモ輿論ノ有様ヲ斟酌シ自黨ノ勢力及ヒ  
 反對黨ノ勢力ヲ比較シ安全ニ之ヲ行ハント欲セリ抑々  
 我權力鼎立政體ノ下ニ在テ賢明ナル政治家ガ執レル政略

ハ常ニ此ノ如クナリシナリ擅制者若クハ共和黨ノ外ハ誰  
 レカ直ニ我が意ノ如クセント期スル者アラソヤ自由ハ一  
 般自由市民ノ獨立ナル判斷ヲ容忍スルノミナラズ又之ヲ  
 尊敬スル者ナリ

以上二派改進黨ノ交際上ノ關係ノ如キモ其政治上ノ感情  
 ニ於ケルト同様ニ相隔絶セリ民權黨ハ豪家ヲ以テ組織ス  
 ル一ノ貴族黨ニシテ其慣習緣故自カラ一區畫ヲ爲シ且舊  
 式故格ヲ愛好スルノ情ヲ有セリ左レバラソカシヤ一及ビ  
 ウエストリツヂンク地方ノ土音ヲ以テ語り製造所及ヒ勘定  
 場ノ野鄙ナル動作ヲ爲シ時流外ナル田舎風ノ衣服ヲ着  
 ケタル新出政治家ハ高等ナル養育ヲ受ケタル民權黨政治  
 家ト意氣相投ス可キニ非ス民權黨政治家ハ此輩ノ投票ヲ



求ム然レモ其交際ヲ求メザルナリ此等ノ輩及ヒ一層野鄙ナル其親族ハ優美文雅ナル民權黨大家ノ客廳ニ於テ禮遇ヲ受ク可キニ非ズシテ人民真正ノ支配者タル該黨政治家トハ相隔絶シテ親接ス可ラズ此等ノ輩ハ民權黨政治家ノ志望ヲ鼓勵スト雖モ決シテ其權勢ノ分配ニ與カルヲ得ザルナリ左レバ官職其他政治ニ功勞アリ貴族ニ縁故アルヨリ享有シ得ベキ一切ノ榮譽ハ民權黨悉ク之ヲ專有セリ急進黨ハ王權黨ニ抗シテ政府ヲ贊助スト雖モ自黨ノ有様ハ輕蔑セラレタル政府反對黨ノ有様ト異ナラザルナリ夫レ此ノ如ク感情習慣身代ヲ全ク異ニセル人々ノ間ニ誠實ノ結合アランハ固ヨリ期ス可ラズ故ニ忽チニ嫉妬狐疑ノ情ハ毎回ノ討論ニ現ハレ可否決起立ノ際ニハ常ニ不和ヲ見

ルニ至レリ

愛爾蘭黨ノ議員

宰相黨中ニ分離ヲ起ス可キ今一ノ元素ハチコンチル氏ノ旗下ニ立テル愛爾蘭黨ノ議員是ナリ該黨モ固ヨリ改革家ニシテ王權黨員及ヒ其政略ニ反對スト雖モ政府が愛爾蘭ノ平和ヲ維持センガ爲メニ鎮壓政略ヲ施スニ及ビチコンチル氏ハ殘酷猛惡ナリトシテ政府ヲ非難シ爾來民權黨ヲ痛撃スルト氏ガ曾テ羅馬舊教徒赦免ノ反對者ヲ痛撃セシヨリモ更ニ甚シキニ至レリ

英愛ノ合併後愛爾蘭ヲ代表スル議員ハ其政治區ノ異ナルニ從ヒ或ハ政府黨ニ與ミシ或ハ政府反對黨ニ與ミシ向背一ナラズ此等ノ議員中或ハ民權黨地主ノ勢力ニ因テ選出セラレシ者アリト雖モ其多數ハ新教黨及ヒチレンシ協會



黨ニ屬シ累代ノ王權黨政府ヲ贊助セリ而シテ僧侶及ビ舊  
 教徒協會ハ或ル州郡ニ對シテ新教黨地主ノ從來有セシ權  
 勢ヲ一時奪取スルヲ得タリト雖モ一千八百二十九年ニ於  
 テ四十志ノ「フリーホルド」借地者ノ選舉權ヲ廢セシカ爲メ  
 ニ新教黨地主ハ再ヒ其權勢ヲ恢復セリ然レモ其後速ニ舊  
 教徒赦免條例可決セラレ尋テ選舉制度改正ノ爲メニ選舉  
 者ノ數ヲ増加セシカハ愛爾蘭王權黨ノ勢力玆ニ地ニ墜チ  
 民權黨及ヒ改革家ヲシテ多數ヲ制スルヲ得セシメタリ  
 (按宗教改革後愛爾蘭ニテハ新教黨舊教黨相軋シ英國一  
 千六百八十八年ノ革命ニ際シ舊教黨ノ財產ヲ沒收セシ以  
 來其軋轢益々甚シキヲ致シ舊教黨ハ其失ヒタル勢力ヲ回  
 復セントシ新教黨ハ其得タル勢力ヲ維持セントシ爭鬪止  
 ムトナシ而シテ「チレン」協會トハ新教黨ノ勢力ヲ維持セ  
 ズカ爲メニ一千七百九十五年頃ニ同國ニ起リシ者ニシテ

遂ニ全英國各地ニ非常ノ勢力ヲ振フニ至レリ愛爾蘭ノ人  
 民ハ新教黨ガ勢力ヲ得タルハ英王ウヰリアム三世ノ力ニ因  
 ルト信シ該王ハ初メ「チレン」ノ太子ト  
 云ヒシニ因ミ此協會ヲ斯クハ稱セリ  
 然レモ此等議員ハ愛爾蘭ヲ代表スル者ニシテ英蘭民權黨  
 トハ利害、緣故、感情ヲ異ニセリ故ニ之ヲ以テ改進黨ノ  
 一部ナリトハ認ムル能ハサルナリ愛爾蘭ニ關スル種々ノ  
 議案ニ關シテハ此一派ハ最モ熱心ニ政府ニ抵抗シ又時ト  
 シテハ急進黨ト密ニ相同盟セリ英蘭諸政黨ノ爭論ニ關シ  
 テハ此一派ハ或ハ改革家ヲ助クルノ投票ヲ爲シ或ハ起立  
 ノ際ニハ屢々欠席シ若クハ強請セラレテ始メテ出席シ或  
 ハ時ニ王權黨ニ與ミスルヲサヘアリシ也左レハ其進退及  
 ビ軍略ノ變化シテ常ナキガ爲メニ「グレン」公及ヒ爾後累代



ノ宰相ニ非常ノ煩累ヲ蒙ラシメ且諸政黨ノ強弱相平均セ  
 ル時ニ當テハ此一派ハ議院政治ニ甚シキ妨害ヲ與ヘタリ  
 何トナレハ此一派宰相ニ反對スル時ハ其反對ハ往々甚ク  
 危険ナルヲアリ若シ又宰相此一派ヲ慰解シ満足セシムル  
 時ハ宰相ハヲコシテ屈從シタリトノ非難ヲ免レサ  
 レハ也(按)一千八百三十二年頃ヨリ次第ニ民權黨其他ノ改  
 革家ヲリベラル、即チ改進黨ト稱スルニ至  
レリ原書フ井グト記スルハ民權黨ト譯シリベラル、其急  
漸ト問ハス一般諸派ノ改革家ヲ指シ、フ井グハ往昔ヨリ民  
權主義ヲ唱ヘ當時王權黨ト急進黨トノ間ニ立テテ漸進主  
義ト主張セル一派  
ノ改革家ヲ指ス  
 改進黨斯クテ相分裂セルニ際シ其反對黨ハ相結合シ前途  
 甚ク好望アルニ至レリ僅々ノ頑固ナル王權黨員ハ尙ホ其  
 領袖ニ信認ヲ置カサリシト雖モ自黨ノ前途制勝ノ好望ア

王權黨ノ回復

ルト民權黨ヲ怨惡シ急進黨ヲ恐懼スル甚シキトノ故ヲ以  
 テ囊キニ領袖ノ爲メニ蒙リタル不正ノ記憶モ大ニ消滅セ  
 リ下院ニテハ王權黨ノ數僅少ナリト雖モ該黨ハ改革騒動  
 ノ爲メニ一旦失ヒタル地方ニ對スル權勢ヲ今ヤ再ヒ回復  
 セントスルニ至レリ從來王權黨ノ議員ヲ選出セシ指名選  
 舉ノ城市ハ今ヤ廢セラレ又從來該黨ノ權勢ヲ維持スルノ  
 機關タリシ弊制陋習モ今ヤ破壞セラレタリ然レモ爵位財  
 産權勢人數ノ一大同盟ヲ起サントシ其勢極メテ盛ナリ地  
 主國教黨、法律家ハ當時尙ホ王權黨ノ本城ヲ成セリト雖モ  
 議員選舉ヲ左右スルノ力ヲ失ヒタルヲ以テ今ヤ人民ノ贊  
 助ヲ買ハザル可カラザルニ至レリ故ニ該黨ハ猶豫セズ時  
 代ノ精神ニ從ハンヲ勉メタリ王權黨固有ノ主義ヲ唱フル



王權黨保守黨

トナル

ガ如キハ遙ニ時勢ニ後レタルコニシテ人民ハ固ヨリ之ヲ排斥シ王權黨モ亦自ラ之ヲ擲棄スルニ至レリ今ヤ知識普及開化進歩ノ時運ナルヲ以テ王權黨モ其激黨ト相競進シテ改良政略ヲ施サントスルニ至レリ然レニ人民ノ贊助ヲ得ンニハ先ツ王權黨ナル嫌忌セラレタル名稱ヲ廢セサル可ラス此名稱ハ百五十年前ニ於ケルト同シク非難ノ意ヲ含メルヲ以テ今ヤ該黨ハ之ヲ廢棄シ爾來ハ巧ミニモ保守黨ト云ヘル新名稱ヲ用ヒ其主義トスル所ハ共和黨ノ侵襲ニ對シテ憲法ヲ維持スルニ在リト公唱スルニ至レリ該黨ハ曩キニ施サレタル諸改革ハ議院及ヒ國民ノ抗ス可ラザル興望ニ出テタリトシテ之ヲ容忍シ一層民權的ノ主義ヲ以テ國家ヲ支配セント用意スルニ至

グレート公内閣ノ破裂

レリ即テ制度ヲ改良スルハ容易ニ諾ス可シト雖モ之ヲ破壊シ若クハ改造スルハ決シテ諾ス可カラズト唱フルニ至レリ該黨ガ斯クシテ新タニ執リタル主義ハ能ク時代ノ精神ニ適合セリ古キ王權黨ノ贊助ヲ得ルハ固ヨリ該黨ノ必期シ得可キ所ナリ而シテ急進黨ガ過激ノ說ヲ唱ヘ人民ヲシテ共和主義ヲ恐怖セシメシガ爲メニ該黨ハ更ニ新同盟者ノ加入ヲ得タリ該黨ハ時運日進ノ刺激ヲ受ケテ之ニ從ヒタルヲ以テ王權黨從來ノ狹隘ナル主義ヲ忌避シタル熱心敢爲ノ士ヲ大ニ慰解スルヲ得タリ此時ニ當リ民權黨ノ困難ハ益々増加セリ一千八百三十四年五月スタンリイ氏ジョーグラハム氏リチモンド公ライボ



ン公等ハ愛爾蘭寺院歳入處分ノ問題ニ關シ議同僚ト相容  
 レズシテ内閣ヲ退キ爲メニ殆ト内閣ノ破裂ヲ起サントセ  
 リ而シテ分離ノ原因タル愛爾蘭寺院歳入處分ノ問題ハ其  
 分離セル内閣員ヲシテ保守黨ニ移ラシムルノ傾向アリキ  
 スタンリー氏及ヒシエーグラハム氏ハ宰相黨ノ席ヲ去リテ  
 樓梯ノ下ニ座ヲ占メタリ二氏ニ屬セル黨友ノ數ハ僅少ナ  
 リシト雖ヒ其才能及ビ人ト爲リノ俊秀ナルヲ以テ將來保  
 守黨ニ大利ヲ與フルノ望ヲ示セリ而シテ七月ニ至リグレ  
 ー公職ヲ辭セシヲ以テ政府全ク破裂シ議院改革ノ内閣茲  
 ニ至テ全ク斃レタリ

一千八百三十  
 四年乃至同三  
 十五年ロベル

トピール氏ノ  
 一時ノ執政

世俄ニ之ヲ罷免セリ此事ヤ急遽ニ出デ且失策タルヲ免レ  
 ズシテ之ガ爲メ諸派ノ改進黨員ハ再ヒ相結合シテ當ル可  
 ラザル反對黨ヲ組織シタリ而シテ代テ首相トナリタルロ  
 ベルトピール氏ハ寛大ナル改革政略ヲ施ス可キヲ約シ以  
 テ反對黨ノ武器ヲ奪ヒ且人民ノ歡心ヲ買ハント勉メタリ  
 ト雖ヒ其甲斐ナカリキ而シテピール氏大ニ改革政略ヲ唱  
 ヘシヲ以テ従前ノ王權黨員ハ之レガ爲メニ恐懼ス可キ結  
 果ヲ生センヲ前見シ之ニ反シテ反對黨ハ所謂ル保守黨  
 ナル者ハ唯假面ヲ蒙リタル従前ノ王權黨ニ過ギザルヲ信  
 シ其黨員其感情其黨規全ク相異ナラスト爲セリ即チ反對  
 黨ハ其折角ニ得タル往年勝利ノ結果ヲ王及ヒ最モ選舉權  
 ノ擴張ニ抵抗シタル人ノ爲メニ奪取セラレ、チ肯ンゼザ



メルボルン公  
執政ノ時ノ政  
黨ノ有様

ルナリ加之ピール氏ノ内閣ハスタンリー公及ヒシエーグ  
ハム氏ノ贊助ヲモ得ルヲ能ハザリキ此二政治家ハ改革黨  
トハ相分離シタリト雖ヒ未タ十分ノ試験ヲモ經ザル保守  
黨ト俄ニ浮沈ヲ共ニスルヲ欲セザリキ  
ロベルト・ピール氏ハ議院ヲ解散シテ以テ己レノ少數黨ヲ  
強メタリ然レヒ聯合同盟セル反對黨ノ爲メニ忽チニ壓覆  
セラレ而シテメルボルン公再ビ内閣ニ入りテ首相トナレ  
リ公ノ此第二回ノ内閣ハ又特ニ民權黨員ヲ以テ組織セラ  
レ異元素ト稱ス可キハ獨リボウソット・タムソン氏ノ一人  
アル耳氏ハ一層急進ナル意見ヲ有セシテ以テ急進黨ノ說  
ヲ内閣ニ代表スル者ト認ラレタリ民權黨ト急進黨ノ相和  
セサルハ從前ニ異ナラスト雖其主義ノ異ナルハ改進黨ト

云メル總稱ノ爲メニ隱蔽セラレ此語ハ直チニ保守黨ナル  
語ト相對シテ二黨ヲ區別スルノ記標トナリ爲メニメルボ  
ルン公ノ黨友英蘭ノ急進黨ヲコンテル氏ノ引率セル愛爾  
蘭黨ヲ同一旗下ニ立タシムルノ結果アリキ  
次キノ六年間右最後ノ二派ハ政體ノ構造ヲ改革センコトヲ  
主張シ民權黨及ヒ保守黨ハ共ニ此說ニ抵抗セリ然ルニ此  
際英蘭ニ於テハ「チャーチスト」黨起リ愛爾蘭ニ於テハ英愛合  
併廢止黨起リ之ガ爲メニ過クル五十年間常ニ王權黨ノ勢  
カヲ強ムルノ効アリシ所ノ共和主義ヲ恐怖スルノ情ヲ世  
間ニ流布シタリ而シテ宰相ハ熱心ニ政治上及ヒ社會上ノ  
弊害ヲ匡正センコトニ力メタリ即チ十分一稅ヲ改正シテ以  
テ英蘭及ヒ愛爾蘭ノ國教寺院ヲ強メ又異國教黨ノ請求ニ



應シテ寛大ニ信仰自由ヲ許シ以テ該黨ヲ慰解シ又合同王國ノ各地方ニ地方自治ノ制度ヲ確立セシメタリ然レニ宰相ハ一方ニハ急進黨ノ爲メニ抗セラレ一方ニハ保守黨ノ爲メニ抗セラレ常ニ煩累ヲ免レサルノ位置ニ立テリ宰相若シ急進黨ノ主義ニ傾クアランニハ共和主義ヲ容ル、者ナリトノ非難ヲ蒙リ若シ又上院僧正國教憲法ニ對スル攻撃ニ抵抗スルアランニハ自黨中ノ過激派ノ爲メニ王權黨ナリトノ非難ヲ蒙レリ加之宰相ガ更ニ憲法ヲ改革スルニ抵抗セシガ爲メニ急進黨ヨリ甚シキ怨恨ヲ受ケ該黨ハ可否ノ起立ニ於テ時ニ反對黨中ニ加入シ又該黨及ヒ「チャーチスト」黨ノ選舉者ハ往々民權黨ヨリモ寧ロ保守黨ヲ選舉セシ程ナリキ政府ノ寛大ナル政略ハ十分ニ承認セラレズ鳴

輿論反動シテ  
保守主義ニ傾ク

謝セラレズシテ苟モ其政略ノ極端ノ急進主義ニ合ハザル時ハ取ルニ足ラズトシテ罵詈雑言セラレタリ抑々宰相黨ノ保守黨及ヒ急進黨ノ中間ニ介立スルアルニ非ズンハ此二黨ハ甚ダ危険ナル軋轢ヲ生セサルヲ得ズ故ニ宰相黨ノ之ヲ緩和スルハ最モ有益ノ職務ナリト雖ヒ而カモ毫モ感謝ヲ受クルコト能ハサリキ此ノ如ク宰相黨ノ政畧ハ國家ノ利益ノ爲メニ最モ緊要ナルニモ拘ラズ逐ニ之ガ爲メニ其人望及ヒ勢力ヲ失フヲ免レサリキ然ルニ保守黨ハ全国各地ニ通シ汲々自黨ヲ組織スルニ盡力セリ其黨ノ構造卓絶ニシテ其周旋者ハ最モ熱心且活潑ナリ故ニ該黨ノ員數及ヒ信任ノ益々増加セルコトハ選舉記録局ノ帳簿上ニ於テ其明證歴々タリトス



保守黨中ニ在テモ黨員數派ニ分レテ互ニ其説ヲ異ニセルハ宰相黨ニ異ナラズト雖モ相協合メ政府ニ反對スルニ急ナルガ爲メニ互ニ其小異ヲ顧ミルニ違アラザリキ極端王權黨極端新教黨ヲレンジ協會黨ノ如キハ曩キニ一千八百二十九年ニ自黨領袖ノ爲メニ欺カレシヲ忘レシニ非ザルナリ又頑固ナル政治家ハロヘルト、ピール氏ガ一千八百三十五年ニ改進黨略ヲ唱ヘ爾來民權黨ノ提出セル國教黨及ヒ異國教黨ニ關スル政略ヲ容忍シタルヲ記憶シ私カニ氏ヲ疑ヘリ領袖ハ人民ノ判斷感情ニ訴ヘツ、アルニモ拘ラズ其黨員中依然頑固ナル古主義ヲ懷ケル者尙ホ甚ク多カリキ

保守黨ノ數派ニ分ル、此ノ如シト雖モ其反對黨ノ位置ニ

立チシ間ハ是ニ因テ其黨勢ヲ弱ハメサリシノミナラズ反テ社會各階級ノ利害宿説冀望ヲ代表セルガ爲メニ一層其黨勢ヲ強メタリ蓋シ羅馬舊教徒赦免條例ヲ取消シ、メイノス[學校ノ寄賦金ヲ廢セ]ント望ム者異國教黨ノ蠶食ノ爲メニ國教危險ナリト信スル者内地ノ産業ヲ保護スルヲ以テ經濟學ノ極意ナリト信スル者苟モ進歩トシ云ヘハ悉ク共和主義ナリトシテ之ヲ恐怖スル者又之ニ反シテ舊教徒及ビ異國教黨ニ十分ノ自由ヲ許スモ爲メニ國教ニ危險ヲ及スノ患ナシト信スル者自由ハ以テ共和主義ヲ防ニ足ルト信スル者内地ノ産業ハ自由交易ノ下ニ在テ最モ繁榮ス可シト信ズル者等ハ相共ニ結合シテ保守黨ニ與ミセリ此等ノ輩ハ共同ノ敵ヲ有スルノ故ヲ以テ相結合シタリ然レ



一千八百四十一年ロベルト、  
ピール氏ノ第二回ノ内閣

其異ナルノ意見ハ速ニ表發セザルヲ得ザリキ  
一千八百四十一年ノ議院解散前ニ保守黨ノ勢力ハ既ニ宰相黨ヲ凌クニ至レリ而シテ該黨ハ新選舉ニ於テ非常ノ多數ヲ得シテ以テ有力ナルロベルト、ピール氏ヲ首相トシテ再ヒ政權ヲ握レリ當時民權黨ハ全ク名聲人望ヲ失ヒシテ以テロベルト、ピール氏ノ事業ノ前途ニ好望アルハピット氏以來ノ如何ナル宰相ト雖モ曾テ之ニ及バザル程ナリキ今ヤ氏ハ囊キニグレンー公ノ内閣ヨリ分離シタルスタンリー公シニイグラーハム氏ライボン公等ノ同盟ヲ得タリ氏ハ古王權黨ノ信任ヲ有セル人ト民權黨ニ讓ラザル改進自由ノ政略ヲ約シタル人トテ共ニ内閣ニ網羅セリ又氏ハ自ラ最モ賢明ニシテ最モ政術ニ適シタル政略ヲ行ハシトテ用意

ピール氏ノ自由交易主義

セリ氏ノ位置ノ好望アルヤ此ノ如シト雖モ而カモ其黨派ノ組織及ヒ國內ノ事情ハ氏ヲシテ權力ヲ保ツ能ハザラシムル者アリテ氏ハ其政略ノ爲メニ忽チニ己レノ權力ヲ失ヒ而シテ其黨派亦全ク消散スルニ至レリ  
前回選舉ノ際民權黨ハ外國輸入ノ穀物ニ定稅ヲ課セントテ主張シ非穀令同盟黨及ヒメルボルン公黨ノ一層改進主義ノ士ハ更ニ廣キ度ニ於テ自由貿易ヲ施サントテ主張セリ而シテ保守黨ハ一昧トナリテ此等ノ政略ヲ非難シ内地産業ノ保護セザル可ラザルヲ唱道セリ該黨ノ勢力ハ専ラ農夫ニ存シ而シテ農夫ハ聊カタリモ保護政策ヲ緩弛スルハ己レノ利益ニ害アリト思惟セリ是ニ於テ乎該黨ハ保護稅問題ニ關シテ改進黨ト干戈ヲ交ヘ而シテ勝利ヲ制シタ



リ然レモ食物欲乏セルト經濟學進步セルトノ爲メニ人民  
 ハ食物ノ供給ヲ増加シ商業及ヒ勞働者職業ノ區域ヲ廣メ  
 シトテ要求シテ止マズ此等ノ要求ハ切迫止ムヲ得ザル者  
 ナレバ如何ニ大勢力アル階級若クハ黨派ト雖モ久シク之  
 ニ抗シ得可キニ非ザルナリ而シテロベルトビール氏ガ漸  
 次ニ自由商業ノ主義ヲ採用シ之レニ因テ財政ヲ救濟シ國  
 内ノ富及ヒ産業ヲ發達セシメ得ルヲ前見シタルハ眞ニ政  
 治家タルニ恥チザルノ活眼ト稱ス可シ然レモ斯ノ如キ政  
 略ハ自黨ノ感情ニ背キ又其利益ニ害アリト想像セラレ且  
 輿論ニ於テモ未ダ十分ニ之ヲ承認スルニ至ラザリシヲ以  
 テ氏ハ其意見ヲ行フニ於テ小心翼々タラザルヲ得ザリキ  
 氏ノ行路ノ極メテ危險ナルハ其未ク新政局ヲ通知セザル

ニ當テ早クモ農夫黨ノ代表者ロッキンガム公ノ辭職シタル  
 一事ヲ以テスルモ之ヲ想フニ足ル可シ一千八百四十二年  
 氏ハ外國輸入ノ穀物ニ關シ昇降法ノ輸入税ヲ維持シタリ  
 ト雖モ尙ホ其禁止ノ効ヲ緩弛セシトニ力メタリ按昇降法  
 物相場ノ高低ニ準シテ輸又氏ガ同年勇膽ニモ海關稅ヲ改  
 入稅ヲ増減スルヲ云フ正輕減シタルガ如キ又翌四十三年カナダ輸入穀物條例ヲ  
 制定シタルガ如キ以テ氏ノ意見ノ大ニ自黨ノ感情ニ合ハ  
 ザルヲ證ス可シ自黨ノ人々ハ既ニ氏ガ保護稅主義ニ誠實  
 ナラザルヲ疑ヒ且非穀令同盟黨ガ益々世上ニ勢力ヲ振ヒ  
 穀令發止ノ激騷ヲ起シ若ク實功ヲ奏スルニモ拘ラズ氏ガ  
 之ニ對シテ疑シキ抵抗ヲ爲セルヲ見テ大ニ驚愕セリ而シ  
 テ一千八百四十五年ニ至リ再ヒ海關稅ヲ改正輕減シテ自



穀令ノ廢止

由貿易ノ政畧更ニ一步ヲ進メタリ是レヲ以テ保護稅黨ハ益々喧囂シテ其ノ疑懼ノ情ヲ公表セリヂスレリハ現時保護稅黨ノ有様ハ一千八百二十八年ニ於ケル新教黨ノ有様ニ異ナラズト明言シ又宰相ヲ非難シテ保守黨政府ハ組織シテ一躰ヲ爲セル僞裝者タルニ外ナラズト明言セリ非穀令同盟黨及ヒ輿論ハ益々穀令廢止ヲ主張シ早晚一大激騒ヲ起スハ避ク可ラザルノ勢ナリシニ此歲穀作不登ニシテ加フルニ馬齡薯凶歉ナリシヲ以テ一層之ヲ促セリ而シテ十二月ロベルト、ピール氏ハ直ニ穀令ヲ廢止スルノ意見ヲ其同僚ニ陳示セリ然レニ地主黨ヲ代表スル内閣ガ直ニ其約束及黨議ニ反セル政畧ニ一致スルアラソハ固ヨリ期ス可ラザル所ナリ故ニ内閣員ハ首相ノ助言ヲ容レズシ

ピール氏ト氏ノ黨派トノ關係

テ首相乃チ其職ヲ辭セリ而シテ曩キニ説ヲ改メテ穀令廢止ノ議ニ與ミシタルジョンラスセル公ハ今ヤ女王陛下ヨリ新内閣組織ノ任ヲ托セラレタリト雖ニ公ハ其托任ヲ果ス能ハザリシヲ以テロベルト、ピール氏再ヒ其職ニ復シ獨リスタンリー公ヲ除クノ外ハ氏ノ以前ノ同僚悉ク氏ヲ贊助セリ而シテ議院ハ保護稅黨多數ヲ占メシニモ拘ラズ遂ニ同政策ヲ全廢スルヲ得タリ政治家トシテハロベルト、ピール氏ハ國民ノ感謝ヲ受ク可キノ大功アリ氏ヲ除クノ外ハ如何ナル政治家ト雖ニ當時斯カル果敢ナル政略ヲ施ス能ハズシテ氏ハ之ガ爲メニ自黨員ノ信任及ヒ朋友ノ親愛ヲ犧牲ニシタリ然レニ政黨ノ領袖トシテハ氏ハ不滅不忠ナリト言ハザル可ラズ即チ一



千八百四十六年ニ於テ一千八百三十九年ニ於ケルト同様ノ事情ヲ再演セル者ナリ往年ノ新教黨ト當時ノ保護稅黨トハ全ク其有様ヲ相同ラセリピートル氏ハ再ヒ政治上ノ必要ニ迫マラレテ國家ニ對スル重大ノ義務ニ動カサレ己レガ從來之ニ抵抗シテ以テ其黨友ノ信任ヲ得シ所ノ政略ヲ今ハ反テ己レヨリ施ササル可ラザルニ至レリ氏ハ再ヒ己レノ黨友ニ抗シ反テ敵黨ノ贊助ニ依頼セザル可ラザルニ至レリ穀令ノ廢止ハ氏ノ政治生涯中ノ最後ノ事業ニシテ非難ト罵詈ノ間ニ之ヲ通過セシメタリ氏ハ曩キニ舊教徒赦免條例ヲ施シタリ然レモ氏ハ初メヨリ熱心ニ之ヲ主張シタルケンニング氏ニ常ニ抵抗セシナリ以テ之ヲ施シタルノ榮譽ヲケンニング氏ニ歸セリ氏ハ今又穀令廢止條例ヲ施

セリ然レモ氏ハ從來常ニ自由貿易ノ布教者リチャードコブデン氏ニ抵抗セシテ以テ之ヲ施シタルノ榮譽ヲコブデン氏ノ質朴ナル能辨ニ歸セザル可ラザルハ氏自ラ之ヲ承認セリ氏ハ國家ノ公益ノ爲メニ其朋友ノ攻撃ヲモ顧ミザリシコナレバ人民ハ氏ノ勇敢無慾ナルヲ賞賛シ氏ガ慈悲ナキ敵ノ鞭撻ノ下ニ呻吟スルニ當テハ氏ヲ敬愛シ氏ガ遂ニ斃レテ己レノ才力ヲ以テ再興シ又己レノ手ヲ以テ再度マデ破壊シタル偉大ナル保守黨ノ零落ノ下ニ埋メラル、ニ及ンデハ實ニ氏ヲ憐憫セリ然レモ政黨ノ親和忠誠ヲ以テ議院政治ノ最要點ト爲ス如キ事情ニ在テハ苟モ此則ニ違フ者ハ當代第一ノ政治家ト雖モ再ヒ政柄ヲ執ル能ハザルニ至ルハ各人ノ知ル所ナリ嗚呼斃レタル此宰相ハ自黨中



政黨領袖ノ責任

最モ拔群ナル僅々ノ信實ナル朋友ノミニ伴ハレテ保守黨ノ本軍トハ永遠相分離シタリ

ロベルト、ピール氏が一千八百二十九年及ヒ同四十九年ニ施シタル政略ノ得失ニ關シテハ各黨政治家ノ是非一ナラザリシト雖モ要スルニピール氏ノ舉動ハ政黨員互ニ相守ル可キノ徳義ヨリスレバ決シテ之ヲ是認ス可ラズト言フハ衆說同斷ナリ抑々領袖ト黨員ノ關係ハ互ニ相信任スルニ在リピール氏ハ己レノ大才ヲ以テ保守黨ニ結合及ビ勢力ヲ與ヘ而シテ其黨員ノ數ハ以テ氏ニ政權ヲ與ヘタリ黨員ハ氏ニ信任ヲ托シ而シテ氏之ヲ受ケタリ他ナシ氏ハ黨員ト相同シキノ感情ヲ抱懷シ且之ヲ代表スレハナリ若シ高所ヨリ事物ヲ達觀シ自ラ悟ル所アラバ國家公益ノ爲メニ

其說ヲ變改シ若クハ擲棄セシテ黨員ニ忠告スルハ則チ可ナリ然レモ氏が特別ノ目的ノ爲メニ托セラレタル權力ヲ黨員ノ一致ヲ經スシテ他ノ目的ノ爲メニ使用スルハ決シテ許ス可カラズ氏ハ有限ノ權力ヲ受ケタル者ニシテ更ニ托ヲ受クルニ非スンバ其權力ノ限界ヲ踰越ス可ラザルナリ氏若シ自黨ノ判斷ニ反シ國家ノ幸福ノ爲メニハ全ク政略ヲ一變セザル可ラズト信スルアラバ其新政略ヲ施スノ業ハ宜シク氏ノ自ラ當ル可キ所ニ非ザルナリ固ヨリ氏ヲシテ己レノ意見ヲ隱蔽シ若クハ打消シムル能ハザル也然レモ其說既ニ黨員ト相合ハザル以上ハ氏ハ最早ヤ己レニ托セラレタル軍隊ヲ指揮スルノ權ナシ然ルニ況ヤ反テ敵軍ノ幫助ヲ求ムルニ於テチヤ夫レ自由國ノ選舉セラレ



ピール氏失權  
後保守黨ノ有  
様

タル首長ハ國家ノ擅制者ニ非ズ己レノ說若シ黨員ト相合  
ハザル時ハ成ル可ク其黨ニ害ヲ及ボサズシテ潔然勇退ス  
可キノミ而シテ黨員ニ對スル德義ニ羈束セラレテ目ヲ行  
フ能ハザルノ政略ハ須ラク之ヲ他人ニ讓ル可キナリ  
保守黨ノ此分裂ハ爾後ノ政黨歷史上ニ緊要ナル影響ヲ生  
シタリ即チ民權黨ハジョーンラスセル公ヲ首相トシテ再ヒ  
政權ヲ握リタルガ是レ該黨ノ勢力増加セシガ故ニ非ズシ  
テ反對黨分裂セシニ因ルノミ保守黨ハ俄然其領袖ヲ失ヒ  
且到底制勝ノ望ナキ保護稅主義ニ束縛セラレタルヲ以テ  
一時ハ全ク勢力ナキニ至レリ今ヤ該黨ハスタンリー公ノ  
指揮スル所トナリシガ公ハ當代第一流ノ辨論家ノ一ニシ  
テグレンー公ノ内閣及ヒピール氏ノ内閣ト第一ニ分離シタ

一千八百四十  
六年乃至五十  
二年ラスセル  
公ノ下ニ内閣  
ニ立チタル民  
權黨

ル人ナリ下院ニ於テハジョーベンチンク公ノ俠忠トチ  
スレリー氏ノ有力機敏銳利ナル能辨トノ爲メニ纒カニ該  
黨ノ勢力ヲ維持スルヲ得タリ蓋シ此ノ二政治家ハ共ニ前  
内閣ノ最モ熱心ナル反對者ニテアリシナリ然レモ該黨ハ  
其黨議紊亂シ精神ナク組織ナク只過去ヲ怨恨シテ未タ將  
來ニ冀望ヲ屬ス可キノ有様ニ至ラザルナリ  
ジョーンラスセル公ヲ首相トシテ内閣ニ立チタル民權黨ハ  
其黨友中ノ一層急進ナル輩ト相合ハザルハ猶ホ該黨ガ彘  
キニメルボルン公ヲ首相トシテ内閣ニ立チタル時ニ異ナ  
ラズ元來該黨ハ一ノ貴族黨ニシテ其施行セント計畫セル  
政治上ノ改革ハ殆ト之ヲ施行シ盡セリ且財政上ノ改革ハ  
ロベルトピール氏殆ト盡シテ復タ大ニ餘マス所ナシ而シ



テ此内閣ハ一時選舉改革ニ關スル一切ノ方案ニ抵抗シタ  
 リト雖モ其位置ニ於テ止ムヲ得ザルヨリ更ニ選舉權ヲ擴  
 張セシメテ約スルニ至レリ左ノパスク親和ナキ政黨ヲ以  
 テ強固ナル政府ヲ組織スルヲ能ハズト雖モ唯保守黨分裂  
 セルノ故ヲ以テシヨシラセセル公ノ内閣ハ六ケ年ヲ保ツ  
 ヲ得タリ然レモ一千八百五十二年ニ至リ曩キニ同僚ト相  
 分離シタルバルマーストーン公ガ一トタビ之ニ觸ルハヤ  
 内閣俄然トシテ斃レタリ  
 保守黨ハ再ヒ權力ヲ握リ得可キノ有様ニ達シ而シテ之ヲ  
 握レリデルビー公ハ該黨ニ制勝ノ冀望ヲ與フルニ足ルノ  
 政治家ナリト雖モ之ヲ輔ク可キ經驗アル政治家ニ乏シカ  
 リキ當時自由貿易ハ益々繁榮シ保護稅政畧ヲ回復スルガ

一千八百五十  
 二年デルビー  
 公ノ内閣

如キハ無論ニ行ヒ得可ラス然ルニ尙ホ該黨ノ大半ハ此政  
 畧ヲ以テ其固有ノ主義トナセリ故ニ公若シ此主義ヲ擲棄  
 スルアランニハ黨友ニ對スルノ誠忠ヲ破ラザル可ラズ若  
 シ依然此主義ヲ固執スルアランニハ己レノ政府必ス顛覆  
 セザルヲ得ズ抑政黨ハ過去ノ記憶ヲ以テ其勢力ヲ維持ス  
 ル能ハスシテ之ヲ維持セシニハ現時ニ適合セル政畧及ヒ  
 目的ヲ有セザル可ラズ乃チ社會現時ノ輿論及ヒ必要ニ投  
 應セザルヲ得ザルナリ然ルニ保守黨ハ實驗上既ニ破壊セ  
 ラレタル陳腐說ヲ墨守シ現時人民ノ感情ヲ満足セシム可  
 キ新主義ハ一モ之ヲ用ヒザリキ故ニデルビー公ハ己レノ  
 任ニ落チタル成功期シ難キ内閣組織ノ業ヲ初メヨリ謝絶  
 セシナランニハ此事反テ保守黨ノ爲ニ利アリシナラン當



時世ノ狀勢未タ該黨ノ爲メニ熟セズ該黨ハ組織ナク準備  
 ナク人民ノ喧囂モナク一定ノ政畧モアラザリケレバ其斃  
 ルハ避ク可ラザルナリ該黨ハ市邑ニ於テハ自由貿易ヲ  
 主張シ州郡ニ於テハ保護貿易ヲ主張シ又該黨中改進黨ハ  
 民權黨ニ一步ヲ乘リ越スノ民權主義ヲ公唱シ又タ該黨中  
 ノ或ル者ハ吾等ハデルビー公ノ徒ニシテ唯公ノ指揮スル  
 所ニ從ハンソミト明言シ以テ自黨ニ危險ナル豫約ヲ爲ス  
 ヲ避ケタリト雖モ更ニ其甲斐ナク選舉ニ於テ敗テ取り止  
 ムヲ得ズシテ保護稅主義ヲ擲棄シ自黨ノ冀望ヲ満足セシ  
 ムル能ハズシテ再ヒ諸派ノ反對黨ヲ相結合セシムルニ至  
 レリ

民權黨及ヒビ

一千八百四十六年ノ保守黨分裂ヨリ如何ナル結果ヲ生シ

トル派アベル  
テーン公ノ旗  
下ニ結合ス

タル乎ハ今ヤ之ヲ見ル可シロベルト、ピール派ノ門人ハ超  
 然トシテ二大政黨ノ外ニ孤立セシト雖モ卓絶ナル領袖ビ  
 ール氏ノ死セシテ以テ今ヤ隨意ニ何レノ黨ヘモ屬シ得ル  
 ニ至レリ此派ノ政治家ハ其才力秀テ政治上ノ經驗ニ富ム  
 ガ故ニ其人數少キモ其勢力ハ甚タ大ナリキ此輩ハ高大ナ  
 ル志望ヲ懷キテ嘗テ挫折セラレズ又未タ満足セラレ  
 シテ其孤立六年ノ久キニ亘リ保守黨トハ千里相隔絶シテ  
 再ヒ相合ス可ラズ且其過去ノ進路及ヒ現時ノ感情ハ之ヲ  
 シテ自然ニ心ヲ改進黨ニ歸セシムルノ傾向アリ故テ以テ  
 アベル、テーン公ヲ首相トシ所謂ルピール黨ト民權黨ト理  
 論急進黨ノ代表者ウリアム、モルスウオルス氏トノ聯立内閣  
 ヲ組織スルニ至レリ即チ此内閣ハケンニング氏派ロベル



ト、ピール氏派クレイ公派ヒューム氏派ヲ共ニ混合セリ今ヤ  
 改進黨ハ保守黨中ノ技倆アル政治家ヲ殆ト悉ク自黨ニ引  
 キ入レ而シテ自黨ノ政治家ハ一人モ之ヲ失フコトナシ二十  
 五年前王權黨中ノ鏘々タル政治家ハ該黨ヲ脱シテクレイ  
 公ト相合シ今又當代第一流ノ政治家ハ保守黨ヨリ民權黨  
 ニ移レリ斯クテ黨派ノ混合ハ我政治制度ノ常則トナレリ  
 從來政治家ヲ分離セシメタル立法上ノ大主義ハ今ヤ確定  
 セラレ興論ハ之ヲ欣諾是認セリ而シテ此等大主義ノ採用  
 セラレタルガ爲メニ派黨ノ結合破レ隨テ各派ノ政治家及  
 ヒ主義ハ互ニ相混和スルニ至レリ  
 才能、政術、議院ノ贊助ニ富メルコトアベルデーン公ノ内閣ノ  
 如キハ近代他ニ之アラズ然レモ各黨混合セルガ爲メニ外  
 此内閣不和ノ  
 爲メニ斃ル

面ノ勢力ヲ加ヘタリト雖モ又之カ爲メニ同僚ノ間ニ十分  
 ノ調和信任ヲ保ツコト能ハザリキピール派ハ同僚中ニ多數  
 ヲ占メ且同僚ヨリモ一層顯官要職ニ當リ其威勢自ラ盛ナ  
 リシヲ以テ民權黨ハ之ヲ猜忌セザルコト能ハズ斯クテ各自  
 ノ感情目的一致セザリシヲ以テ此聯立内閣ヲシテ十分ノ  
 鞏固ヲ得セシムルコト能ハズ左レバ此内閣ハ其不調和ナル  
 トクシミア戦争ノ不幸ナル事件トノ爲メニ二年前後ニシ  
 テ斃レタリ

ピール派トパ  
 ルマースト  
 ン公トノ分離  
 是ニ於テ平アベルデーン公ニウケツスル公シヨン、ラスセル  
 公ハ内閣ヲ退キパルマーストーン公新内閣組織ノ業ヲ托  
 セラレタリ而シテ此新内閣組織セラル、ヤ否ヤゼームス、グ  
 ラハム氏、グッドストーン氏、シドニー、ヘルベルト氏等ハピ



一ル派ノ同僚ニ續キテ忽チニ辭職セリ故ニ此等政治家ト  
 改進黨トノ間ニ成リシ近時ノ結合ハ茲ニ至テ全ク破壊セ  
 ラレ政府ハ再ヒ一層狹隘ナル民權黨ノ基礎ニ依ラザル可  
 カラザルニ至レリラスセル公ハシドニ、ヘルベルト氏ノ  
 殖民局長官ヲ辭スルニ及ビ一旦再ヒ内閣ニ入リシト雖モ  
 ウィンナノ媾和商議後ハ又去リテ反對黨ノ位置ニ立テリ而  
 メ急進黨就中非戰黨ハ痛ク宰相ヲ攻撃怨恨シ又ピール派  
 モ宰相ト相去リ其處置ヲ批評シ之ト相親和セザリキ  
 宰相黨ハ再ヒ組織ヲ失テ不調和ナル元素ヲ露出セリ然ル  
 ニ反對黨ハ改進黨中ノ何派タルヲ問ハズ之ト相聯合シテ  
 共ニ政府ヲ攻撃セント跨立シテ其機ノ到ルヲ俟テリ然レ  
 モ宰相ノ戰爭政略實効ヲ奏シ及ヒ露士亞ト平和ノ條約成  
 諸黨結合シテ  
 宰相ニ抵抗ス

リシヲ以テ其位置強固トナリ容易ニ之ヲ抜ク可ラザルニ  
 至レリ左レバ爾後二年間ハ如何ナル方位ヨリ攻撃ヲ受ク  
 ルニモ拘ラズ宰相依然其本據ヲ維持スルヲ得タリ然レモ  
 一千八百五十七年支那ニ於テ戰爭破裂スルニ及ヒ宰相ハ  
 諸黨聯合ノ攻撃ヲ受ケ遂ニ敗ヲ取リタリ宰相ハコブデン  
 氏及ヒ其黨友ノ攻撃ヲ受ケ又ジョンラスセル公ノ攻撃ヲ  
 受ケ又以前ニ其同僚タリシピール派ノ攻撃ヲ受ケ又保守  
 黨全軍ノ攻撃ヲ受ケタリ前ニハ諸黨聯合ノ爲メニ強固ナ  
 ル政府ヲ組織シ今ハ又諸黨聯合ノ爲メニ俄ニ強固ナル反  
 對黨ヲ組織セリ然レモパルマーストーン公ハ斯ク偶然ニ  
 成レル不調和ナル同盟兵ニ屈服ス可シトハ期ス可ラズ左  
 レバ公ハ大膽ニモ議院ヲ解散シテ人民ニ訴ヘ以テ各派ノ



パルマースト  
ロン公ノ人望  
及ヒ公ノ俄然  
ノ失權

敵ヲ悉ク敗リタリ  
新撰議院ニ於テハ公ハ一箇國民黨ノ宰相トナレリ一般人  
民ハ深ク公ヲ信任シ互ニ大ニ其説ヲ異ニスル人々ト雖ヒ  
共ニ公ノ智畧慮謀ニ信任ヲ置ケリ公ハ一般人民ノ敬愛ヲ  
博シ宛モ一百年前ウヰリヤムビツト氏ノ有様ニ異ナラズ然  
レ選舉ニ於テ公ノ爲メニ敗ラレタル諸黨派ハ其敗北後ハ  
益々憤呼激騒シ公ノ權勢盛大ナルヲ疾惡シ苟モ宰相ノ軍  
ニ弱點ヲ見ルアラバ忽ニ乘シテ之ヲ斃サント注意毫モ怠  
ルナシ而シテ一千八百五十八年夫ノ「ナルシ」徒黨ノ事ヨ  
リ佛國ト我國ノ間ニ紛議ヲ起シ且此事不幸ニシテ地方制  
度上ノ或ル議案ト相連係セシヲ以テ公爲メニ利ヲ失ヒ前  
回ノ議院ニ於テ相同盟シテ公ニ抵抗シタル諸黨ハ再ビ其

一千八百五十  
八年アルビ  
公ノ第二回ノ  
執權

勢ヲ合シテ公ヲ壓覆スルニ至レリ  
此等諸黨ハ宰相ニ反對スルノ投票ヲ爲スニ於テハ凡テ相  
一致シタリト雖ヒ相親和シテ共ニ政府ニ立チ得可シトハ  
固ヨリ想像ス可ラズ故ニ諸黨中最強ノ黨ナル保守黨ハ再  
ヒアルビ公ヲ首相トシテ内閣ニ立テリ過クル數年間ノ  
事件ハ政府ニ於テ諸黨派ノ混合シ又特別ノ場合ニ當テハ  
反對黨ニ於テモ諸黨派ノ混合セシヲ證ス因テ當時各黨  
ノ關係ハ攪擾セラレテ一定セズ而シテ各黨ノ主義ニ至テ  
モ同シク一定ナラザルヲ見ル可シ從來各黨ヲ區畫シタル  
根本ノ大主義ハ殆ト消滅シ各黨共ニ寧ロ自黨固有ノ主義  
ヲ棄テ、輿論ヲ尊敬セリ保守黨ハ各派改進黨ノ全軀ニ比  
スレバ一百人前後ノ少數ニシテ制勝ノ唯一ノ期望ハ反對



黨ノ意見相合ハザルト輿論ヲ満足セシム可キ政略ヲ施ス  
 トノ二事ニ在ルノミ故ニ憲法上ノ改革ニ抵抗スルハ從來  
 保守黨固有ノ主義ナリシト雖モ今ヤ該黨ハ政治上止ムヲ  
 得ズトシテ議院改革ヲ承認シ其他輿論ニ從フヲ勉メタリ  
 該黨執權後第一回ノ議院ニ於テハ唯反對黨ノ分裂セルガ  
 爲メニノミ其位置ヲ維持シ印度議案ヲ提出スルニ及ビ内  
 閣殆ト斃レントシタルモ反對黨ノ一員シヨシラスセル公  
 ノ機巧ナル軍略ノ爲メニ此危險ヲ免ル、ヲ得タリ(按)印度  
 印度商會ヲ廢シ該國ヲ英王又内閣ガケンニング公ノ處置  
 ノ直轄ニ歸セシムルノ議案又内閣ガケンニング公ノ處置  
 ヲ咎責スルノ公信ヲ發スルヤ爲メニ再ヒ斃レントシタル  
 モエレンボロー公辭職セシト且有力ナルブレイト氏(按)ブレイト  
 グラハム氏其他反對黨員ガ反對黨ヲ去リシニ因リ其危險

一千八百五十  
 九年バルマ  
 ストーン公第  
 二回ノ執權

ヲ免ル、ヲ得タリ(按)ケンニング公ハ當時印度商會ノ總裁  
 ニ於テ印度事務監理ニシテ又エレンボロー氏ハ此時ノ内閣  
 局長タリシ人ナリ左レハ内閣ノ實力如何ニ脆弱ナルモ  
 諸派反對黨ガ互ニ小異ヲ讓リテ相親和スルマデハ斃ル、  
 ノ恐ナキコト明ナリトス然ルニ次回ノ議院ニ於テ此ノ同盟  
 成リ諸派改進黨ハ相合シテ宰相ノ議院改革案ヲ不可トス  
 ルノ決ヲ爲セリ  
 是ニ於テ乎宰相ハ議院ヲ解散シテ人民ニ訴ヘタリト雖モ  
 其益ナカリキ保守黨固有ノ主義ハ殆ト世ニ亡ヒタルヲ以  
 テ今ヤ輿論反動シ人民漸クニ憲法上ノ改革ヲ忌ムニ際シ  
 テモ該黨ハ此機ニ投シテ其主義ヲ發揚スルヲ能ハズ而シ  
 テ該黨ハ反テ民權主義ノ政略ヲ取リタレモ反對黨ノ爲メ  
 ニ更ニ乘リ越サレテ遂ニ斃レタリ而シテ該黨ノ斃ル、ヤ



諸黨派ノ混合

パルマーストーン公再ヒ政權ヲ握リ悉ク各派ノ改進黨ヲ  
 代表スル一内閣ヲ組織セリ  
 諸黨派相混合シ異主義相和シ若クハ相讓ルハ依然トシテ  
 然リ一千八百五十九年保守黨政府ハ反テ議員改革説ニ一  
 致セザルヲ得ズ而シテ一千八百六十年該黨ニ代テ立チタ  
 ル改進黨内閣ハ反テ議院改革説ヲ擲棄セザルヲ得ザリキ  
 過クル三十年間立法上ノ改革行ハレ社會ノ有様進歩シタ  
 ルヲ以テ各黨ノ感情互ニ相近邇スルニ至レリ大本ノ主義  
 ハ既ニ確定セラレ法律上及ヒ憲法上ノ著大ノ弊害ハ既ニ  
 匡正セラレタリ各黨カ曾テ火花ヲ散ラシテ争ヒタル戰地  
 ハ今ハ各黨ノ平和ニ共有スル所トナレリ輿論ニ從ハシガ  
 爲メニハ保守黨ト雖ヒ改進黨主義ヲ唱ヘザルヲ得ズ輿論ニ

改進黨及ヒ保守黨ノ異同ノ要點

飛ヒ越ヘザラシガ爲メニハ極端急進黨ト雖ヒ噤黙シ若ク  
 ハ着實主義ヲ唱ヘザルヲ得ザルニ至レリ  
 保守黨領袖ト改進黨相黨領袖ノ間ニハ其政略及ヒ公唱ス  
 ル主義ニ於テハ甚タ異ナル所アラズ然レヒ其黨員ノ間ニ  
 ハ尙ホ政治上ノ感情大ニ同シカラザル者アリ保守黨員ノ  
 過半ハ立法上ノ改革ヲ見テ之ニ抵抗スル能ハズ止ムヲ得  
 サルノ勢トシテ從フト雖ヒ私カニ之ヲ嫌忌憎惡シ心中決  
 シテ喜ブニ非ス其狀譬ヘハ被告人ガ上訴ヲ爲スニ所ナク  
 止ヲ得ズシテ法廷ノ判決ニ從フガ如シ改革ハ該黨ノ主義  
 歴史ニ反シ外面從フト雖ヒ内心服スルニアラズ夫レ已レ  
 ノ意志ニ背キ強ヒテ他説ニ從フハ尙ホ以前ト同一ノ説ヲ  
 持スル者ナリ真正ノ保守黨ハ默スト雖ヒ反對黨ノ議論ヲ



聽キ自黨領袖が其議論ヲ容レタルヲ視テ眞ニ悟ル所アリ  
 シニハ非ズシテ世運ノ澆季ニ赴ケルヲ歎息シ人民ノ斯ク  
 マデニ頑逆剛戾ナラザリシ昔時ヲ追慕シテ不平ノ情ニ堪  
 ヘザルナリ  
 是ニ反シ改進黨ハ初メヨリ自由及ヒ進歩ノ主義ヲ唱へ過  
 去ニ自説ノ採用セラレタルヲ祝シ將來ニ自説ノ擴張セラ  
 レンヲ望ミ輿論ニ從フヨリモ寧ロ之ヲ導キ時代ノ精神感  
 情ヲ代表シ氣誇リ意滿チテ固ク其主義ヲ維持セリ保守黨  
 ハ依然權力及ヒ舊法故格ニ心ヲ傾ケテ變化ヲ厭ヒ改進黨  
 ハ人民ノ自治及ヒ進歩ノ政略ト相親和セリ保守黨ハ人民  
 ノ從順及ヒ満足ヲ買フニ必要ナル自由政畧ハ止ヲ得ズ之  
 ヲ承諾シ改進黨ハ人民ニ信ヲ置キ苟モ安寧秩序ニ害ナキ

二大政黨ニ合  
 ム諸派

限リハ一切ノ自由政畧ヲ行ハントセリ  
 之ト同時ニ二大政黨ハ諸派ノ黨員ヲ含ミ其互ニ意見ヲ異  
 ニスルコト二大政黨が互ニ其主義ヲ異ニスルニ讓ラズ憲法  
 ヲ貴重スル古派ノ民權黨ハ其同盟者タル共和黨ト説テ同  
 フスルヨリモ寧ロ保守黨中ノ改進黨ト一層其説ヲ同フセ  
 リ又保守黨中ノ有識ナル政治家ハ自黨ノ後陣ヲ成ス頑固  
 ナル王權黨ト説フ同フスルヨリモ寧ロロベルトピール氏  
 ノ勇敢ナル門人ト一層其主義ヲ同フセリ  
 同黨員中互ニ説ヲ異ニシ反對黨員中互ニ説ヲ同フスルコ  
 此ノ如クナルヲ以テ世勢ニ注目スル人ヲシテ將來各黨ノ  
 一層混和合併スルニ至ランコトヲ想像セシメタリ自由ノ選  
 舉行ハレシヨリ各階級人民ノ千種萬様ナル利害及ヒ感情



ヲ悉ク議院ニ代表スルニ至レリ而シテ人民ノ意志ヲ實行セシト勉ムル最モ有力ナル政治家ハ國民黨ノ議員ナリト仰カレ人民ハ斯カル政治家ヲ爲メニ支配セラレシテ願フ可シ人民ノ過半ハ自由及ヒ善良ナル進歩ヲ愛スト雖ヒ共和主義ハ之ヲ嫌惡シ最早ヤ政黨ノ爭論ニハ左マテ頓着セザルニ至レリ一政黨ヲ助ケ他政黨ニ對シテ勝利ヲ得セシムルニ熱心セシヨリハ寧ロ主治者タル榮職ニ最モ適シタル政治家ヲシテ善良ニ國家ヲ支配セシメシヲ欲スルニ至レリ

以上政黨ノ歴史ヲ記述シ各黨ヲ區分スル主義各黨ノ勝敗各黨ノ聯合及ヒ分裂ヲ論シタルヲ以テ茲ニ政黨ノ性質及ヒ組織ノ大ニ變化セシヲ看過ス可ラズ而シテ此等變化

政黨ノ性質及  
ヒ組織ノ變化

往時豪族ノ結  
合

ノ最モ緊要ナル者ハ選舉制度改良セラレシト恩人擅恣ノ弊害匡正セラレシトニ因リテ起レリ

政躰ニ關シテ其說ヲ同ウシ且國王ト相和スル所ノ諸豪族ノ結合ニ因テ容易ニ議院ノ多數ヲ制シ得タル往時ニ在テハ政黨組織ハ主義政略人望等ノ爲メニ起リシニ非ズ寧ロ官職爵位年金等ノ分配ニ關スル諸豪族相互ノ協議ニ因テ起リシ者ト云フ可シ國家ヲ支配スルハ國王及ヒ貴族ニシテ下院ニ在ル其黨友及ヒ指名者ハ寛大ナル恩賞ヲ受ケテ自黨ニ忠誠ヲ盡セリ國王及ヒ大貴族ハ一切ノ榮譽利益ノ泉源ナルヲ以テ選舉者ニ束縛セラレザル輩ハ勢ヒ國王及大貴族ヲ仰望セザルハナシ選舉制度改革セラレタル久シキ以前ニ在テ議院ノ多數ヲ買ハシガ爲メニ恩典ヲ濫與ス



ル弊害ノ最モ甚シキ者ハ既ニ大ニ匡正セラレ官位及ヒ年金ノ數減少セラレ王室年俸金ノ支出管理セラレ其他數多政治上ノ弊習掃除セラレタリ然レ夫ノ自選ノ城市協同存セシ間ハ政黨組織ハ主義及ヒ意見ノ異同ヨリ起ラズシテ寧ロ親族上ノ縁故及ヒ利害ニ因テ起レリ而シテ議院改革ノ爲メニ大ニ政黨ノ此組織法ヲ變シタリト雖モ尙ホ全ク之ヲ除キシニハ非ズ豪族ノ勢力ハ往時ノ如ク擅恣ナラズト雖モ尙ホ甚タ強大ナルヲ失ハズ我政躰ハ一層人民的ノ元素ヲ加ヘ爲メニ其活力ヲ増加シタリト雖モ社會ノ有様ハ根底ヨリ一變セシニアラズ豪族舊家ハ爵位及ヒ祖先傳來ノ財産ヲ有スルガ故ニ諸權力鼎立ノ政府ニ在テ其威勢自ラ振ヒ少クモ其當有ノ權力ハ決シテ之ヲ失ハズ然レ

ハ貴族ハ次第ニ社會ノ大勢ニ迫マラレ其有スル權力ヲ民權主義及ヒ公利公益ノ爲メニ使用セサル可カラザルニ至レリ即チ無責任ノ主治者トシテ意ノマヽニ人民ヲ支配スルヲ得ズシテ身高位ニ在リナガラ尙ホ人民ノ爲メニ服事セザル可ラザルニ至レリ

當時政務ハ一  
種ノ專業ナリ  
シ

又選舉制度ノ改革及ヒ恩典施與ノ制限ハ他ノ點ニ關シテ同様ニ著大ナル影響ヲ政黨ノ組織上ニ生シタリ抑々議院ノ多數ヲ買フテ國家ノ政權ヲ執レル豪族ハ己レニ代テ政海ヲ經營ス可キ有力ナル助手ヲ要ス議院ヲ指揮セザル可テズ反對黨ノ政治家ト戰ハザル可ラズ頓才ヲ以テ外國ノ公使ヲ抑ヘザル可ラズ財政ヲ整理節約セザル可ラズ陸海軍ヲ調度セザル可ラズ自由ナル人民ノ判斷ヲ満足セシメ



ザル可ラズ然レモ國王ノ威力及ヒ施恩權ヲ掌握スル豪族  
 ハ往々討論ノ能力ナク評議會ニ於テハ人形ノ如ク意見書  
 及ヒ外交文書ヲ草スルニ於テハ愚人ノ如キヲアリ而シテ  
 廣大且自由ナル我國ノ如キハ斯カル人ノ能ク支配シ得ル  
 所ニ非ザルナリ故ニ己ノ親者從者ニ與フ可キ恩典ノ幾  
 分チ省キテ之ヲ他ノ有力ナル士ニ與ヘ以テ其能辨ト政才  
 ヲ鼓舞獎勵セリ此等ノ執權者ハ有力ニシテ而カモ貧窮ナ  
 ル者ヲシテ毫モ選舉ノ費用ナクシテ議院ニ坐席ヲ占ムル  
 ヲ得セシメ又官職恩給金及ヒ年金ヲ與ヘ一切ノ困難ナル  
 政務ニ當ラシメテ以テ其才能及ヒ志望ヲ利用スルヲ得ル  
 ナリ左レバ政務ハ名譽財産ヲ博ス可キ直線ノ道路ニシテ  
 志アル者ノ渴望措ク能ハザル職業トナレリヲキスフォルド、

クムブリッジ、エトン、ハルロウ、ウエストミンスター學校ノ優等  
 生ハ日夜之ヲ想フテ曾テ忘ル、能ハザルナリ英智能辨ノ  
 士ハ政府ノ最モ顯榮ナル位置ニ立タンヲ望ミ行政ノ才ア  
 リ實務ノ能アル人ハ利益アレモ而カモ左マデニ顯榮ナラ  
 ザル各省局ノ官職ヲ以テ足レリトセリ此等ノ人ハ少年ノ  
 時ヨリ官吏及ヒ議員ノ事務ニ熟練シ政黨ノ組織ヲ固定ス  
 ルニ於テ最モ有用ナル幹旋者ナリトス又此等ノ人ハ選舉  
 者ノ意志ノ爲メニ束縛セラレ、ナク選舉爭論ノ狂騒ト危  
 險ヲ免ル、ガ故ニ其才能及ヒ氣力チ一ニ國家ノ政務ト自  
 黨ノ利益ニ歸スルヲ得ルナリ夫ノ赫々タル騎兵士官ナル  
 チヤタム公ノ如キモ有名無實ナルチールド、サラム城市ノ  
 代議士トナリテ其政治上ノ大進路ヲ始メシナリ(按)チヤタム  
 公ハ初メ



騎兵士官タリシナリ又ナールド、サラムノ城市ハ有名無實  
 ノ城市ニシテ當時該城市ノ選舉權ハチャタム公ノ親族ノ所  
 有ニ屬 又ボルク氏ノ如キモ其大才ニ適シタル舞臺ニ入ル  
 テ得タルハ全クロッキンガム公ノ庇蔭ニ因レリ又ウイリア  
 ムピット氏ノ如キモゼームス、ロウサー氏ノ愛顧ニ因リ微  
 小ナルアツプレビー城市ノ代議士トナリテ議院ニ入ルヲ  
 得タリ又氏ノ競争者フックス氏ノ如キモ齡尙ホ十九歳ナ  
 ルニ當リミドハースト城市ノ隨意ナル撰擧ニ因テ其志望  
 テ達ス可キノ途ニ就キタリ又ケンニング氏ノ如キモピッ  
 ト氏ノ盡力ニ因リニユポルト城市協同ノ選舉ヲ得テ初メ  
 テ政治界ニ入レリ蓋シ斯カル事ヲ爲シ得タルハ衰頹セル  
 城市ノ一人若クハ少數人ノ所有ニ屬セシ者アリシガ爲メ  
 ニシテ議院改革條例制定以前ニ於テノミナラズ其以後ニ

於テモ此等ノ實例ヲ引證シテ斯カル城市ヲ存スルツ利ア  
 ルヲ説キシ者多カリキ固ヨリ今日ニ至テハ斯カル城市ノ  
 存セザル可ラザルヲ主張スル者稀レナリト雖モ其存セシ  
 ガ爲メニ數多ノ大才アル人ヲ政海ニ引クテ得タルハ大ニ  
 舊選舉制度ノ弊害ヲ償フノ一事タルハ之ヲ許サザル可ラ  
 ズ英智ハ遂ニ其支配權ヲ主張シ貴族豪家ハ初メ其恩典ヲ  
 以テ民間ヨリ引擧ケタル大才アル人ニ其權力ノ幾分ヲ分  
 與セザル可ラザルニ至レリ而シテ斯ク民間ヨリ出デシ政  
 治家ハ其大才ヲ以テ貴族政治ニ光彩ト人民的ノ精神ヲ加  
 ヘタリ加之斯カル政治家ハ概テ政府最高ノ位置ニ立ツテ  
 得テ領地貴族ガ自ラ政務ヲ指揮セシト冀望シタルハ甚々  
 稀レナリ夫ノロッキンガム公ハ身貴族ノ榮位ニアルガ上ニ



其人物ヨリスルモ主義ヨリスルモ民權黨ノ公認セラレタル領袖ニシテ自ラ首相ノ職ニ就キシコトニ及ヘリ然レトモ齊シク首相ノ職ニ就キシ所ノグラフトン公及ヒポルトランド公ノ如キハ唯名ノミノ首相タルニ過キザリキ此外ニ豪族ノ長ガ首相トナリシハ獨リシエルポルン公ノ一人アルノミ而シテ此等數例ヲ除クノ外ハ一千七百六十二年ニユウケッスル公ノ退職ヨリ一千八百五十二年アルビト公ノ就職ニ至ルマデハ領地貴族ガ首相トナリテ國家評議會ノ牛耳ヲ執リシハ一回モ之アラザリキ且貴族ノ專有スル上院ニ於テステ討論上ノ指揮ヲ司ルハ卓絶ナル法律家若クハ其他新入ノ人ニシテ實ニ貴族仲間ノ智力上ノ勢力ハ此等ノ人々ニ存セリ

貴族ガ民間政治家ヲ容レシハ自由ニ大益アリ

若シ貴族ガ此等大才アル同盟者ト相和スルヲ得サリシナラシニハ英國歴史ノ偉大及ヒ光榮ハ今日ト大ニ異ナリシナランニ幸ニ其相和シタルハ自由ニ對シテ甚々著明ナル誠忠ヲ盡セル者ト云フ可シ且人民ノ自由ハ大才アル政治家ノ爭論ト其寛大ニ民權ヲ親愛セシトノ爲メニ大ニ擴張セラレタリ然レモ此等政治家ガ修飾シタル族權政治ハ元來自由ト相容レザル者ナレバヨージ三世及ヒ四世ノ時代ニ在テ政府黨第一流ノ士ガ其大才ヲ以テ維持セント勉メタル主義ハ後世人民ノ權利自由ニ害アリトシテ非難セラレタル者ナルコトハ決シテ之ヲ忘ル可ラズ且貴族ニ加勢シ貴族ヲ補充シタル此等政治家ノ幫助ヲ得ルコト微リセバ貴族ハ人民ノ知識益々發達シ時代ノ精神愈々進歩スルニ



衰頹セル城市  
廢止ノ爲メニ  
政黨上ニ生シ  
タル影響

際シ彼レノ如ク久シク其勢ニ抗スル能ハザリシヤ疑フ可  
ラズ  
政治生涯ニ伴フ褒賞ハ漸次ニ減少セリ年金及ヒ恩給金ハ  
廢止セラレ官職ハ其數及ヒ俸給ヲ減少シ遂ニ又指名選舉  
ノ城市モ過半掃除セラレタリ從來指名選舉ノ城市ハ貴族  
ノ次男志望アル書生大學校討論會ノ名譽心アル率先者ヲ  
シテ下院ニ入ラシム可キ特別ノ門戸ニテアリシガ今ヤ此  
門戸閉鎖セラレタリ故ニ從前ノ若年ナル候補者ハ一層年  
長ナル者ノ爲メニ壓倒セラル、トトナレリ而シテ此等年  
長ナル候補者ハ銘々己レノ職業ニ熟シテ別ニ新奇ナル職  
業ヲ學フヲ欲セズ政治外ノ事ヲ行テ既ニ名譽財産ヲ博シ  
議院ヲ學校トシ政務ヲ專業トスルニ非ズシテ唯公衆ヨリ

受ケタル委任ニ外ナラズト爲セリ左レバ此等候補者ハ政  
黨領袖ノ愛顧ヲ受クルト否ハ其敢テ意トスル所ニ非ザル  
ヲ以テ自然ニ領袖ヲ崇敬セズシテ寧ロ選舉者及ヒ輿論ヲ  
尊重セリ而シテ斯カル輩ヲ以テ組織スル政黨ニ對シテハ  
決シテ從前同様ノ規律ヲ施ス能ハズ又從前ノ政黨ノ如ク  
其目的チ一ニスル能ハザル也是ニ於テ乎政黨ノ領袖ハ己  
レノ黨友ト其選舉者ガ共ニ可トスル所ノ政略ヲ施シ以テ  
其贊成ヲ買ハント勉ムルニ至レリ即チ政黨ノ領袖ハ從前  
ノ如ク常備ノ手兵ヲ指揮スルニ非ズシテ獨立ナル義勇兵  
ヲ指揮スルノ有様トナレリ而シテ此變化ハ保守黨ニ比ス  
レバ改進黨一層強ク之ヲ感シタリ蓋シ保守黨議員ハ大市  
邑ヲ代表スル者甚ダ僅少ニシテ多クハ州郡地方及ヒ其ノ



他地主黨ニ關係アル城市ヲ代表セリ故ニ黨員ノ性質略ホ  
 同一ニシテ互ニ交際上ノ位置及ヒ期望ヲ異ニスルコト少ナ  
 シ即チ一言以テ之ヲ云ハ、該黨ノ聯盟ハ往時ノ政黨制度  
 ト大異ナキナリ而シテ此事ヤ大ニ該黨ノ勢力ヲ加フルノ  
 結果アリシナリ何トナレバ改進黨ハ其不調和ナル黨員ノ  
 賛成ヲ維ガンガ爲メニ活潑須臾モ止ム能ハズ且屢々其急  
 進派ノ要求ヲ容レザルヲ得ズト雖モ之ニ反シテ保守黨ハ  
 安靜無爲ニシテ自然ニ其勢力ヲ加フルヲ得レバナリ  
 且別ニ無形ナル原因ノ保守黨ノ勢力ヲ加フル者アリ夫レ  
 人ノ五十歳以上ニ達スルヤ保守主義ヲ懷クニ至ルハ自然  
 ノ勢ニシテ是レ實驗ヲ積ミ理論ヲ究ムルガ爲メニ然ルニ  
 非ズシテ年齢ヲ加フルト共ニ氣質ノ因循ニ赴クニ因ルナ

五十以上ノ人  
 自ラ保守主義  
 ニ傾ク

舊政治制度及  
 ヒ新政治制度  
 ノ政治家

リ人此年齢ニ達スルヤ一生經營ノ結果ハ既ニ之ヲ收メ富  
 ミ且榮ユル人ハ己レノ處ル世ヲ以テ甚々善世ナリト思惟  
 シ苟モ變革ヲ行フハ此善世ニ害アラフヲ恐レ又辛苦勤勉  
 シテ成功ヲ得ザリシ輩モ既ニ此年齢ニ達セバ心氣沮喪シ  
 テ更ニ奮進スルノ勇ヲ失フ可シ此等ノ輩ハ力ノ及ハソ限  
 リ經營シタリト雖モ其目的ヲ達シ得ザリシヲ以テ今ハ冷  
 然望ヲ絶テ世事ヲ放擲スルニ至ルナリ而シテ一國過半ノ  
 財産ハ此等保守主義ノ人ニ屬スルナリ  
 政黨ノ組織一變シ隨テ之ヲ指揮スルコト頗ル困難ヲ加ヘタ  
 ルニ相違ナシト雖モ又此新政治事情ハ少クモ政治ノ改良  
 ヲ促シ一層公衆ノ利益ニ注意セシムルノ結果ヲ生シタル  
 ヤ疑フ可ラズ或ハ説ヲ爲スアリ曰ク議院改革條例制定後



政機ヲ司リタル政治家ハ皆舊政治制度ノ下ニ在テ教育セ  
 ラレタル者ニシテ新政治制度ヲ代表スル政治家ハ未ク將  
 來ニ大成ス可キ豫徴ヲ示シタル者アラズト然レモ下院中  
 決シテ若年ナル政治家ナキニ非スシテ議院改革條例制定  
 後ト雖モ領地貴族ガ新出ノ才子ヲ鼓舞獎勵スルノ機會ハ  
 尙ホ多ク存セリ故ニ若シ此等ノ機會ヲ利用セザルアラン  
 ニハ其過失ノ歸ス可キハ人ニ在テ制度ニアラザルナリ今  
 代ノ少年果シテ前代ノ少年ヨリモ志望卑近ニシテ熱心ニ  
 乏シトセン歟其位置及ヒ才能ノ政治生涯ニ適セル人ニシ  
 テ果シテ有益ナル進路ヲ取ルニ必要ナル辛苦損失ヲ辭シ  
 寧ロ安靜娛樂ヲ擇ムアリトセン歟然ラントモハ其非難ハ將  
 タ之ヲ何人ニ歸ス可キ乎請フ吾人ヲシテ文運燦然タル我

社會ノ材料ハ必ス新出ノ辨論家及政治家ノ睡眠セル氣力  
 ナヲ發揚スルアラソナリテ期セシメヨ憶フニ英智志望愛國心ヲ  
 實用セシムニハ今代ノ我社會ホド善キ舞臺ハアラサルナリ  
 且政才ヲ研磨スルノ學校ハ獨リ議院ノミニ非ザルナリ往  
 時ニ在テハ議院ハ少年ノ競馬園雞等ニ耽ルヲ救フノ學校  
 ニシテ議院關外ハ政治上ノ知識及ヒ能力極メテ乏シカリ  
 キ然ルニ爾來智力上ノ教育更ニ普及シ討論其自由ヲ加ヘ  
 テ益々廣ク行ハレ社會其範圍ヲ擴張シテ組織廣大トナリ  
 シカバ幾千ノ人ヲシテ常ニ政治上ノ知識及ヒ行政上ノ才  
 力ヲ練磨スルヲ得セシメ他ノ場所ニ於テ才智ヲ研キ藝能  
 ナヲ修メタル人ハ討論及ヒ行政ニ於テモ忽チニ拔群ノ技術  
 ナヲ現ハスハ今日既ニ其例アル所ナリ然レモ若シ政務ニ練



熟セル宰相ニ乏キガ爲メニ政務ニ害アリトセバ政黨ノ領袖及ヒ獨立ナル選舉者ハ必スヤ國家ノ重職ニ當ル可キ有力ナル人ヲ選出ス可シ且獨立ノ財産ヲ有スル者ノ中斯カル人物ナキニ非ズシテ此等ノ人ハ毫モ豪族ノ愛顧及ヒ其他ノ褒賞ヲ求ムルコトナク唯高尙ナル志望ヲ懷キテ之ヲ遂ゲント欲スルノミ

恩典ハ政黨ノ一機關ナリ

議員ノ有セル官職ノ數絶ヘズ減少セシト同時ニ又一方ニ於テハ歳出増加シ爲メニ政府一般ノ施恩權ヲ増加セシコトハ既ニ之ヲ論シタリ然レモ斯カル變化アリシニモ拘ラズ要スルニ政府ノ施恩權ガ政黨組織ノ支柱タリシハ終始曾テ異ナラザルナリ即チ政權ヲ握レル政黨ハ常ニ恩典ヲ配與シテ以テ自黨ノ利益ヲ進捗シ自黨ノ勢力ヲ固定セリ上

等社會ノ人ニハ高等ノ官爵ヲ與ヘテ以テ其政治上ノ翼賛ヲ賞シ又下等ノ官爵ハ選舉者ノ心ヲ動カスニ於テ同様ノ効力アルナリ抑々政府ガ官爵ヲ以テ選舉者ヲ誘ヒ因テ自黨ノ候補者ヲ選舉セシムルハ狡猾ナル賄賂ノ一手段ナリトシテ立法院ノ久シク知レル所ナリ然レモ公然法律ヲ犯スコナクシテ恩典ヲ施シ以テ過去ノ翼賛ヲ賞シ以テ將來ノ翼賛ヲ買ハントスルハ依然トシテ常ニ行ハレタリ地方官職ノ過半ハ時ノ宰相ヲ賛成スル議員ノ手ヲ經テ分配セラル、所ニシテ議員ハ己レノ權利トシテ之ヲ求メ且受ケ而シテ公然己レノ政治上ノ緣故ヲ強メンガ爲メニ之ヲ分配セリ夫レ宰相黨ノ候補者ニハ斯ノ如キ特權アリテ反對黨ハ虚空ナル名譽アルノミ故ニ選舉者ハ宰相黨候補者ヲ



選舉スルノ已レニ利アルヲ知リ一政黨ノ政權ヲ握ルヲ愈々久シキニ從ヒ選舉者ニ對スル其勢力ハ益々擴張スルナリ。選舉者ハ其感情及ヒ主義ノ異同ニ因テ其黨ヲ異ニスルノ外ニ以上ノ原因ヨリ更ニ政黨ノ區別ヲ選舉者中ニ永續セシムルノ効アリトス宰相黨ハ恩典ヲ受ケ若クハ受ケンコトヲ期シテ相固結シ之ニ反シテ反對黨ハ恩典ヲ受クル能ハザルヲ怨ミ政權ヲ復スルノ望ミ遠キヲ怒リ相固結シテ其後山所ノ宰相黨ニ抵抗シ凡ソ私利心ヨリ發ス可キ熱情ヲ盡シテ自黨ノ領袖ヲ翼賛セリ而シテ反對黨領袖ハ一ニハ己レノ志望ヲ遂グル能ハズ又一ニハ己レノ黨友ヲ賞スルニ由ナキナリ左レバ相競争スル兩政黨ノ主義互ニ近邁シ

競争登用法ノ結果

テ同一ニ歸セントスル時ト雖モ尙ホ私利心ノ爲メニ其互ニ隔絶スルハ殆ト異ナル所ナキナリ。然ルニ近年競争登用法行ハレシヲ以テ古來確立セル政府施恩ノ權ヲ一朝ニ覆ヘサントセリ夫レ公然競争シテ官職ヲ得ルナラシニハ志願者復々宰相ニ對シテ負フ可キノ恩ナシ而シテ印度ノ文官及ヒ醫官陸軍ノ技術師政府ノ或ル省局ノ文官ノ如キハ凡テ試験法ニ因テ任命スルコトナリシヲ以テ宰相ハ全ク其任命ヲ左右スルノ權ヲ失ヘリ然レトモ他ノ省局中有限ノ任命權ヲ宰相ニ托セシ者アルヲ以テ宰相モ一時ハ稍々以上ノ損失ヲ償フヲ得タリ即チ此等省局ノ官吏ニ缺位ヲ生セシ時ハ宰相三人若クハ其以上ノ候補者ヲ指名シ而シテ其中ヨリ最モ優等ナル者ヲ拔擢スル



コトナレリ故ニ官吏ノ數ハ同シクシテ而カモ宰相ハ其施  
 恩權ヲ増加セルナリ固ヨリ三人ノ候補者中二人ハ失望セ  
 ザルヲ得ズト雖モ尙ホ宰相其感謝ヲ期スルノ權アル可シ  
 何トナレハ宰相ハ二人ノ失敗セルヲ歎ス可シト難モ實ニ  
 之ヲ救フニ術ナクレバナリ畢竟其失敗セルハ己レノ學藝  
 足ラザルガ爲メニシテ毫モ宰相ノ罪ニ非ザレバナリ  
 政黨ノ歴史上歎息ス可ク非難ス可キ者多シト雖モ是認ス  
 可ク稱賛ス可キ者更ニ多キヲ見ルナリ吾人ハ人類固有ノ  
 惡情タル怨恨憎惡猜忌及ヒ其他一切ノ不和ノ念ノ政黨上  
 ニ行ハレタルヲ見ルナリ我國民ノ最上位ニ立ツ可キ人物  
 カ外敵ノ如クニ互ニ相痛闘シ不禮ノ言語ヲ放テ罵詈誶謗  
 シ卓絶ナル政治家ノ處置ヲ誤判シ怨恨復讐ノ情ヲ以テ濫

論 政黨利弊ノ概

リニ之ヲ攻撃セシヲ見ルナリ全國民カ忿怒敵對ノ心ヲ以  
 テ沸クガ如ク狂騒セルヲ見ルナリ徒黨心激シテ愛國心ヲ  
 壓倒シ邪望及ヒ私利心ノ爲メニ國家ニ對スル最大ノ義務  
 ヲ忘レシヲ見ルナリ政黨行ハル、ガ爲メニ我政治家ノ一  
 半ハ常ニ政務ノ爲メニ盡ス可ク能ハズシテ其才力如何ニ大  
 ナルモ閑散隱微ノ位置ニ立タザルヲ得ザルヲ惜ムナリ國  
 内第一流ノ人物ガ同心協力以テ共ニ國家ノ幸福ヲ謀ラズ  
 シテ反テ相軋轢爭鬪スルヲ歎スルナリ  
 然レモ又一方ヨリスレバ政黨ナキノ政府ハ擅制政府タリ  
 反對黨ナキノ執政者ハ暴政者タラザル可ラザルナリ而シ  
 テ吾人ノ權利自由ハ大抵皆政黨ノ賜タルハ吾人謹テ之ヲ  
 謝セザルヲ得ズ我祖先及ヒ大主義ノ激烈ナル争鬪ハ遂ニ



自由ノ勝利ニ歸シ止ミタルハ吾人之ヲ祝セザルヲ得ズ政  
 治家相競争スルガ爲ニ非凡ノ雄辨及ヒ高尙ナル感情ヲ煥  
 發シタルハ吾人之ヲ誇ラサル可カラズ非常ノ勇膽ヲ以テ  
 權力ニ抵抗シ非常ノ敢爲不屈ノ精神ヲ以テ民權ヲ確立シ  
 タルハ吾人之ヲ嘆美セザル可カラズ吾人ハ政黨ノ爲メニ  
 國王不當ノ權勢ヲ制限シタルト同時ニ又共和主義ヲ抑壓  
 シタルヲ見ルナリ吾人ハ正理公道ニ黨スル人ノ必ス遂ニ  
 勝ヲ制シタルヲ見テ欣喜ニ堪ヘザルナリ吾人ハ高尙ナル  
 黨派心ノ爲メニ勤王心及ヒ愛國心ニ讓ラザル友誼忠誠克  
 己ヲ養成シタルヲ見テ感嘆止ム能ハザルナリ吾人ハ反對  
 黨ガ國家ニ大益ヲ與ルハ往々宰相黨ノ右ニ出ツルアリテ  
 且其主義ノ公正ナルニ於テハ必ス遂ニ勝ヲ制セザルコトナ

キヲ知ルナリ討論及ヒ演說ノ爲メニ眞理發見セラレ輿論  
 表明セラレ自由人民ヲシテ自治ノ政ニ熟セシメタリ吾人  
 ハ深ク信ズ政黨ハ代議政體ニ缺ク可ラザルノ機關ナルコ  
 ト夫レ各種ノ利害主義理論感情ハ悉ク政黨ニ依テ表明セ  
 ラル、ナリ多數黨勝ヲ制シテ政權ヲ執ルニ相違ナシ然レ  
 ヒ少數黨モ同情ノ味方ナキニ非ズ其主義利害ヲ表明スル  
 能ハザルニ非ズ將來ニ制勝ノ望ナキニ非ザルナリ政黨ノ  
 弊ト利ヲ對照スルコト斯ノ如シ然ラバ則チ其利ノ遙ニ其弊  
 ニ超ユル者アルハ誰レカ又之ヲ疑ハンヤ自由ノ命脈實ニ  
 政黨ニ存スルハ誰レカ又之ヲ爭ハンヤ



明治十五年九月三十日版權免許  
明治二十一年一月廿七日出版

譯者兼出版人  
著作兼發行所

神奈川縣平民

島田三郎

東京麴町區中六番町卅一番地

兵庫縣士族

乘竹孝太郎

東京神田區北神保町七番地

山口縣平民

吉岡盛太郎

東京京橋區三拾間堀一丁目  
貳番地大岡育造方寄留

興論社

東京神田區雉子町卅二番地

發賣元

印刷者

東京秀英舎印刷



外513

---

新 17



~~27~~ 32863  
~~MA98~~

27

1



